

能代市文化財調査報告書第12集

市内遺跡試掘・確認調査報告書

—平成25年度～令和元年度—

2020. 3

能代市教育委員会

序

本書は、能代市教育委員会が平成25年度4月から令和元年12月まで実施した市内遺跡の試掘・確認調査及び小規模発掘調査の報告書です。

能代市には国指定史跡の檜山安東氏城館跡や杉沢台遺跡をはじめ、約300箇所の遺跡が存在しています。これらの埋蔵文化財は、本市の歴史や伝統を理解するうえで欠くことのできない貴重な資料であり、これを保護し次世代へと継承していかなければなりません。一方で、豊かで快適な生活を築くための各種開発事業が市内各地で行われており、開発と埋蔵文化財保護の調整を図ることが急務となっております。

本書は、本市がこれまで農業基盤整備事業や商業開発などの各種開発事業に対応し、遺跡の有無や詳細を確認するために実施してきた試掘調査の成果をまとめたものであり、埋蔵文化財の基礎資料のひとつとして活用していただければ幸いに存じます。

刊行にあたり、調査にご協力いただきました関係各位の皆様に深く感謝申し上げますとともに、今後も本市の埋蔵文化財の保護につきまして、ご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年3月

能代市教育委員会

教育長 高橋 誠也

例 言

- 1 本報告書は、平成25年4月から令和元年12月にかけて、能代市教育委員会が実施した遺跡の試掘・確認調査及び小規模発掘調査の報告書である。
- 2 平成25年度、28～30年度、令和元年度の試掘・確認調査は、国庫補助金、県補助金の交付を受けて実施した。
- 3 調査は、能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課職員が担当した。
- 4 本書は、調査担当職員の調査報告を山崎が再構成し、編集した。
- 5 本報告書に使用した地図は、能代市管内図(1/50,000)、秋田県遺跡地図情報(1/25,000)及び事業者から提供された工事用図面である。
- 6 調査にあたっては、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室よりご指導をいただいた。
- 7 調査に関する全ての資料は能代市教育委員会が保管している。

凡 例

- 1 本報告書挿図中に使用した土色表記は、農林水産省水産技術会議事務局、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帳』によった。
- 2 挿図の縮尺と方位は不統一であり、それぞれ挿図中に示した。

目 次

序

例言・凡例・目次

第1章 事業の概要・・ 1

第2章 調査の記録

第1節 試掘・確認調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

(1) 平成25年度の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

(2) 平成26年度の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

(3) 平成27年度の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

(4) 平成28年度の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

(5) 平成29年度の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62

(6) 平成30年度の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83

(7) 令和元年度の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96

第2節 小規模発掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104

(1) 四ツ屋台遺跡発掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104

(2) 小友IV遺跡発掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109

(3) 梯ノ台遺跡発掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 114

抄録

第1章 事業の概要

能代市は秋田県の沿岸北部にあり、奥羽山脈から発し県北部を東西に貫流する米代川の下流部に位置する。市内の地形は、概ね東部が山地・丘陵地、西部は台地・低地となっており、台地には日本海や米代川による段丘が発達しており、多くの遺跡がこの段丘上に所在する。現在、市管内には旧石器時代から近世までの約300箇所の遺跡が知られている。

平成25年度から令和元年度において、周知の埋蔵文化財包蔵地及び遺跡存在可能性地における開発行爲について、事業者との事前協議を経て、40件の試掘調査を実施した。

また、周知の埋蔵文化財包蔵地での土木工事等について、文化財保護法第93条及び第94条の手続き後、秋田県教育委員会の指示に基づき発掘調査または立会調査を実施し、その結果を併せて記載した。

調査主体者	能代市教育委員会
調査体制	能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課
	課長 戎屋 敏 希 (平成25年度)
	村岡 明 正 (平成26～27年度)
	松橋 優 悦 (平成28年度)
	畠中 徹 (平成29～30年度)
	田口 俊 成 (平成30～令和元年度)
参事	袴田 功 (平成26～27年度)
	九嶋 和 郎 (平成27年度)
	吉岡 孝 行 (平成28～30年度)
	山崎 和 夫 (平成25年度 文化係長、平成26～30年度 課長補佐、平成30～令和元年度 参事)
課長補佐	池端 英 子 (平成25年度)
	伊藤 守 (平成25年度)
	大山 位代子 (平成26年度)
文化係	(平成25年度)
公民館文化係	(平成26年～令和元年度)
係長	佐藤 貢 (平成26年度)
	工藤 英 子 (令和元年度)
主席主査	播摩 芳 紀 (平成25～30年度 主査、令和元年度 主 席主査)
主査	本間 将 (平成26年度)
	相澤 真 弓 (平成27～30年度)
	松橋 陽 子 (平成28～30年度)
	高橋 博 也 (平成29～30年度)
	越前谷 拓 (平成29～令和元年度)
	舘岡 泰 樹 (令和元年度)

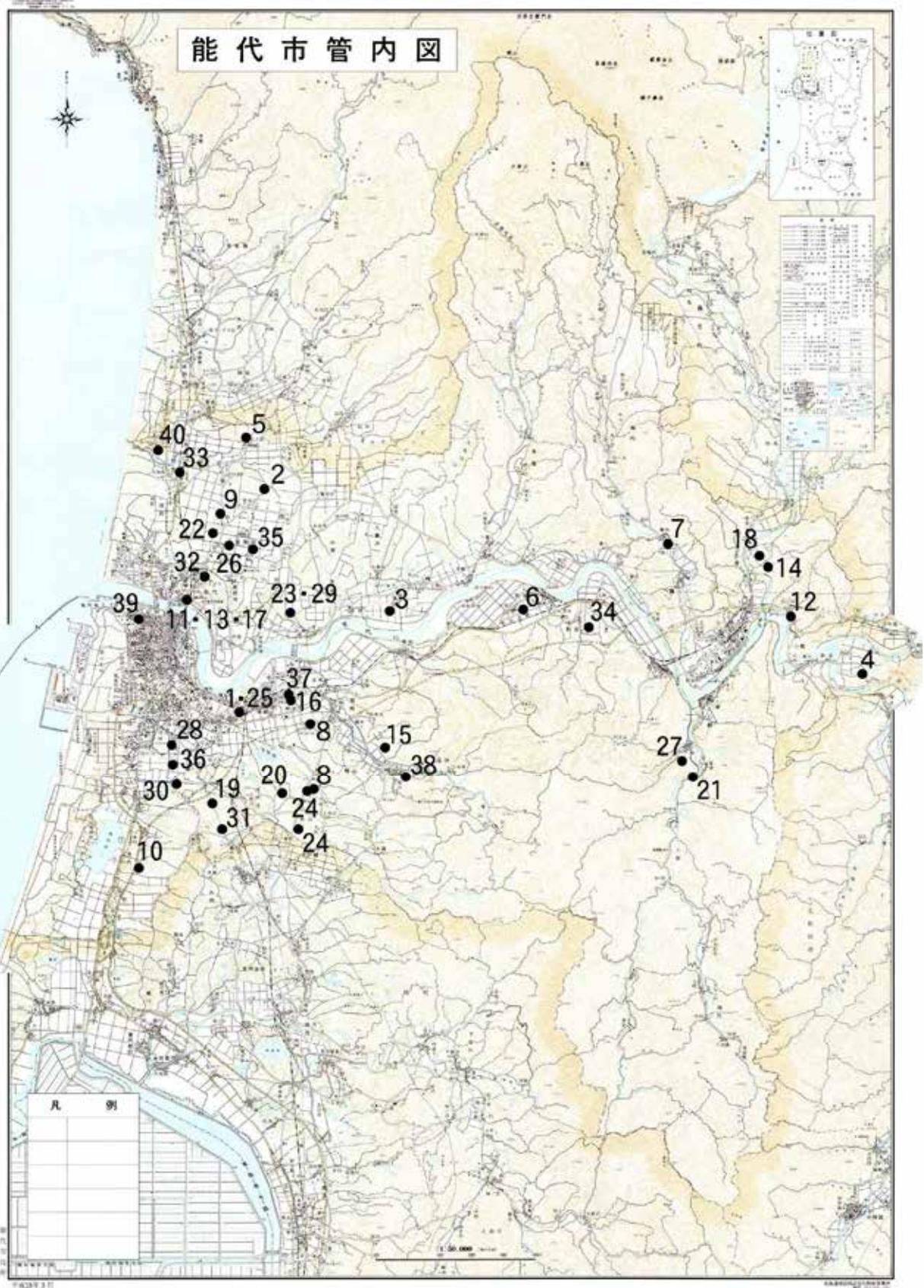
主 任 布 川 英 利 子 (令 和 元 年 度)
 主 事 袴 田 正 樹 (平 成 2 6 年 度)
 松 森 翔 (平 成 3 0 ~ 令 和 元 年 度)
 高 松 佳 奈 (令 和 元 年 度)
 業 務 員 三 熊 真 奈 子 (平 成 2 8 年 度)

No.	年度	事業者	事業名	遺跡名	所在地	調査期間	調査結果
1	H25	個人	個人用住宅建設工事		字仁井田白山	平成 25 年 8 月 16 日	遺跡なし
2	H25	(株)能代資 源	能代はまなす風力発電 事業	金ヶ沢IV遺跡	比八田字金ヶ 台	平成 25 年 8 月 19 日 ~30 日	遺構・遺物なし
3	H25	県山本地域振 興局	轟地区農地集積加速化 基盤整備事業		轟地区	平成 25 年 10 月 15・ 17・18 日	遺跡なし
4	H25	県山本地域振 興局	下田平地区農地集積加 速化基盤整備事業	下田平遺跡 大沢遺跡	二ツ井町麻生 字下田平ほか	平成 25 年 10 月 28 日 ~11 月 27 日	2 遺跡の範囲確認 大沢II遺跡を新たに確認
5	H25	個人	個人用農業用倉庫増築 工事	比八田中台II 遺跡	比八田字中台	平成 25 年 11 月 19 日	土師器出土
6	H25	(株)サンワ 興建	個人用住宅建築工事	新富根II遺跡	二ツ井町飛根 字新富根	平成 25 年 12 月 10 日	柱穴様土坑確認 土師器出土
7	H25	KDDI (株)	携帯電話基地局建設工 事		二ツ井町種字 学校前	平成 26 年 3 月 18 日	遺跡なし
8	H26	東北電力(株)	特別高圧送電線路建設 工事		中沢字大沢ほ か	平成 26 年 3 月 20 日・ 4 月 16・17 日	遺跡なし
9	H26	KDDI (株)	携帯電話基地局建設工 事		磐字杉沢野	平成 26 年 4 月 16 日	遺跡なし
10	H26	ENERGY- INNOVATION (株)	浅内大規模太陽光発電 所建設工事		浅内字石丁家 上	平成 26 年 6 月 3 日	遺跡なし
11	H26	市都市整備課	向能代地区整備事業(市 道建設)	平影野遺跡	向能代字平影 野	平成 26 年 11 月 6 日	溝跡・柱穴様土坑を確認 土師器出土
12	H26	市二ツ井地域 局	道の駅ふたついで移転整 備事業		二ツ井町小繫 字泉ほか	平成 26 年 11 月 11 日	遺跡なし
13	H27	個人	個人用住宅新築工事	平影野遺跡	向能代字平影 野	平成 27 年 5 月 12 日	堅穴遺構・土坑等を確認 土師器出土
14	H27	県山本地域振 興局	荷上場地区農地集積加 速化基盤整備事業		二ツ井町荷上 場	平成 27 年 10 月 26・ 27 日	遺跡なし
15	H27	市林業木材振 興課	高能率生産団地路網整 備事業	三岳遺跡・ 三岳館跡	檜山字小木竹 沢	平成 27 年 12 月 7 日 ~10 日	古代の土坑等を確認 縄文土器・土師器出土

第 1 表 試掘・確認調査一覧(1)

No.	年度	事業者	事業名	遺跡名	所在地	調査期間	調査結果
16	H27	個人	個人用住宅改築工事	鹹淵遺跡	鹹淵字鹹淵	平成 28 年 3 月 31 日	遺構・遺物なし
17	H28	個人	駐車場整備工事	平影野遺跡	向能代字平影野	平成 28 年 7 月 21 日	古代の竪穴建物跡等を確認 須恵器・土師器等出土
18	H28	県山本地域振興局	荷上場地区農地集積加速化基盤整備事業		二ツ井町荷上場地区	平成 28 年 11 月 15 日 ～17 日	磁器片出土
19	H28	東北電力(株)	特別高圧送電線路「森岳線」鉄塔建替工事	塞ノ神遺跡	字塞ノ神ほか	平成 28 年 12 月 20～ 21 日	遺構・遺物なし
20	H28	東北電力(株)	特別高圧送電線路(桧山支線) 建設工事		中沢字梯ノ台 ほか	平成 29 年 2 月 8 日・ 4 月 18 日・6 月 23 日・ 平成 30 年 9 月 6 日	遺跡なし
21	H28	県山本地域振興局	小掛・鬼神地区農地集積加速化基盤整備事業		二ツ井町仁鮎地区	平成 29 年 3 月 16・17 日	遺構・遺物なし
22	H28	県山本地域振興局	東雲原地区農地集積加速化基盤整備事業	上大野台遺跡	落合字上大野台ほか	平成 29 年 3 月 21～23 日	時期不明の小土坑確認 縄文土器・弥生土器等出土
23	H29	八峰風力開発(株)	八峰風力発電事業変電施設建設工事		朴瀬字八森坂	平成 29 年 4 月 17 日	遺跡なし
24	H29	大森建設(株)	山砂採取工事		中沢字大沢ほか	平成 29 年 5 月 5・12 日	遺跡なし
25	H29	個人	個人用住宅建築工事		字仁井田白山	平成 29 年 6 月 13 日	遺跡なし
26	H29	県山本地域振興局	東雲原地区農地集積加速化基盤整備事業		竹生字笹ノ台 ほか	平成 29 年 11 月 27・ 28 日	遺跡なし
27	H29	県山本地域振興局	小掛・鬼神地区農地集積加速化基盤整備事業	小掛遺跡	二ツ井町仁鮎地字鬼神ほか	平成 29 年 11 月 29 日 ～12 月 1 日	遺構なし 石器出土
28	H29	県山本地域振興局	河戸川・浅内地区農地集積加速化基盤整備事業	塩干田遺跡	河戸川字下相染下ほか	平成 30 年 3 月 19～23 日	戸川向遺跡・西堂前遺跡を 新たに発見
29	H29	東北電力(株)	特別高圧送電線路「米代線」No.10 鉄塔立替工事	八森坂 I 遺跡	朴瀬字宇藤坂 ほか	平成 30 年 3 月 26 日	遺構なし 縄文土器出土
30	H29	白神カントリークラブ(株)	土砂採取事業	船沢遺跡	浅内字船沢	平成 30 年 3 月 28・ 29 日・4 月 4・5 日	古代の竪穴建物跡・土坑等 確認 須恵器・土師器出土
31	H30	東北電力(株)	特別高圧送電線路「森岳線」鉄塔立替工事		字九郎左エ門 笹台	平成 30 年 5 月 10 日	遺跡なし
32	H30	市教育委員会	東雲中学校バス停車帯設置工事		向能代字トト メキ	平成 30 年 6 月 25 日	遺跡なし

第 2 表 試掘・確認調査一覧(2)



第1図 試掘・確認調査位置図

No.	年度	事業者	事業名	遺跡名	所在地	調査期間	調査結果
33	H30	市上下水道課	北部地区配水管整備事業	竹生Ⅱ遺跡	竹生字竹生	平成30年11月30日	遺構・遺物なし
34	H30	国交省能代河川国道事務所	一般国道7号能代地区線形改良事業	烏野遺跡	二ツ井町駒形字堤沢	平成31年3月18日	縄文土器出土
35	H30	県山本地域振興局	東雲原地区農地集積加速化基盤整備事業		竹生字笹ノ台ほか	平成31年3月19・20日	遺跡なし
36	H30	県山本地域振興局	河戸川・浅内地区農地集積加速化基盤整備事業	下相染下遺跡	河戸川字下相染下ほか	平成31年3月25～28日	周知の下相染下遺跡を確認
37	R01	個人	個人用住宅改築工事	鹹淵遺跡	鹹淵字鹹淵	平成31年4月24日	遺構・遺物なし
38	R01	個人	個人用住宅新築工事		檜山字赤館	令和元年6月3日	時期不明の小土坑確認
39	R01	KDDI(株)	au携帯電話基地局能代清助町局建設工事		清助町	令和元年10月25日	遺跡なし
40	R01	能代山本広域市町村圏組合	一般廃棄物処理施設整備事業		竹生字天神谷地	令和元年11月1日	遺跡なし

第3表 試掘・確認調査一覧(3)

No.	年度	事業者	事業名	遺跡名	所在地	調査期間	調査結果
1	H25	個人	個人用農業用倉庫増築工事	比八田中台Ⅱ遺跡	比八田字中台	平成25年12月6日	遺構・遺物なし
2	H25	(株)サンフ興建	個人用住宅建築工事	新富根Ⅰ遺跡	二ツ井町飛根字新富根	平成25年12月23日	溝跡・柱穴様土坑確認 土師器出土
3	H26	県山本地域振興局	下田平地区農地集積加速化基盤整備事業	下田平遺跡	二ツ井町麻生字下田平	平成26年7月14・30日 ～8月12日・9月2日・ 10月16日	縄文土器・土師器・須恵器 出土
4	H26	(株)能代資源	能代はまなす風力発電事業	金ヶ沢Ⅳ遺跡	比八田字金ヶ台	平成26年9月8・9・ 11日	遺構・遺物なし
5	H26	個人	個人用住宅新築工事	下大野Ⅰ遺跡	落合字下大野	平成26年11月19日	縄文土器・フレイク出土
6	H26	東北電力(株)	電柱建設工事	烏野上台遺跡	二ツ井町駒形字烏野上台	平成27年2月9・10・ 11日	遺構・遺物なし
7	H27	個人	個人用住宅新築工事	下大野Ⅰ遺跡	落合字下大野	平成27年4月21日	縄文土器・フレイク出土

第4表 立会調査一覧(1)

No.	年度	事業者	事業名	遺跡名	所在地	調査期間	調査結果
8	H27	(株)日立パ ワーソリュー ションズ	風力観測用タワー設置 工事	烏野上台遺跡	二ツ井町駒形 字烏野上台	平成27年6月2日	遺構・遺物なし
9	H27	(株)秋田放 送	アナログテレビ中継系 局撤去工事	八重堀館跡	能代市檜山字 蟹沢	平成27年6月15～17 日	土坑1基 磁器出土
10	H27	東北電力 (株)	能代変電所ITV取替 工事	梯ノ台遺跡	中沢字梯ノ台	平成27年7月7日	遺構・遺物なし
11	H27	市二ツ井地域 局	きみまち阪案内所立替 工事	俣后阪遺跡	二ツ井町小繫 字中島	平成27年6月19日・ 7月7・14・24日 11月12日	遺構・遺物なし
12	H27	KDDI (株)	au携帯電話無線基地 局建設工事	—	字塞ノ神	平成28年3月3・4日	遺跡なし
13	H27	KDDI (株)	au携帯電話無線基地 局建設工事	烏野遺跡	二ツ井町駒形 字烏野	平成28年3月4・9日	遺構・遺物なし
14	H27	小繫簡易水道 組合	配水管更新工事	俣后阪遺跡	二ツ井町小繫 字中島	平成27年12月2日・ 平成28年3月14日	遺構・遺物なし
15	H28	個人	個人用住宅改築工事	鹹淵遺跡	鹹淵字鹹淵	平成28年4月5・27日	遺構・遺物なし
16	H28	KDDI (株)	能代大台野局建設工事	—	字大台野	平成28年6月24日	遺構・遺物なし
17	H28	KDDI (株)	au携帯電話無線基地 局建設工事	—	檜山字新田沢	平成28年9月14日	遺構・遺物なし
18	H28	KDDI (株)	au携帯電話無線基地 局建設工事	—	二ツ井町種字 大沢	平成28年11月17日	遺構・遺物なし
19	H28	(社)二ツ井め ぐみ会	福祉施設建設工事	茱萸ノ木遺跡	二ツ井町荷上 場字グミノ木	平成28年10月28日・ 11月25日	縄文土器出土
20	H28	個人	個人用住宅新築工事	平影野遺跡	向能代字平影 野	平成28年11月7日・平 成29年1月16・23～25 日	古代の土坑等を確認
21	H28	個人	個人用住宅新築工事	下大野I遺跡	落合字下大野	平成28年11月25日・ 平成29年2月7日	遺構・遺物なし
22	H28	東北電力 (株)	特別高圧送電線路(桧 山支線)建設工事	梯ノ台遺跡	中沢字蟻ノ台	平成29年2月27日	遺構・遺物なし

第5表 立会調査一覧(2)

No.	年度	事業者	事業名	遺跡名	所在地	調査期間	調査結果
23	H28	(合) J R E 能代三種	太陽光発電所建設工事	逆川遺跡	字大館南沢	平成 29 年 3 月 8 日・9 月 25 日	遺物なし
24	H29	東北電力 (株)	特別高圧送電線路(桧 山支線)建設工事	堤下遺跡	檜山字堤下	平成 29 年 6 月 7 日	土師器・フレイク出土
25	H29	東北電力 (株)	特別高圧送電線路(桧 山支線)建設工事	梯ノ台遺跡	中沢字蟻ノ台	平成 29 年 6 月 8 日	時期不明の溝跡確認
26	H29	個人	個人用住宅新築工事	下大野 I 遺跡	落合字下大野	平成 29 年 12 月 4 日・ 平成 30 年 3 月 6 日	遺構・遺物なし
27	H29	ウイネット三 種合同会社	三種風力構内送電線新 設工事	成合 A・D・ E 遺跡 逆川遺跡	浅内字成合ほ か	平成 29 年 12 月 15 日・ 平成 30 年 1 月 10・23 日・2 月 19・20・23 日・ 4 月 10 日	遺構・遺物なし
28	H29	個人	個人用住宅改築工事	前田 II 遺跡	二ツ井町飛根 字前田	平成 30 年 1 月 19・22 日・2 月 14 日	遺構・遺物なし
29	H29	個人	個人用住宅新築工事	下大野 I 遺跡	落合字下大野	平成 30 年 3 月 12 日・ 5 月 21 日	遺構・遺物なし
30	H30	東北電力 (株)	特別高圧送電線路「米代 線」No.10 鉄塔立替工事	八森坂 I 遺跡	朴瀬字宇藤坂 ほか	平成 30 年 4 月 13 日	遺構・遺物なし
31	H30	個人	個人用住宅新築工事	下大野 I 遺跡	落合字下大野	平成 30 年 5 月 8 日・6 月 25 日	遺構・遺物なし
32	H30	県山本地域振 興局	河戸川・浅内地区農地集 積加速化基盤整備事業	塩干田遺跡 戸川向遺跡	字戸川向	平成 30 年 6 月 19 日～ 9 月 4 日	土師器出土(塩干田遺跡)
33	H30	県山本地域振 興局	河戸川・浅内地区農地集 積加速化基盤整備事業	西堂前遺跡	河戸川字西堂 前	平成 30 年 6 月 26 日	遺構・遺物なし
34	R01	国交省能代河 川国道事務所	一般国道 7 号能代地区 線形改良事業	烏野遺跡	二ツ井町駒形 字堤沢	令和元年 5 月 31 日	縄文土器出土
35	R01	県山本地域振 興局	河戸川・浅内地区農地集 積加速化基盤整備事業	下相染下遺跡	河戸川字下相 染下	令和元年 5 月 13 日～7 月 26 日	遺構・遺物なし

第 6 表 立会調査一覧(3)

第2章 調査の記録

第1節 試掘・確認調査

(1) 平成25年度の調査

1. 個人用住宅建設工事

調査地 能代市字仁井田白山33 (仁井田白山遺跡近接地)

調査日 平成25年8月16日

調査面積 3㎡ (調査対象面積120㎡)

調査に至る経緯

自宅敷地内に住宅の改築を予定していた個人は、住宅会社をとおり能代市教育委員会に建設予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地が周知の仁井田白山遺跡に近接していることから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成25年8月7日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川左岸沖積地にある河岸段丘上に位置し、同じ段丘面には青磁や中世陶磁器片が出土した仁井田白山遺跡が近接する。また、周辺には中世の檜山安東氏と関わりのある倫勝寺が立地している。地目は宅地であるが、以前は畑地として利用されていた。

調査の概要及び結果

調査は住宅の基礎部分を対象とし、1×1mの試掘坑3箇所を設定して工事計画で示された掘削深45cmを目安に人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序 []内は層厚

I層：表土 灰黄褐～にぶい黄褐色土 [15～22cm] 試掘坑3では欠く

II層： 黒～黒褐色土 軽石粒含む [38～52cm]

III層： 黒褐～にぶい黄褐色土

②検出遺構と出土遺物

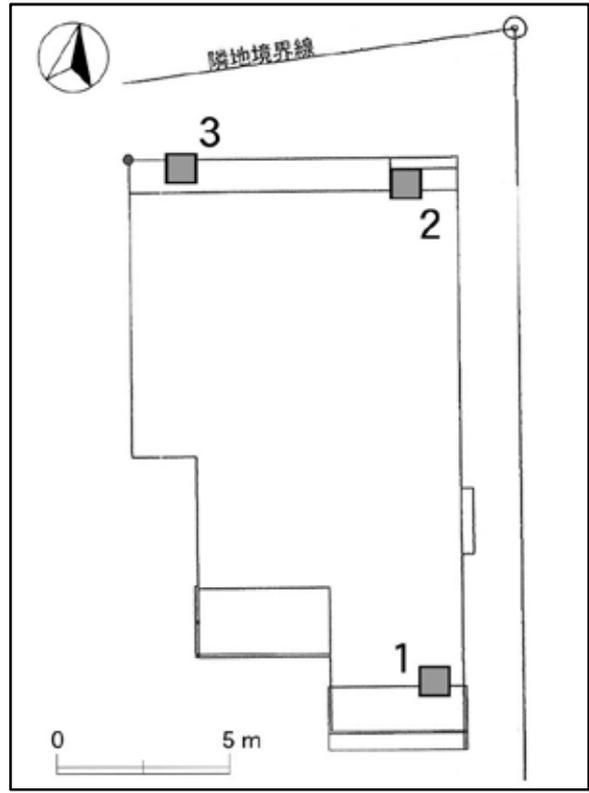
遺構・遺物は確認されなかった。

所見

当該地において、遺跡は存在しないと判断した。



第2図 個人用住宅建設工事 位置図



第3図 個人用住宅建設工事 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑1 完掘状況



試掘坑2 完掘状況



試掘坑3 完掘状況

写真1 個人用住宅建設工事

2. 能代はまなす風力発電事業

調査地 能代市比八田字金ヶ台5-1 (金ヶ沢IV遺跡)

調査日 平成25年8月19～30日

調査面積 113㎡ (調査対象面積400㎡)

調査に至る経緯

株式会社能代資源は、比八田地区の社有地に風力発電事業を計画していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地が周知の金ヶ台IV遺跡の推定範囲内であったことから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成25年4月8日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川右岸に展開する東雲台地の北縁に近い台地上に位置する金ヶ沢IV遺跡の推定範囲内にある。北に古代の住居跡が検出されたサシトリ台遺跡、弥生時代・古代の遺物散布地である金ヶ沢I遺跡が所在する。調査対象地は、過去には畑地として利用されていたが、現在では盛土造成のうえ会社用地、作業場として利用されている。

調査の概要及び結果

調査は、風力発電用風車の基礎工事対象地400㎡を対象とし、試掘トレンチ3箇所を設定して重機で掘り下げ、地山面を人力で精査して遺構・遺物の有無を確認した。

①層序 [] 内は層厚

I層：造成土 [220～233cm]

II層：造成土 黒褐色土 [12～26cm]

III層： 黒褐色土 [15～32cm] トレンチ1では欠く

IV層：地山漸移層 灰黄褐～にぶい黄褐色土 [12～13cm] トレンチ1では欠く

V層：地山 明黄褐色土

②検出遺構と出土遺物

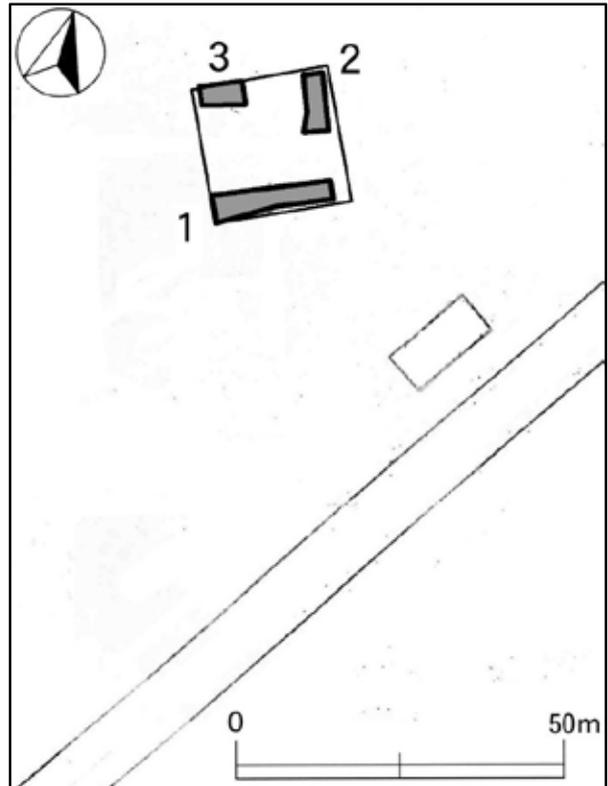
遺構・遺物は確認されなかった。

所見

当該地において、遺跡は存在しないと判断したが、周知の埋蔵文化財包蔵地内であるため、文化財保護法第93条に基づく届出書の提出を指示した。



第4図 能代はまなす風力発電事業 位置図



第5図 能代はまなす風力発電事業 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘トレンチ1 完掘状況



試掘トレンチ2 完掘状況



試掘トレンチ3 完掘状況

写真2 能代はまなす風力発電事業

3. 轟地区農地集積加速化基盤整備事業

調査地 能代市轟地内

調査日 平成25年10月15・17・18日

調査面積 99㎡（調査対象面積38.2ha）

調査に至る経緯

秋田県山本地域振興局は、轟地区で農地集積加速化基盤整備事業を予定していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地に登録されていないものの、周囲に遺跡が存在し、地形等から遺跡が存在する可能性があることから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成25年10月9日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。なお、本調査は平成24年度に続き、轟地区での2年目の調査である。

立地と現況

調査対象地は、米代川右岸の沖積地に位置し、その北縁は米代川の旧河道に由来する低い段丘、南縁は米代川の堤防までとなっている。周辺の標高は6m前後で、現況は水田または畑地である。

調査の概要及び結果

調査は、事業予定地に試掘坑22箇所を設定して重機で掘り下げ、地山面を人力で精査して遺構・遺物の有無を確認した。

①層序 []内は層厚

耕作土の下は、米代川の河成堆積層である砂質土を主体とする層が広く分布している。Ⅲ層は調査区北部ではシルト質土になり、調査区南部では礫が混じる。また、Ⅰ層下に過去の圃場整備による造成土が存在する箇所もある。

Ⅰ層：耕作土 [12～24cm]

Ⅱ層： にぶい黄褐色土 [25～38cm]

Ⅲ層： 暗灰黄～灰黄褐色砂質土

②検出遺構と出土遺物

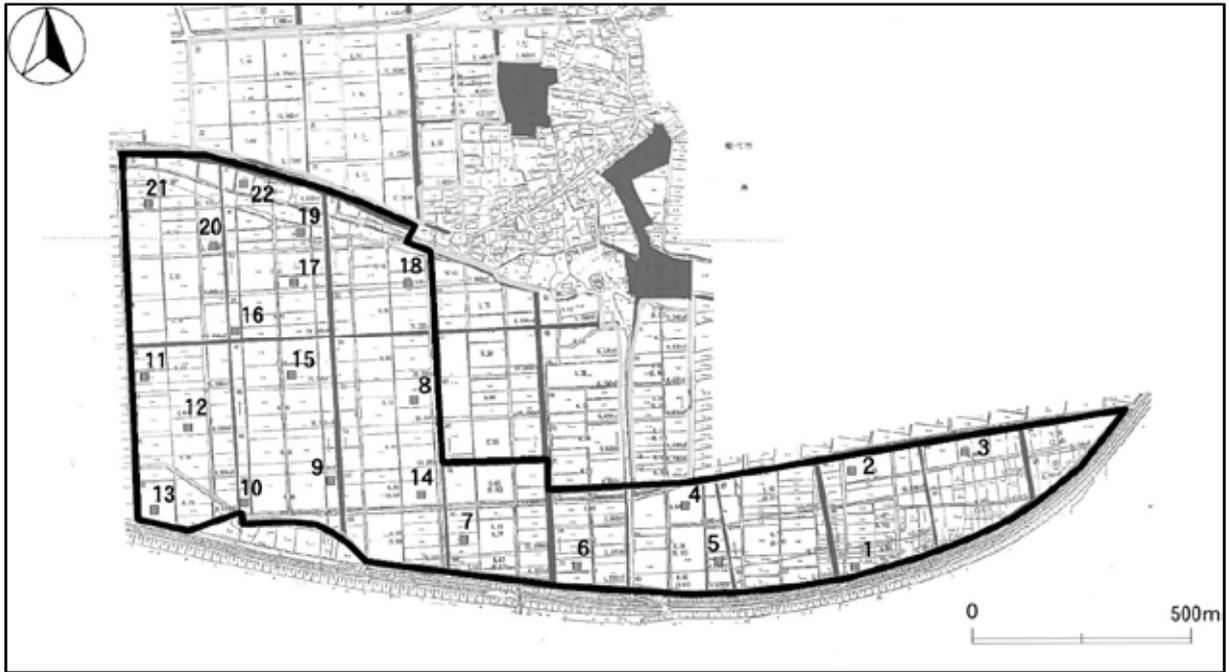
遺構・遺物は確認されなかった。

所見

当該地において、遺跡は存在しないと判断した。



第6図 轟地区農地集積加速化基盤整備事業 位置図



第 7 図 轟地区農地集積加速化基盤整備事業 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑 5 完掘状況



試掘坑 1 1 完掘状況



試掘坑 2 2 完掘状況

写真 3 轟地区農地集積加速化基盤整備事業

4. 下田平地区農地集積加速化基盤整備事業

調査地 能代市二ツ井町麻生地内（下田平遺跡・大沢Ⅰ・Ⅱ遺跡）

調査日 平成25年10月28日～11月27日

調査面積 1, 295 m²（調査対象面積101.5 ha）

調査に至る経緯

秋田県山本地域振興局は、二ツ井町麻生地区で農地集積加速化基盤整備事業を予定していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地内に周知の大沢遺跡が存在することから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成24年8月9日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川と阿仁川との合流点の南東、両河川に挟まれた沖積地と、その東方に展開する丘陵である。丘陵は西に向かい標高を減ずるとともに、河岸段丘を形成して台地状となり、沢によって大きく南北に区画される。北側台地の西端部には周知の大沢遺跡、南側台地には下田平遺跡が所在する。周辺の標高は20～85mで、現況は水田または畑地である。

調査の概要及び結果

調査は、事業予定地に試掘地点72箇所を設定して重機で掘り下げ、地山面あるいは耕作土より下の層を人力で精査して遺構・遺物の有無を確認した。周知の遺跡範囲及びその周辺についてはトレンチを設定し、それ以外の箇所については坪掘りとした。

①層序〔 〕内は層厚

当該地は農地造成のため広範囲に切土・盛土が行われており、調査範囲東側の丘陵上では耕作土の直下が地山となる箇所も少なくない。層序は丘陵地と沖積地で大きく異なるため、それぞれ標準的と思われる地点の例を挙げる。

(ア) 丘陵地：試掘トレンチ54（大沢遺跡）

I層：耕作土	にぶい黄褐色土	〔22cm〕
II層：造成土	明黄褐色土	〔18cm〕
III層：	黒褐色土	〔12cm〕
IV層：	黒褐色土	3層より明〔12cm〕
V層：地山漸移層	にぶい黄褐色土	〔18cm〕
VI層：地山	明黄褐色粘質土	

(イ) 沖積地：試掘トレンチ7

I層：耕作土	灰黄褐色土	〔23cm〕
II層：造成土	黄灰色土	〔9cm〕
III層：	黒褐色土※遺物包含	〔20cm〕
IV層：地山	緑灰色土	グライ化粘土

②検出遺構と出土遺物

大沢遺跡周辺で縄文時代の遺構・遺物が確認された。下田平遺跡周辺では縄文時代の遺物や遺構らしきプランのほか、須恵器が確認された。また、北側段丘上でも縄文

時代の遺構・遺物が確認され、新発見の遺跡であることを確認した。

(ア) 遺構

試掘坑 3 では、Ⅲ層上面で時期不明の溝跡 1 条を検出した。

試掘トレンチ 4 1 では、Ⅲ層上面で柱穴様土坑 1 基を検出した。

試掘トレンチ 4 7 では、円形を呈し縄文時代に属すると思われる土坑 2 基を検出した。周辺からは縄文時代中期に属する土器片等が出土している。

試掘坑 6 3 では、円形あるいは楕円形を呈し、縄文時代の竪穴建物跡の可能性のある遺構 1 基を確認した。周辺からは縄文時代中期に属する土器片が出土している。

(イ) 遺物

沖積地部分の試掘地点のうち、下田平遺跡周辺の試掘坑 3 4、試掘トレンチ 3 5・3 9・4 1～4 3 では、縄文時代晩期を主体とする土器片や石器が出土したほか、古代の須恵器片や近代以降と思われる磁器片、時期不明の木製品も少量出土している。

丘陵段丘部分では、周知の大沢遺跡周辺の試掘トレンチ 4 4 で磨製石斧、4 7・4 8・5 0・5 7 で縄文時代中期の円筒上層式に属する深鉢形土器が出土している。

また、北側台地上の試掘坑 6 3・7 2 でも縄文時代中期の円筒上層式に属する深鉢形土器や石匙等の石器が出土している。

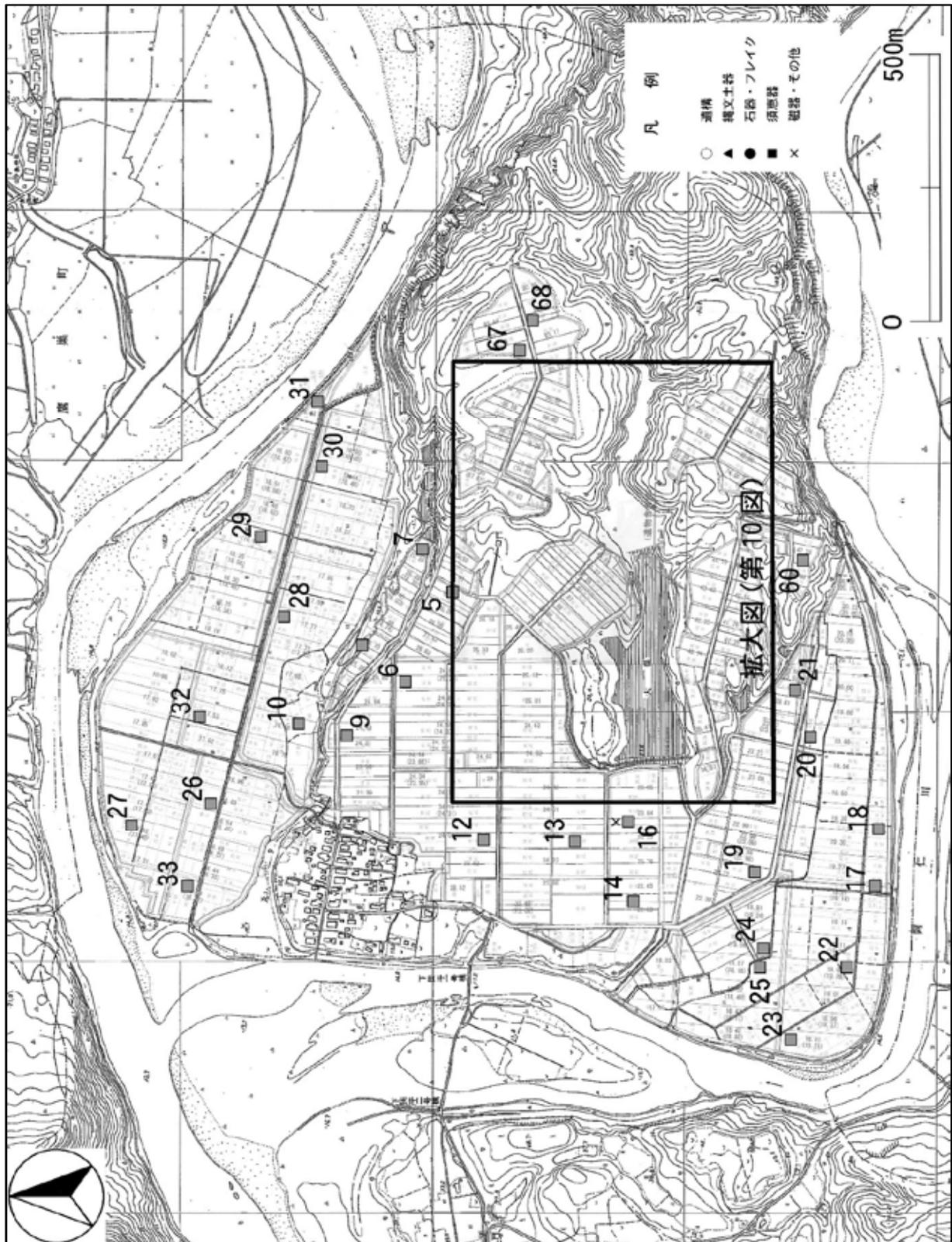
所 見

当該地において、3 遺跡が所在することが確認された。新たに発見された遺跡の名称を大沢Ⅱ遺跡とするとともに、大沢遺跡を大沢Ⅰ遺跡と変更した。また、下田平遺跡の範囲が台地下の沖積地まで広がることを確認された。

事業実施にあたっては、掘削を伴う範囲について保護措置をとる必要があるため、改めて事業者側と調整する必要がある。



第 8 図 下田平地区農地集積加速化基盤整備事業 位置図



第9図 下田平地区農地集積加速化基盤整備事業 試掘坑配置図



第10図 下田平地区農地集積加速化基盤整備事業 試掘坑配置図（部分）



調査対象地近景（下田平遺跡付近）



試掘坑 3 4 完掘状況



調査対象地近景（大沢Ⅰ遺跡付近）



試掘トレンチ 4 7 完掘状況



試掘トレンチ 4 7 遺構検出状況



調査対象地近景（大沢Ⅱ遺跡付近）



試掘坑 6 3 遺構検出状況



出土遺物

写真 4 下田平地区農地集積加速化基盤整備事業

5. 個人用農業用倉庫増築工事

調査地 能代市比八田字中台44（比八田中台Ⅱ遺跡）

調査日 平成25年11月19日

調査面積 1.2㎡（調査対象面積10㎡）

調査に至る経緯

農業用倉庫の増築を予定していた個人は、住宅会社をとおり能代市教育委員会に建設予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地が周知の比八田中台Ⅱ遺跡の推定範囲内にあることから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成25年11月15日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、竹生川右岸に東西に延びる大沢台地の南縁部、比八田集落背後の舌状台地上に位置し、東側には比八田中台Ⅰ遺跡、北側に相染台遺跡が所在する。現況は宅地であるが、以前は畑地として利用されており、標高は約33mである。

調査の概要及び結果

調査は農業用倉庫の基礎部分を対象とし、1×0.3mの試掘坑4箇所を設定して工事計画で示された掘削深30cmを目安に人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。その後、部分的に遺構確認面（地山漸移層）まで掘り下げ、地表面からの深度を確認した。

①層序〔 〕内は層厚

Ⅰ層：表土（旧耕作土） 暗～黒褐色土 [21～22cm]

Ⅱ層： 黒褐色土 遺物包含層 [19～30cm]

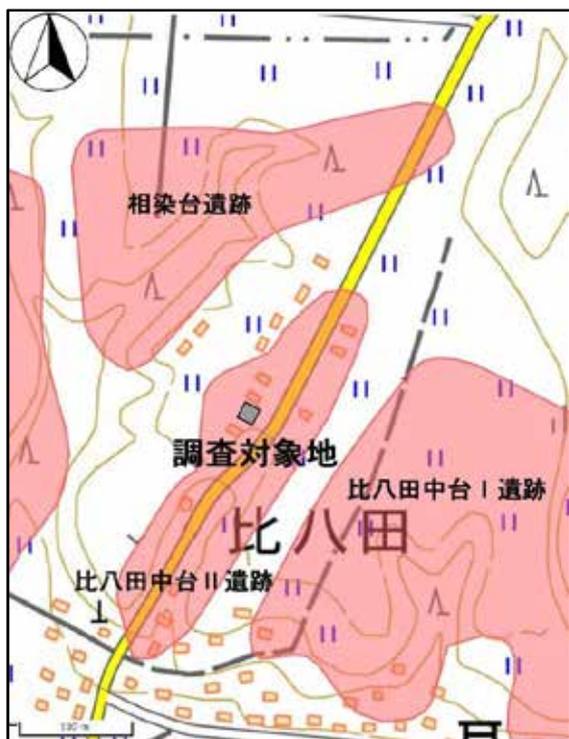
Ⅲ層：地山漸移層 ※表土からの深度は41～51cm

②検出遺構と出土遺物

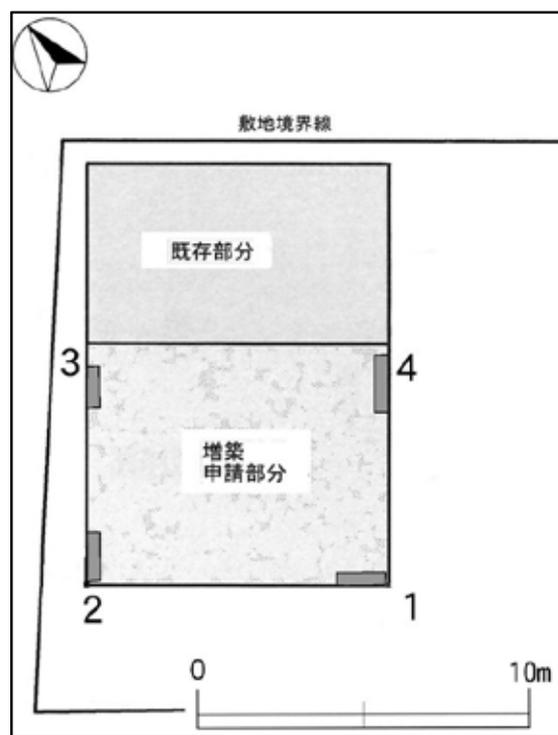
試掘坑1・4で土師器片が出土したが、遺構は確認されなかった。

所見

当該地において、比八田中台Ⅱ遺跡の範囲内であるものの、工事内容から遺跡への影響は軽微であると判断し、文化財保護法第93条に基づく届出書の提出を指示した。



第 1 1 図 農業用倉庫増築工事 位置図



第 1 2 図 農業用倉庫増築工事 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑 1



試掘坑 3



試掘坑 4



出土遺物

写真 5 農業用倉庫増築工事

6. 個人用住宅建設工事

調査地 能代市二ツ井町飛根字新富根 274 (新富根Ⅱ遺跡)

調査日 平成25年12月10日

調査面積 2.3㎡ (調査対象面積109㎡)

調査に至る経緯

自宅敷地内に住宅の改築を予定していた個人は、住宅会社をとおり能代市教育委員会に建設予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地が周知の新富根Ⅱ遺跡の推定範囲内であることから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成25年12月9日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、飛根地区羽立集落の東側、米代川左岸段丘上に所在する新富根Ⅱ遺跡の推定範囲内にあり、もと畑地で現況は宅地、標高は約12mである。平成13年度に、市道を挟んだ北側水田で農業基盤整備事業に伴う調査が実施され、古代の竪穴建物跡、井戸跡、土坑等が検出されている。

調査の概要及び結果

調査は住宅の基礎部分を対象とし、試掘坑6箇所を設定して工事計画で示された掘削深45cmを目安に人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。土層の観察からは、当該地は過去に削平が行われた状況が推測される。

①層序 []内は層厚

I層：表土・旧耕作土 褐色土〔16～40cm〕※試掘坑6ではこの下に造成土24cm

II層：地山 にぶい黄燈色土

②検出遺構と出土遺物

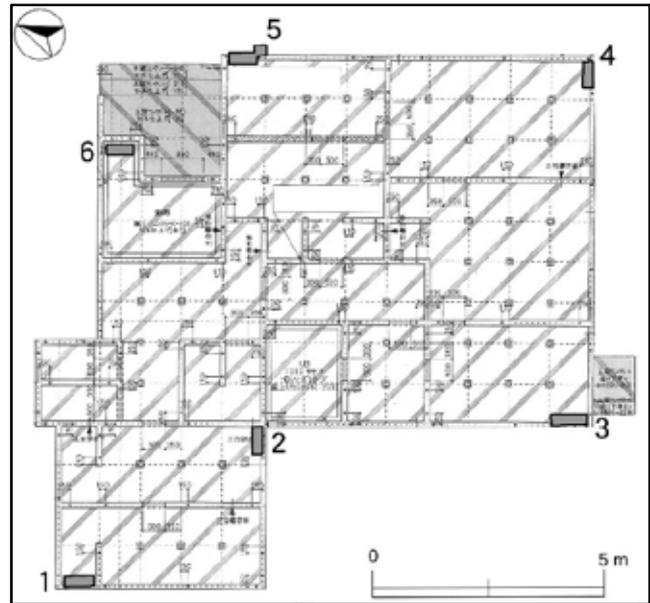
試掘坑5で、直径25cmの柱穴様土坑1基を検出するとともに、土師器と思われる細片の出土を確認した。

所見

当該地において、表土厚は21～41cmであり、ベタ基礎外周の布掘り部分については掘削が遺構確認面に達するため、保護措置が必要であると判断するとともに、事業者に対しては文化財保護法第93条に基づく届出書の提出を指示した。



第 1 3 図 個人用住宅建築工事 位置図



第 1 4 図 個人用住宅建築工事 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑 1 完掘状況



試掘坑 3 完掘状況



試掘坑 5 柱穴様土坑検出状況

写真 6 個人用住宅建築工事

7. 携帯電話基地局建設工事

調査地 能代市二ツ井町種字学校前35-1

調査日 平成26年3月18日

調査面積 7㎡（調査対象面積26㎡）

調査に至る経緯

KDDI株式会社は、二ツ井町種地区に携帯電話無線基地局建設工事を計画していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地が地形等から遺跡が存在する可能性があるかと判断し、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成26年1月30日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川支流の種梅川右岸の沖積地に位置する。当該地は元種梅小学校グラウンドの一角であり、それ以前は中学校敷地、さらにそれ以前には水田として利用されていた模様である。

調査の概要及び結果

調査は、携帯電話無線基地局の敷地内となる約26㎡を対象とし、試掘トレンチ2箇所を設定して重機で掘り下げ、地山面を人力で精査して遺構・遺物の有無を確認した。

①層序 []内は層厚

I層：造成土 灰黄褐色土 [21~47cm]

II層： 黒褐色土 [5~19cm]

III層：地山漸移層 灰黄褐色土 [1cm] トレンチ2では欠く

IV層：地山 にぶい褐～にぶい黄褐色土

②検出遺構と出土遺物

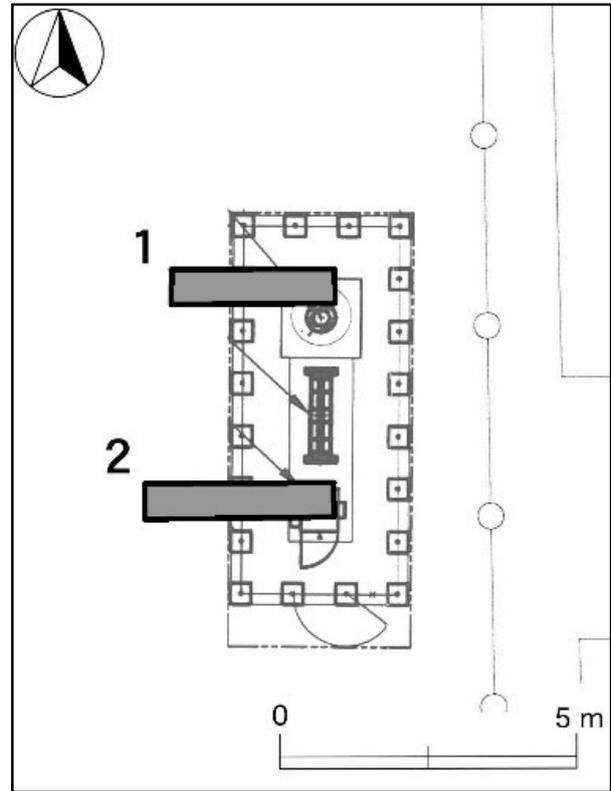
遺構・遺物は確認されなかった。当該地は整地のため盛土造成されていることが確認できた。

所見

当該地において、遺跡は存在しないと判断した。



第 15 図 携帯電話無線基地局建設工事 位置図



第 16 図 携帯電話無線基地局建設工事 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘トレンチ1 完掘状況



試掘トレンチ2 完掘状況



試掘トレンチ1 土層

写真 7 携帯電話無線基地局建設工事

8. 特別高圧送電線路建設工事

調査地 能代市中沢字大沢、扇田字樋口、字四ツ屋地内

調査日 平成26年3月20日、4月16・17日

調査面積 13㎡（調査対象面積675㎡）

調査に至る経緯

東北電力株式会社は、中沢地区から鮎渕地区に至る特別高圧送電線路建設工事を計画していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、鉄塔建設予定地9地点のうち、地形等から遺跡が存在する可能性がある3地点について事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成26年10月25日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川左岸に展開する志戸橋野台地に位置する。調査地点1（鉄塔No.4）は、新田集落の南西400mの舌状台地上、調査地点2（鉄塔No.15）及び調査地点3（鉄塔No.15-1）は台地北縁部に位置し、現況は3地点とも雑木林となっている。

調査の概要及び結果

調査は、各鉄塔敷地面積225㎡を対象とし、調査地点1・3では試掘坑を2箇所（各2㎡）、調査地点2では4箇所（9㎡）を設定して重機または人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序〔 〕内は層厚

(ア) 調査地点1（鉄塔No.4）

I層：表土 黒褐色土 [20cm]
II層： 灰黄褐色土 [3cm] 試掘坑1では欠く
III層：地山 浅黄～明黄褐色土

(イ) 調査地点2（鉄塔No.15）

I層：表土 黒褐色土 [6～12cm]
II層： 灰黄褐色土 [3cm] 試掘坑2のみ
III層： 褐灰～褐色土 [18～30cm]
IV層：地山漸移層 褐～黄褐色土 [8～13cm]
V層：地山 にぶい橙～橙色土

(ウ) 調査地点3（鉄塔No.15-1）

I層：表土 灰黄褐色土 [10cm]
II層： 黒褐～にぶい黄褐色土 [19cm]
III層： 黒褐色土 [5cm] 試掘坑2のみ
IV層：地山 明黄褐色土

②検出遺構と出土遺物

遺構・遺物は確認されなかった。

所見

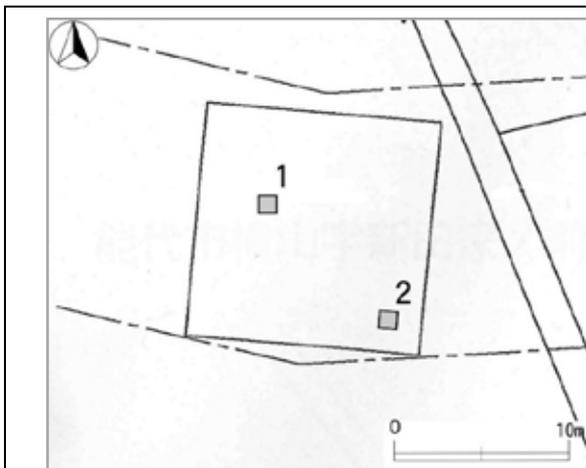
当該地において、遺跡は存在しないと判断した。



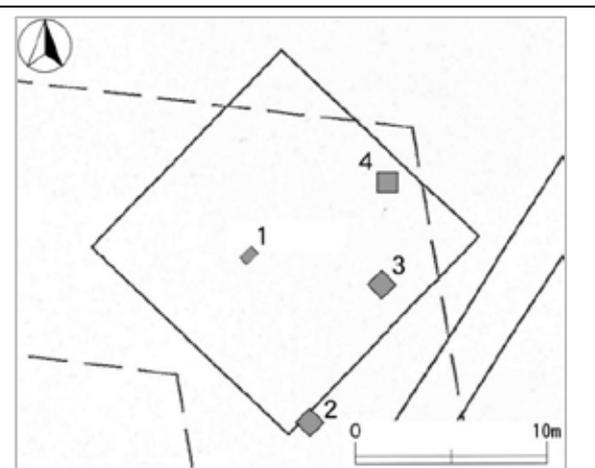
第 17 図 特別高圧送電線路建設工事 位置図(1)



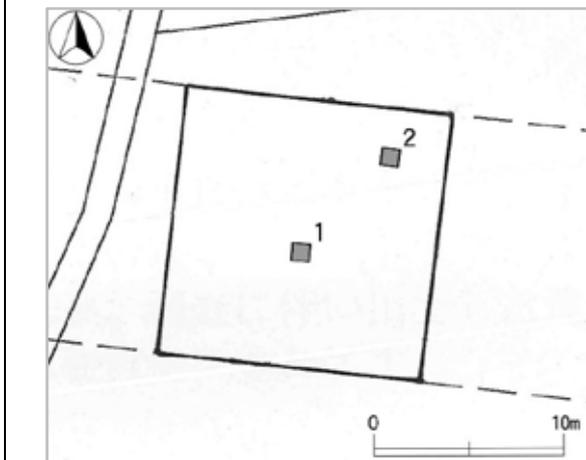
第 18 図 特別高圧送電線路建設工事 位置図(2)



調査地点 1 (鉄塔No. 4)



調査地点 2 (鉄塔No. 15)



調査地点 3 (鉄塔No. 15-1)

第 19 図 特別高圧送電線路建設工事 試掘坑配置図



調査地点 1 (鉄塔No. 4) 近景



調査地点 1 試掘坑 2 完掘状況



調査地点 2 (鉄塔No. 1 5) 近景



調査地点 2 試掘坑 1 完掘状況



調査地点 2 試掘坑 4 完掘状況



調査地点 2 試掘坑 4 土層



調査地点 3 (鉄塔No. 1 5 - 1) 近景



調査地点 3 試掘坑 2 完掘状況

写真 8 特別高圧送電線路建設工事

(2) 平成26年度の調査

1. 携帯電話基地局建設工事

調査地 能代市磐字杉沢野98-1
調査日 平成26年4月16日
調査面積 3㎡ (調査対象面積110㎡)

調査に至る経緯

KDDI株式会社は、磐地区に携帯電話無線基地局建設工事を計画していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地が地形等から遺跡が存在する可能性があると判断し、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成26年3月31日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川の右岸に展開する東雲台地のほぼ中央部に位置する。台地縁辺部にはいくつもの遺跡が確認されており、北方0.7kmには杉沢野遺跡が、北方1.2kmには国指定史跡の杉沢台遺跡が所在する。当該地は、現在は空き家となっている住宅の敷地内で庭として利用されていたが、現況は雑木が生育している。周辺の標高は40m前後である。

調査の概要及び結果

調査は、携帯電話無線基地局の敷地内となる約110㎡を対象とし、1×1mの試掘坑3箇所を設定して人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序 []内は層厚

- I層：表土 黒～暗褐色土 [20～42cm]
- II層： 黒褐～褐灰色土 [18cm]
- III層：地山漸移層 灰黄褐～にぶい黄褐色土 [5～6cm] トレンチ1では欠く
- IV層：地山 にぶい黄燈～浅黄色土

②検出遺構と出土遺物

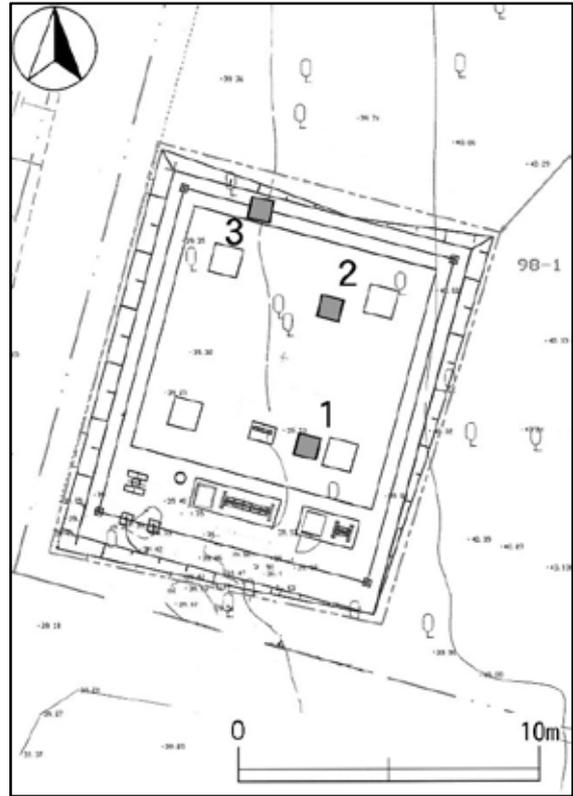
遺構・遺物は確認されなかった。当該地においては明確な造成の痕跡は判別できなかったが、堆積土は柔らかく、人為的堆積の可能性があると判断した。

所見

当該地において、遺跡は存在しないと判断した。



第 20 図 携帯電話無線基地局建設工事 位置図



第 21 図 携帯電話無線基地局建設工事 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑 1 完掘状況



試掘坑 3 完掘状況



試掘坑 3 土層

写真 9 携帯電話無線基地局建設工事

2. 浅内大規模太陽光発電所建設工事

調査地 能代市浅内字石丁家上116-2 (石丁遺跡近接地)

調査日 平成26年6月3日

調査面積 11m² (調査対象面積2,000m²)

調査に至る経緯

ENERGY-INNOVATION株式会社は、浅内地区に大規模太陽光発電所建設工事を計画していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地が周知の石丁遺跡に近接していることから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成26年5月26日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は市南西部の浅内台地上に位置し、北方300mの沢内には蟹子沢遺跡、その対岸には平安時代の集落や須恵器窯が確認された十二林遺跡が所在する。調査対象地の現況は山林であるが、事業対象地はさらに北側の土砂採取跡地にも広がっている。この周辺に堆積している黒色土から、土師器片、フレイクが採集されたが、この黒色土の由来は不明である。

調査の概要及び結果

調査は、事業対象地のうち山林部分の約2,000m²を対象とし、試掘坑5箇所を設定して重機で掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序 []内は層厚

I層：表土 黒～暗褐色土 [27～60cm]

II層： 黒褐～褐灰色土 炭化粒・焼土粒を含む [9～24cm]

III層：地山漸移層 灰黄褐～にぶい黄褐色土 [16～28cm]

IV層：地山 にぶい黄褐～明黄褐色土

②検出遺構と出土遺物

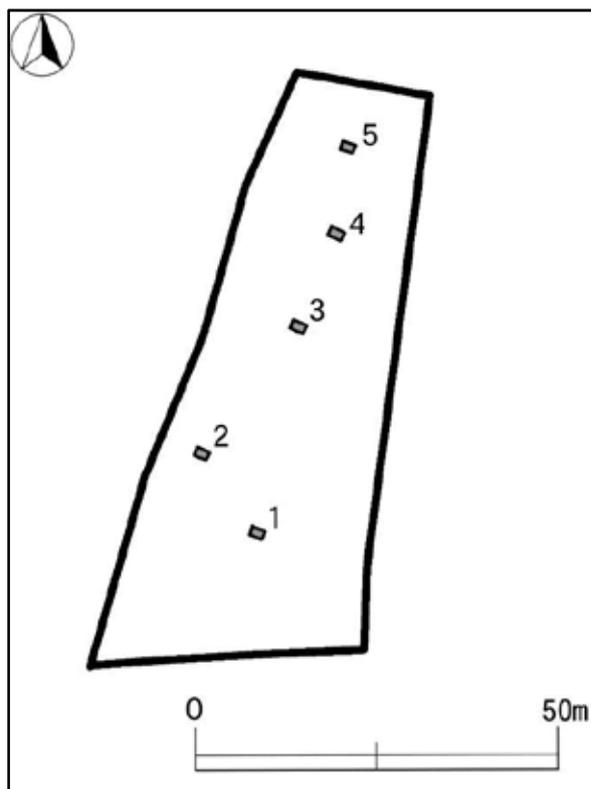
遺構・遺物は確認されなかった。

所見

当該地において、遺跡は存在しないと判断した。



第 2 2 図 浅内大規模太陽光発電所建設工事 位置図



第 2 3 図 浅内大規模太陽光発電所建設工事 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑 1 完掘状況



試掘坑 4 完掘状況



地表面採集遺物

写真 1 0 浅内大規模太陽光発電所建設工事

3. 向能代地区整備事業（市道建設）

調査地 能代市向能代字平影野 48-99（平影野遺跡）

調査日 平成26年11月6日

調査面積 34㎡（調査対象面積552㎡）

調査に至る経緯

能代市都市整備部都市整備課は、向能代地区に向能代地区整備事業（市道建設）を計画していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地が周知の平影野遺跡の推定範囲内に位置することから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成26年10月27日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川右岸に展開する東雲台地の南縁に位置し、周辺の標高は23m前後である。平影野遺跡は当該地の北西～南側に広がっていると推定され、当該地北側の県道建設の際には、古代の竪穴建物跡などが検出されている。当該地は以前はJRの鉄道林として利用されていたが、現在は伐採されアジサイなどが植樹されている。

調査の概要及び結果

調査は、市道建設の対象地の約552㎡を対象とし、試掘トレンチ8箇所を設定して重機で遺構確認面まで掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序〔 〕内は層厚

- | | | |
|------------|-------------|---------------------|
| I層：表土 | 灰褐色土 | [15～37cm] |
| II層： | 褐灰～黒褐色土 | [17～42cm] トレンチ3では欠く |
| III層：地山漸移層 | 灰黄褐～にぶい黄褐色土 | [5～12cm] トレンチ2では欠く |
| IV層：地山 | にぶい黄燈色土 | |

②検出遺構と出土遺物

当該地には、ゴミ投棄のための攪乱坑が見られるとともに、調査対象地北側のトレンチ1～4では1層下に造成土が見られる。

(ア) 遺構

試掘トレンチ2では、柱穴様土坑1基を検出した。

試掘トレンチ4では、焼土遺構1基を確認するとともに、中から土師器底部が出土した。また、時期不明の溝跡1条と柱穴様土坑を検出した。

(イ) 遺物

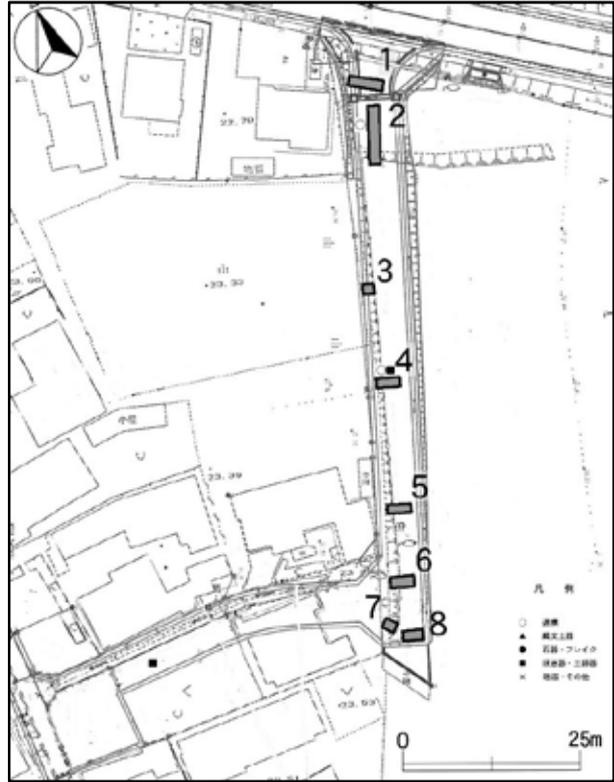
上記のほか、調査対象範囲外で須恵器片1点を地表面採集している。

所見

当該地の北側を中心に古代の遺構・遺物を検出し、平影野遺跡の範囲内であることを確認した。事業実施にあたっては、掘削を伴う範囲について保護措置をとる必要があるため、改めて事業者側と調整する必要がある。



第24図 向能代地区整備事業 位置図



第25図 向能代地区整備事業 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘トレンチ2 完掘状況



試掘トレンチ4 完掘状況



出土遺物

写真11 向能代地区整備事業

4. 道の駅ふたつ移転整備事業

調査地 能代市二ツ井町小繫字泉、字恋の沢地内

調査日 平成26年11月11日

調査面積 13㎡（調査対象面積27,000㎡）

調査に至る経緯

能代市二ツ井地域局は、二ツ井町小繫地区に道の駅ふたつ移転整備事業を計画していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地が地形等から遺跡が存在する可能性があるかと判断し、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成26年9月30日付で調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は米代川右岸沖積地の段丘上に位置し、対岸には七座山、背後には俣后阪が立地する。米代川が大きく蛇行する狭隘部で、上流には天神の埋没家屋が知られており、十和田火山噴火の際にはシラス洪水で氾濫した可能性がある。現況は水田等の耕地として利用されている。

調査の概要及び結果

調査は、事業対象地の約27,000㎡を対象とし、試掘坑8箇所を設定して重機で耕作土以下まで掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序 []内は層厚

I層：耕作土 灰黄褐～にぶい黄褐色土 [16～38cm]

II層： にぶい黄褐色土 炭化粒微量含む [32～39cm]

III層： 灰黄褐～にぶい黄褐色土 [32～39cm]

IV層：砂質土 にぶい黄褐色土 一部グライ化、試掘坑7・8ではシルト岩

②検出遺構と出土遺物

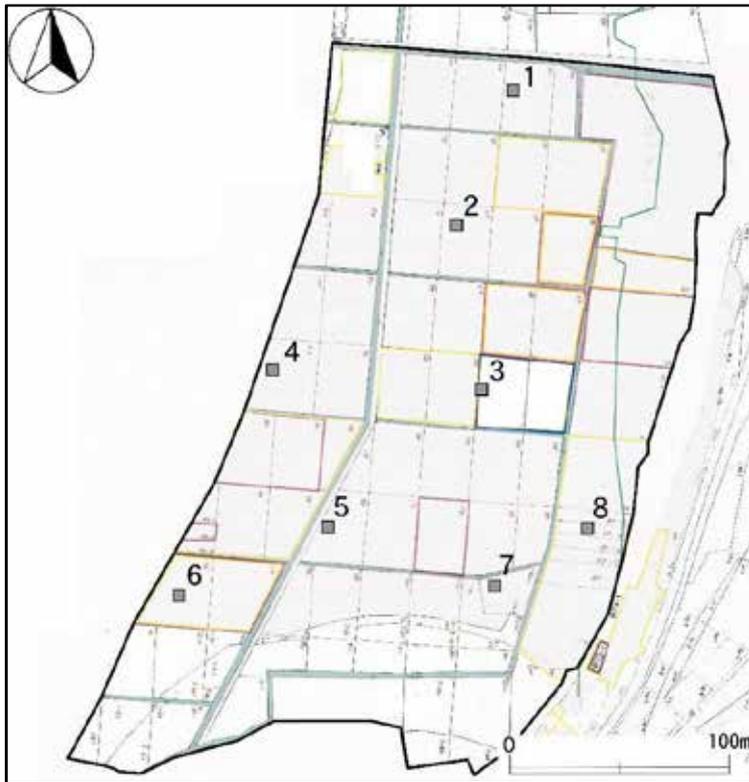
遺構・遺物は確認されなかった。

所見

当該地において、遺跡は存在しないと判断した。



第26図 道の駅ふたつ移転整備事業 位置図



第 27 図 道の駅ふたついで移転整備事業 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑 2 完掘状況



試掘坑 5 完掘状況



試掘坑 8 完掘状況

写真 12 道の駅ふたついで移転整備事業

(3) 平成27年度の調査

1. 個人用住宅新築工事

調査地 能代市向能代字平影野48-74 (平影野遺跡)

調査日 平成27年5月12日

調査面積 5㎡ (調査対象面積168㎡)

調査に至る経緯

向能代地区に住宅の新築を予定していた個人は、住宅会社をとおし能代市教育委員会に建築予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地が周知の平影野遺跡の推定範囲内に位置することから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成27年5月11日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川右岸に展開する東雲台地の南縁に位置し、周辺の標高は23m前後である。昨年度、東側隣接地で実施した市道建設工事に伴う試掘調査では、平安時代に属する遺構・遺物が検出されている。当該地の現況は原野であるが、以前は畑地として利用されていたようである。

調査の概要及び結果

調査は、住宅建築予定地の約168㎡を対象とし、試掘坑5箇所を設定して人力で遺構確認面まで掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序 []内は層厚

I層：表土 黒褐～灰黄褐色土 [2～11cm]

II層：造成土 黒褐～暗褐色土 [17～42cm] 試掘坑5では欠く

III層： 黒褐～暗褐色土 炭化物微量含む [8～24cm] 試掘坑1・3では欠く

IV層：地山 にぶい黄燈～明黄褐色土

②検出遺構と出土遺物

当該地は地山まで削られている箇所も見られるなど、全体に削平を受けており、その後盛土により平坦地に造成されている。

(ア) 遺構

試掘坑1・2では、古代に属すると思われる掘り込みが検出された。

試掘坑3では、時期不明の小土坑が検出されたが、輪郭が鮮明で新しい時期のものと思われる。

試掘坑5では、時期不明の溝と小土坑が検出された。

(イ) 遺物

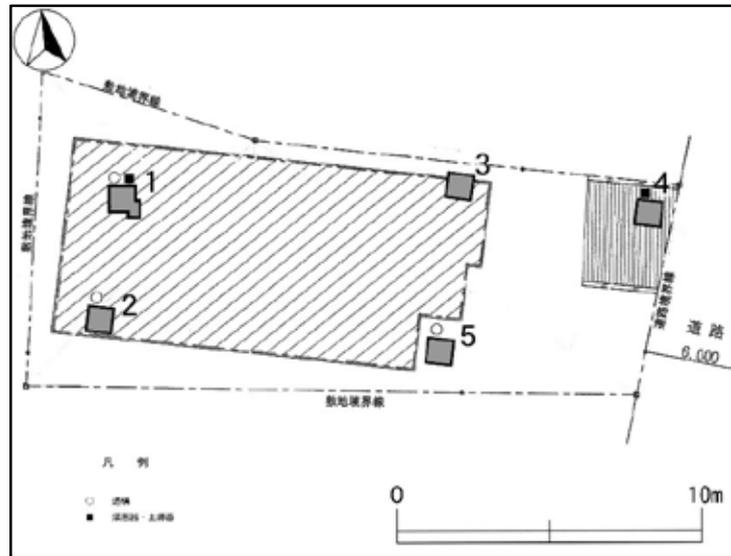
試掘坑1・4で土師器坏が出土した。

所見

当該地からは古代の遺構・遺物が検出され、平影野遺跡の範囲内であることを確認した。工事実施にあたっては、掘削を伴う範囲について保護措置をとる必要があるため、改めて事業者側と調整する必要がある。



第 2 8 図 個人用住宅建築工事 位置図



第 2 9 図 個人用住宅建築工事 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑 1 完掘状況



試掘坑 2 完掘状況



出土遺物

写真 1 3 個人用住宅建築工事

2. 荷上場地区農地集積加速化基盤整備事業

調査地 能代市二ツ井町荷上場地内（市館跡近接地）

調査日 平成27年11月26・27日

調査面積 60㎡（調査対象面積18ha）

調査に至る経緯

秋田県山本地域振興局は、二ツ井町荷上場地区で農地集積加速化基盤整備事業を予定していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地に登録されていないものの、周囲に遺跡が存在し、地形等から遺跡が存在する可能性があることから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成27年9月18日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川支流の藤琴川左岸の沖積地に位置し、東側はきみまち阪県立自然公園のある丘陵地の裾野に接する。周辺の標高は18m前後で、現況は水田または畑地である。

調査の概要及び結果

調査は、平成28年度面工事予定地に試掘坑13箇所を設定して重機で耕作土以下まで掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序〔 〕内は層厚

耕作土と水田に伴う造成土の下は、藤琴川の河成堆積層である砂質土を主体とする層が広く分布している。また、部分的に砂利採取が行われており、その後の客土も見られる（試掘坑1・9）。

I層：耕作土 灰黄褐～にぶい黄褐色土 [10～45cm]

II層： にぶい黄褐色シルト質土 [25～38cm] 試掘坑1・3・5・6・9では欠く

III層： 褐灰～にぶい黄褐色粘質土 [8～60cm]

IV層： 褐灰～にぶい黄褐色粘質土 試掘坑5では植物遺体層

②検出遺構と出土遺物

遺構・遺物は確認されなかった。

所見

当該地において、遺跡は存在しないと判断した。



第 3 0 図 荷上場地区農地集積加速化基盤整備事業 位置図



第 3 1 図 荷上場地区農地集積加速化基盤整備事業 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑 5 完掘状況



試掘坑 1 0 完掘状況



試掘坑 1 3 完掘状況

写真 1 4 荷上場地区農地集積加速化基盤整備事業

3. 高能率生産団地路網整備事業（林業専用道整備事業小沢田線）

調査地 能代市檜山字小木竹沢地内（三岳遺跡・三岳館跡）

調査日 平成27年12月7～10日

調査面積 109m²（調査対象面積1,500m²）

調査に至る経緯

能代市環境産業部林業木材振興課は、檜山地区に高能率生産団地路網整備事業（林業専用道整備事業小沢田線）を計画していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地が周知の三岳遺跡および三岳館跡の推定範囲内に位置することから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成27年11月20日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川支流の檜山川の右岸に形成された河岸段丘上に位置し、標高35m付近に縄文時代晩期の三岳遺跡、その東側の標高56m付近には古代・中世の三岳館跡が所在する。現況は山林と作業用道路である。

調査の概要及び結果

調査は、現道の形状を改変し、掘削など土木工事等の対象となる約1,500m²に試掘坑24箇所を設定して重機で地山あるいは遺物包含層まで掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序〔 〕内は層厚

(ア) 三岳遺跡

I層：表土	黒褐～にぶい黄褐色土	〔10～47cm〕
II層：	黒褐色土	〔25～38cm〕 古代の遺物包含層
III層：地山	明褐～燈色土	

(イ) 三岳館跡

I層：表土	黒褐～灰黄褐色土	〔10～40cm〕
II層：	黒褐色土	〔11～13cm〕
III層：地山漸移層	灰黄褐色シルト質土	〔7～12cm〕
IV層：地山	にぶい黄燈色シルト質土	

※II層以下に、地元で「アマジャク」と呼ぶ軟質泥岩が混入する。

②検出遺構と出土遺物

三岳遺跡では古代の遺物が、三岳館跡では縄文時代前期の遺物が出土し、各遺跡における新たな知見を得ることができた。

(ア) 遺構

三岳遺跡付近の試掘坑2・3では、土坑各1基、試掘坑22では焼土遺構1基が検出された。

三岳館跡付近の試掘坑8土坑1基、試掘坑21では時期不明の溝1条が検出された。

なお、曲輪や堀切、土塁など館跡の縄張りとも見える箇所については、造成の痕

跡は確認できなかった。

(イ) 遺物

三岳遺跡付近の試掘坑 2・22 で土師器片が出土した。

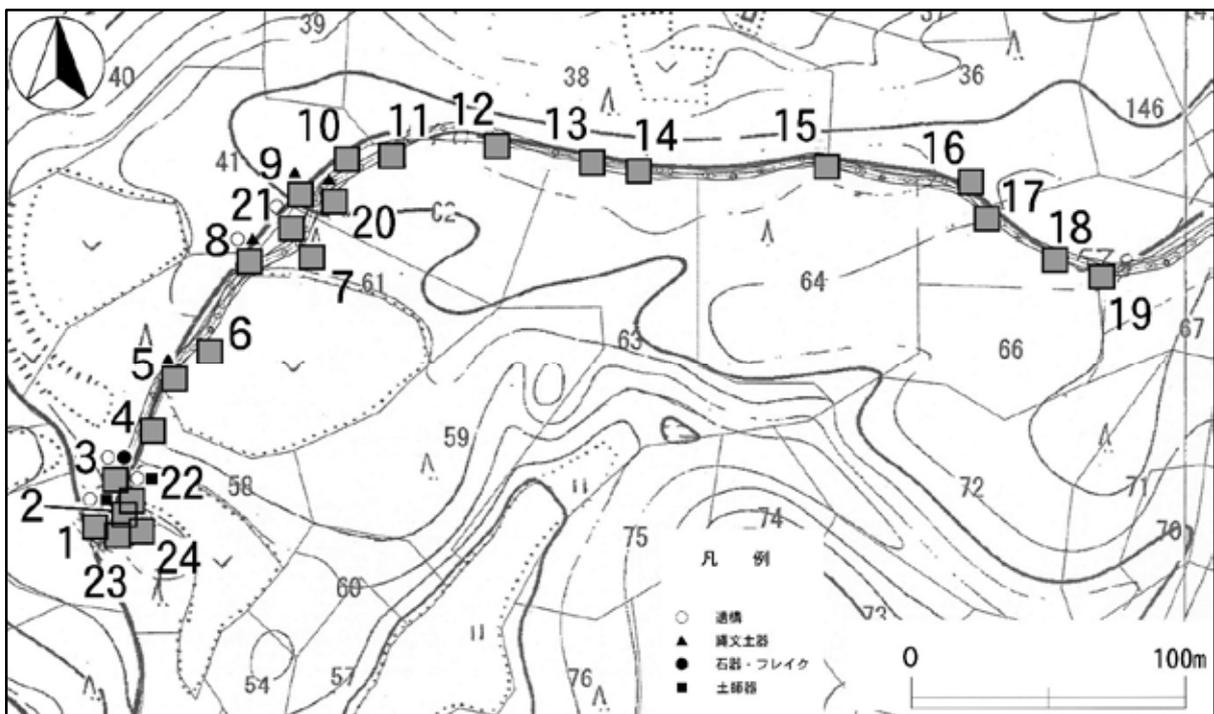
三岳館跡付近の試掘坑 5・8・9・20 で縄文時代前期の土器が、試掘坑 3 でフレイクが出土した。

所見

当該地のうち、路線の一部が三岳遺跡および三岳館跡の範囲内であることを確認した。工事実施にあたっては、掘削を伴う範囲について保護措置をとる必要があるため、改めて事業者側と調整する必要がある。



第 3 2 図 高能率生産団地路網整備事業 位置図



第 3 3 図 高能率生産団地路網整備事業 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑 3 完掘状況



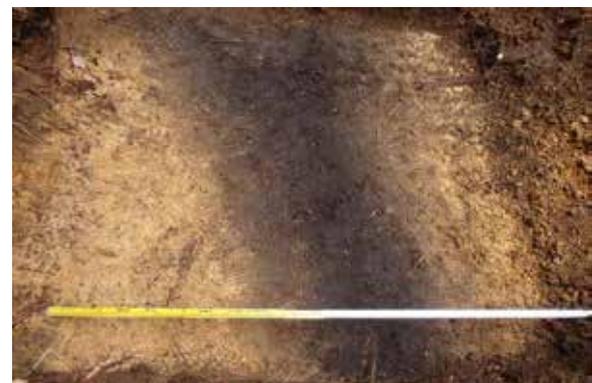
試掘坑 1 4 完掘状況



試掘坑 2 0 完掘状況



試掘坑 2 0 土層



試掘坑 2 2 完掘状況



試掘坑 2 2 完掘状況



出土遺物

写真 1 5 高能率生産団地路網整備事業

4. 個人用住宅改築工事

調査地 能代市鹹淵字鹹淵62（鹹淵遺跡）

調査日 平成28年3月31日

調査面積 3㎡（調査対象面積77㎡）

調査に至る経緯

自宅敷地内に住宅の改築を予定していた個人は、住宅会社をとおし能代市教育委員会に建設予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地が周知の鹹淵遺跡の推定範囲内に所在していることから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川左岸沖積地にある河岸段丘東縁部に位置する。鹹淵神明社の参道脇で、周辺の標高は約8mである。現況は宅地で、旧住宅を解体した更地となっている。

調査の概要及び結果

調査は住宅の基礎部分約77㎡を対象とし、1×1mの試掘坑3箇所を設定して工事計画で示された掘削深45cmを目安に人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序〔 〕内は層厚

当該地は十和田火山の噴火に伴うシラス層に覆われているが、シラス層まで削平を受けている状況を看取できた。

I層：表土 褐灰～灰色土 [15～22cm]

II層：造成土 褐灰～にぶい黄燈色土 [5～17cm] 試掘坑1では欠く

III層：シラス層 灰黄褐～にぶい黄燈色土

②検出遺構と出土遺物

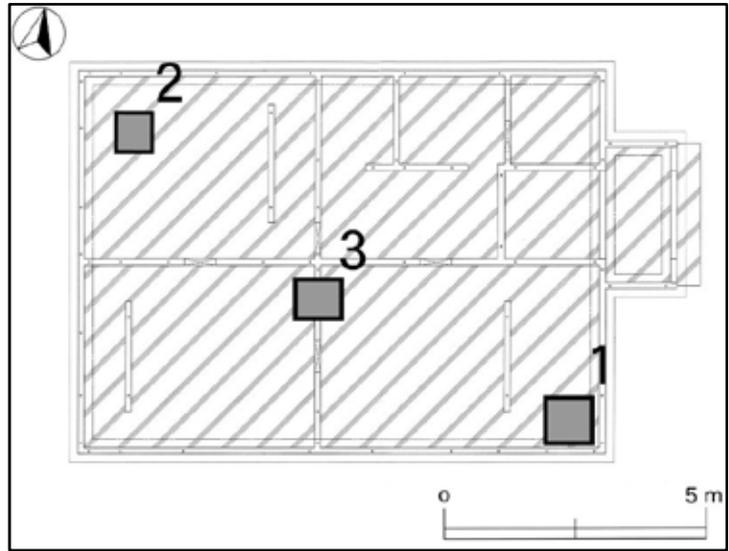
遺構・遺物は確認されなかった。

所見

当該地において工事内容から遺跡への影響は軽微であると判断したものの、周知の鹹淵遺跡の推定範囲内であるため、文化財保護法第93条に基づく届出書の提出を指示した。



第 3 4 図 個人用住宅改築工事 位置図



第 3 5 図 個人用住宅改築工事 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑 1 完掘状況



試掘坑 2 完掘状況



試掘坑 3 完掘状況

写真 1 6 個人用住宅改築工事

(4) 平成28年度の調査

1. 民間(個人) 駐車場整備工事

調査地 能代市向能代字平影野48-30(平影野遺跡)

調査日 平成28年7月21日

調査面積 100㎡(調査対象面積330㎡)

調査に至る経緯

向能代地区に駐車場の整備を予定していた個人は、建築会社をとおし能代市教育委員会に建築予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地が周知の平影野遺跡の推定範囲内に位置することから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成28年6月9日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川右岸に展開する東雲台地の南縁に位置し、周辺の標高は23m前後である。昨年度、東側および南側隣接地で実施した市道建設および住宅新築工事に伴う発掘調査では、縄文時代に属する陥し穴状遺構2基、平安時代に属する竪穴建物跡3軒等が検出されている。当該地の現況は、雑木も見られる原野となっているが、以前は畑地として利用されていたようである。

調査の概要及び結果

調査は、駐車場整備予定地のうち、掘削の対象となる約100㎡を対象とし、重機により遺構確認面まで掘り下げたあと人力で精査し、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序 []内は層厚

I層：表土 黒褐色土 [12~32cm]

II層：地山漸移層 にぶい黄褐色土 [1~4cm]

III層：地山 にぶい黄褐色土

②検出遺構と出土遺物

当該地は地山まで削られている箇所も見られるなど、全体に削平を受けている。

(ア) 遺構

調査区北西隅で、平安時代の竪穴建物跡1棟を検出した。大部分は調査区外に出るが、確認できた東壁長は360cmあり、平面形は隅丸方形を呈する。北東隅付近に焼土・炭化物の広がりが見られ、この付近にカマドがあったものと思われる。

土坑は3基確認され、長径が100cm前後の略円形あるいは長楕円形を呈する。その他、調査対象範囲全面で柱穴様土坑20基を確認している。

(イ) 遺物

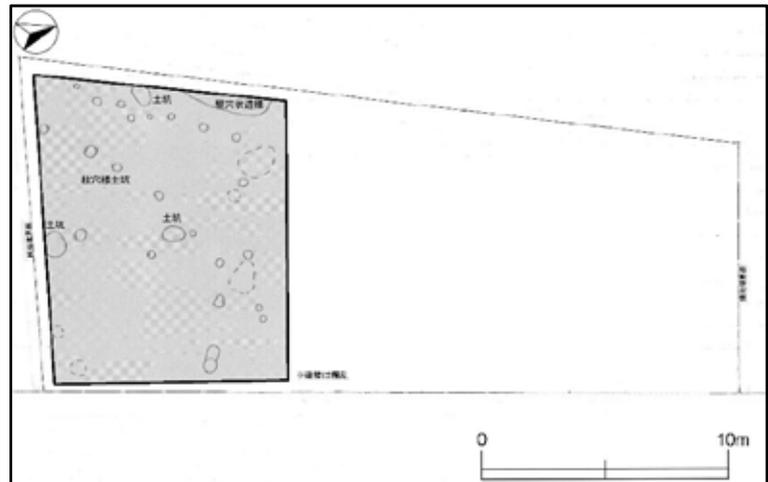
竪穴建物跡から土製支脚と土師器片が、土坑から須恵器片が出土した。遺構外からの出土は土師器片が1点のみである。

所見

当該地からは古代の遺構・遺物が検出され、平影野遺跡の範囲内であることを確認した。工事実施にあたっては、掘削を伴う範囲について保護措置をとる必要がある。



第 3 6 図 民間駐車場建設工事 位置図



第 3 7 図 民間駐車場建設工事 試掘結果図



調査対象地近景（調査終了後）



出土遺物



竪穴建物跡検出状況



土坑検出状況

写真 1 7 民間駐車場建設工事

2. 荷上場地区農地集積加速化基盤整備事業

調査地 能代市二ツ井町荷上場地内（市館跡近接地）

調査日 平成28年11月15～18日

調査面積 7.9㎡（調査対象面積44.9ha）

調査に至る経緯

秋田県山本地域振興局は、昨年度に引き続き、二ツ井町荷上場地区で農地集積加速化基盤整備事業を予定していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地に登録されていないものの、周囲に遺跡が存在し、地形等から遺跡が存在する可能性があることから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成28年10月17日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は昨年度調査対象地の北側、米代川支流の藤琴川左岸の沖積地に位置し、東側丘陵地には中世館跡の市館跡が所在する。周辺の標高は20m前後で、現況は水田または畑地である。

調査の概要及び結果

調査は、平成29年度面工事予定地に試掘坑24箇所を設定して重機で耕作土以下まで掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序 []内は層厚

耕作土と水田に伴う造成土の下は、藤琴川の河成堆積層である砂質土や砂利を主体とする層が広く分布している。また、高岩沢出口付近の試掘坑12ではアマジャク起源の大きな礫が分布するとともに、試掘坑11とともに植物遺体層が確認できる。

I層：耕作土 にぶい黄褐～灰黄褐色土〔8～16cm〕

II層： にぶい黄褐～灰黄色シルト質土～砂質土〔46cm～〕

III層：砂利

②検出遺構と出土遺物

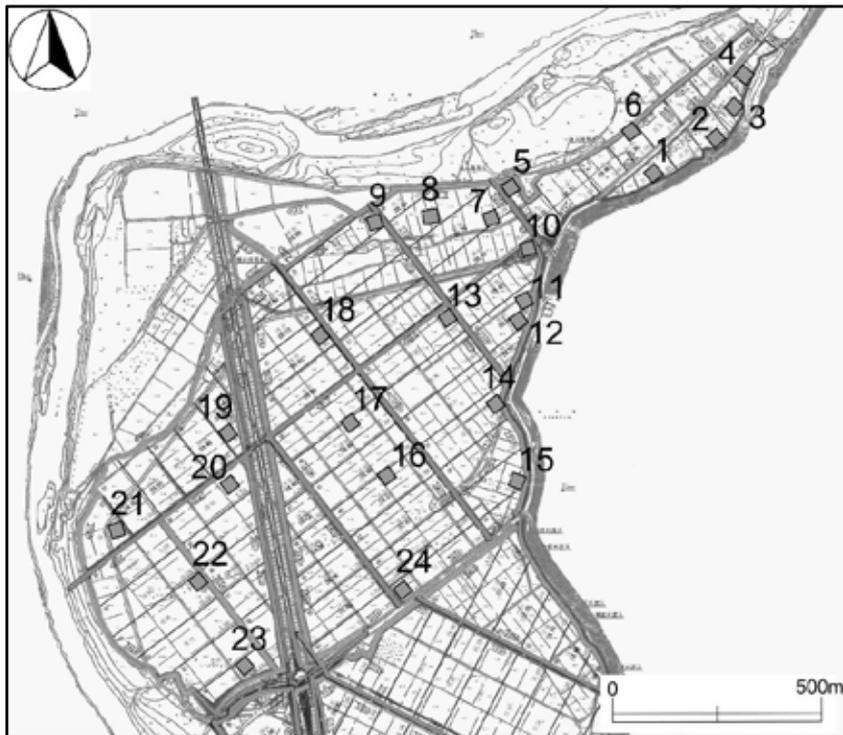
遺構・遺物は確認されなかった。

所見

当該地において、遺跡は存在しないと判断した。



第38図 荷上場地区農地集積加速化基盤整備事業 位置図



第 3 9 図 荷上場地区農地集積加速化基盤整備事業 試掘坑配置図



調査対象地近景



出土遺物



試掘坑 3 完掘状況



試掘坑 1 6 完掘状況

写真 1 8 荷上場地区農地集積加速化基盤整備事業

3. 特別高圧送電線路「森岳線」鉄塔建替工事

調査地 能代市字塞ノ神、字厚柳、字権現台、字笹長根、河戸川字南沢（塞ノ神遺跡）

調査日 平成28年12月20・21日

調査面積 83㎡（調査対象面積745㎡）

調査に至る経緯

東北電力株式会社は、能代東変電所～森岳変電所間を結ぶ特別高圧送電線路「森岳線」の鉄塔建替工事を計画していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地5地点のうち、1地点が周知の塞ノ神遺跡の推定範囲内であること、他の4地点も地形等から遺跡が存在する可能性があることから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成28年12月16日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川左岸の浅内台地上に位置する。調査地点1（鉄塔No.16）は、小野沢集落の西約1kmの舌状台地上、そこから南南東方向の舌状台地上に他の4地点が連なる。地目は全て山林で、現況は原野または雑木林となっている。

調査の概要及び結果

調査は、各鉄塔敷地を対象とし、試掘坑を各4箇所（各4㎡ただし調査地点3では各1㎡）を鉄塔基礎付近に設定して重機または人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序 []内は層厚

(ア) 調査対象地1

I層：表土	黒褐色土	[6～10cm]
II層：	褐色土	[9cm] 試掘坑3のみ
III層：地山漸移層	にぶい黄褐～褐色土	[3～11cm]
IV層：地山	褐色土	

(イ) 調査対象地2

I層：造成土	灰黄褐～黒褐色土	[5～12cm] 試掘坑2では欠く
II層：表土・旧表土	黒褐色土	[7～14cm]
III層：地山漸移層	褐色土	[2～4cm] 試掘坑1・2では欠く
IV層：地山	褐色土	

(ウ) 調査対象地3

I層：表土	黒褐色土	[11～13cm]
II層：	黒褐色土	[4～14cm]
III層：	黒褐色土 地山ブロック30%	[9cm] 試掘坑3のみ
IV層：地山漸移層	にぶい黄褐～褐色土	[2～3cm] 試掘坑3・4では欠く
V層：地山	褐色土	

(エ) 調査対象地4

I層：表土	黒褐色土	[11~13cm]
II層：地山漸移層	にぶい黄褐色土	[3cm] 試掘坑3では欠く
III層：地山	にぶい黄燈色土	

(オ) 調査対象地5

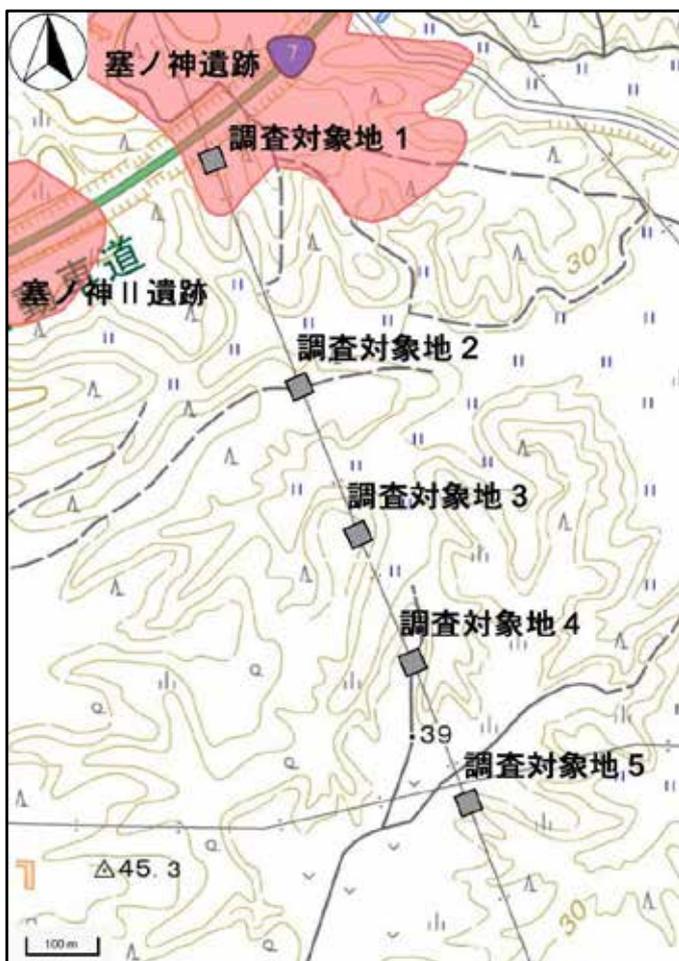
I層：表土	黒褐色土	[11~21cm]
II層：	黒褐色土	[5~15cm]
III層：地山	褐色土	

②検出遺構と出土遺物

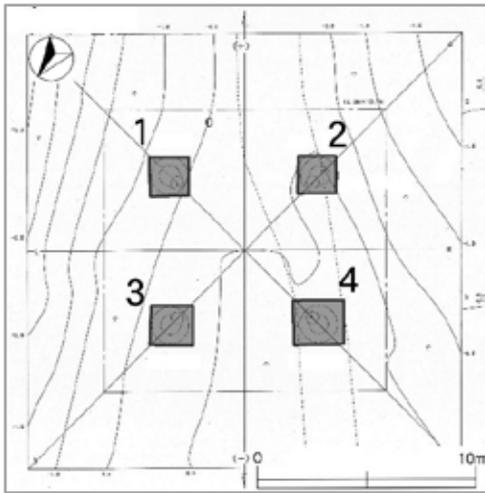
遺構・遺物は確認されなかった。

所 見

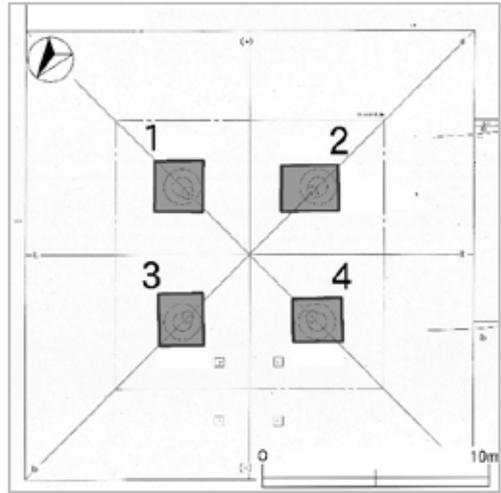
当該地において、遺跡は存在しないと判断したが、調査対象地1については周知の埋蔵文化財包蔵地内であるため、文化財保護法第93条に基づく届出書の提出を指示した。



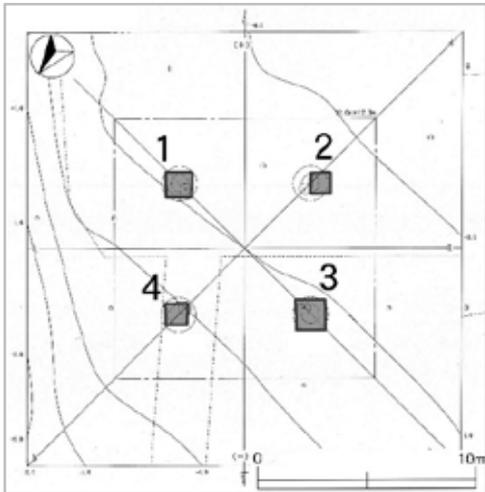
第40図 特別高圧送電線路「森岳線」鉄塔建替工事位置図



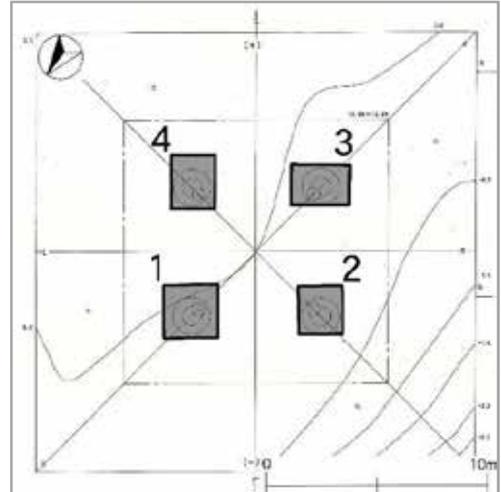
調査地点 1



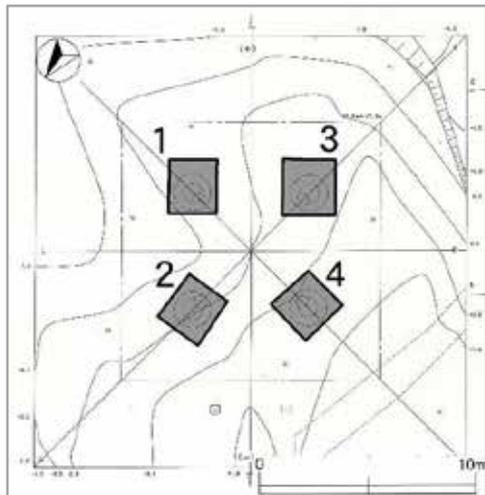
調査地点 2



調査地点 3



調査地点 4



調査地点 5

第 4 1 図 特別高圧送電線路「森岳線」鉄塔建替工事 試掘坑配置図



調査地点 1 近景



調査地点 1 試掘坑 2 完掘状況



調査地点 1 試掘坑 2 土層



調査地点 1 試掘坑 4 完掘状況



調査地点 3 近景



調査地点 3 試掘坑 2 完掘状況



調査地点 5 近景



調査地点 5 試掘坑 4 完掘状況

写真 19 特別高圧送電線路「森岳線」鉄塔建替工事

4. 特別高圧送電線路（桧山支線）建設工事

調査地 能代市中沢字梯ノ台、字新中沢、檜山字新田家ノ前、鹹淵字堤下（梯ノ台遺跡近接地）

調査日 平成29年2月8日、4月18日、6月23日、平成30年9月6日

調査面積 約76㎡（調査対象面積975㎡）

調査に至る経緯

東北電力株式会社は、能代変電所～（仮称）イオンモール新能代店建設予定地間を結ぶ特別高圧送電線路（桧山支線）の建設工事を計画していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地5地点のうち、1地点が周知の梯ノ台遺跡の近接地であること、他の4地点も地形等から遺跡が存在する可能性があることから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成28年12月13日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を事業の進捗にあわせて実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川左岸の志戸橋野地上（調査対象地1・3）と米代川およびその支流の沖積地（調査対象地2・4・5）に位置する。対象地1は、下中沢集落西方約600mの台地上、対象地2は下中沢集落北方約400mの沖積地、対象地3は新田集落南方約200mの細尾根上、対象地4・5は日本海沿岸東北自動車道能代東IC付近の沖積地である。現況は対象地1が原野、対象地3が山林、対象地2・4・5が水田となっている。

調査の概要及び結果

調査は、各鉄塔敷地および作業道整備範囲を対象とし、状況に応じて試掘坑または試掘トレンチを設定して重機で掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

①層 序 [] 内は層厚

(ア) 調査地点1

I層：造成土	変電所建設時の排土	[266～370cm]
II層：旧表土	黒褐色土	[28～51cm]
III層：	黄灰白色土	[8～11cm]
IV層：地山	灰白色土	

(イ) 調査地点2

I層：耕作土	黒褐色土	[14cm]
II層：	黒褐色土	[20cm]
III層：	黒褐色粘質土	[23cm]
IV層：	オリーブ黒色粘質土 植物遺体多量	

(ウ) 調査地点3 ※土層データ記録漏れ

(エ) 調査地点4・5

I層：耕作土	黒褐色土	[18～22cm]
II層：	黒褐色土	[14～16cm]
III層：	黒褐色粘質土	[22～31cm]

IV層： 黒褐色土 植物遺体多量〔15～19cm〕

②検出遺構と出土遺物

遺構・遺物は確認されなかった。

所 見

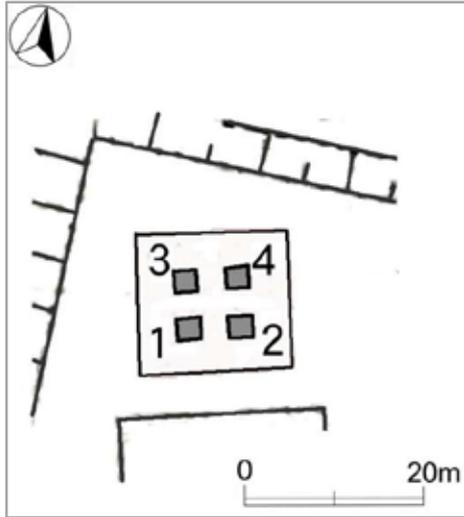
当該地において、遺跡は存在しないと判断した。



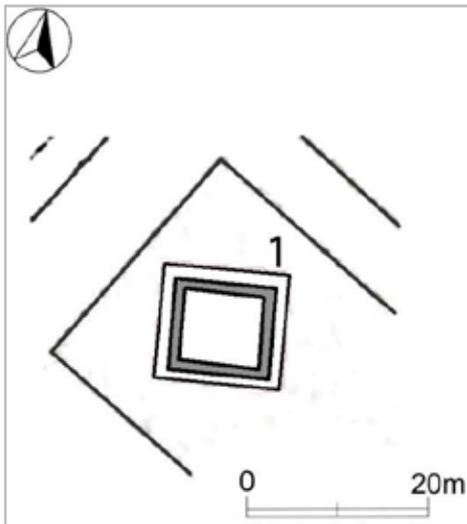
第42図 特別高圧送電線路（桧山支線）建設工事 位置図（1）



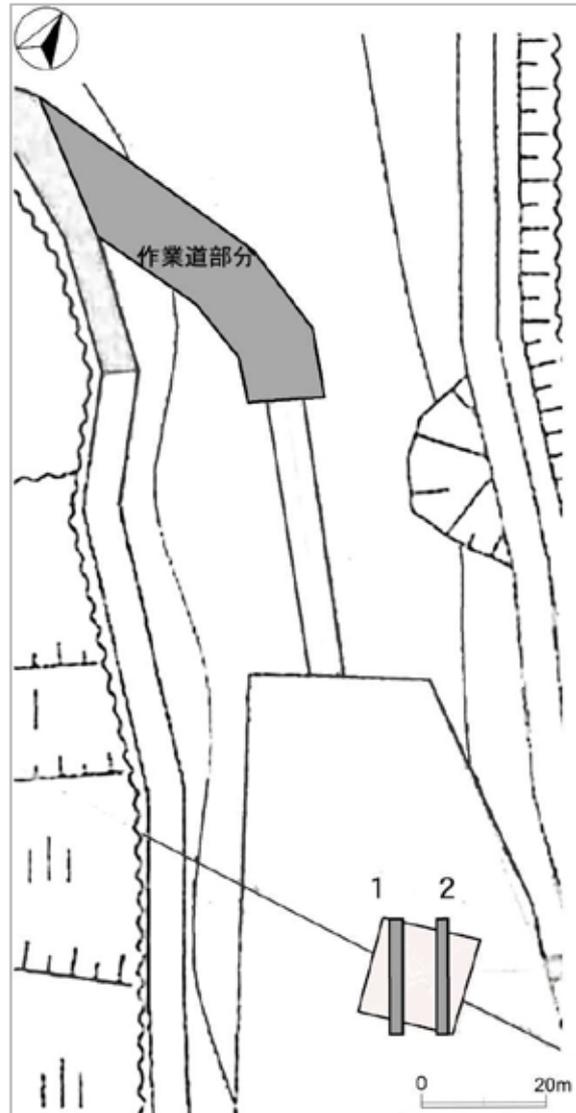
第43図 特別高圧送電線路（桧山支線）建設工事 位置図（2）



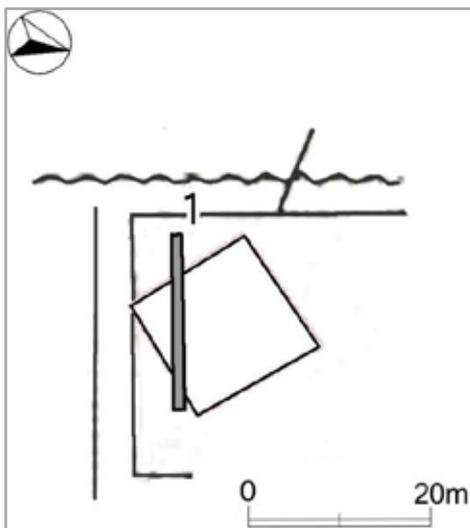
調査地点 1



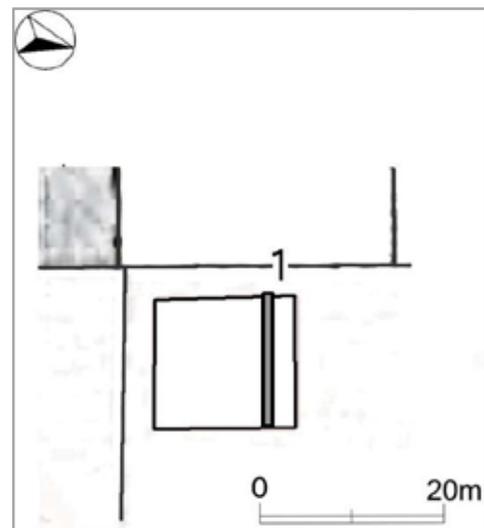
調査地点 2



調査地点 3



調査地点 4



調査地点 5

第 4 4 図 特別高圧送電線路（桧山支線）建設工事 試掘坑配置図



調査地点 1 近景



調査地点 1 試掘坑 1 完掘状況



調査地点 2 近景



調査地点 2 試掘トレンチ 1 完掘状況



調査地点 3 近景



調査地点 3 試掘坑 2 調査状況



調査地点 4・5 近景



調査地点 5 試掘トレンチ 1 完掘状況

写真 20 特別高圧送電線路（桧山支線）建設工事

5. 小掛・鬼神地区農地集積加速化基盤整備事業

調査地 能代市二ツ井町仁鮎字鬼神地内ほか

調査日 平成29年3月16・17日

調査面積 30m² (調査対象面積10.8ha)

調査に至る経緯

秋田県山本地域振興局は、二ツ井町小掛、仁鮎字鬼神地区で農地集積加速化基盤整備事業を予定していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地に登録されていないものの、地形等から遺跡が存在する可能性があることから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成28年10月17日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川支流の内川及びその支流久沢川に沿った沖積地に位置し、標高は20～45mである。当該地の北西部はやや開け、段丘上に周知の小掛遺跡等が所在するものの、それ以外は河川の両側に丘陵地が迫り、一部では急傾斜の崖となっている。現況は水田または畑地である。

調査の概要及び結果

調査は、平成29年度面工事予定地に試掘坑14箇所を設定して重機で耕作土以下まで掘り下げたあと人力で精査し、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序 [] 内は層厚

耕作土と水田に伴う造成土の下は、河成堆積層である砂質土を主体とする層が広く分布している。

(ア) 久沢川流域

- | | | |
|-----------|-------------|--------------------|
| I層：表土・耕作土 | 暗褐～にぶい灰黄褐色土 | [12～21cm] |
| II層： | にぶい黄褐色シルト質土 | 所によりグライ化 [22～38cm] |
| III層： | 灰色粘質土 | [17～56cm] |
| IV層： | 砂利・粗砂層 | ※上流部では細砂～粘土 |

(イ) 内川流域

- | | | |
|-----------|------------|-------------------|
| I層：表土・耕作土 | 灰黄～黒褐色土 | [9～24cm] |
| II層： | 褐色シルト質～粘質土 | [19～58cm] 下流では欠く |
| III層： | にぶい黄褐～褐色土 | 粗砂・礫交じり [17～56cm] |

②検出遺構と出土遺物

試掘坑14で上面25×18cmの小土坑を検出したが、耕作土直下での確認および埋土の状況から新しい時期のものと判断した。その他の試掘地点では遺構・遺物は確認されなかった。

所見

当該地において、遺跡は存在しないと判断した。



第 4 5 図 小掛・鬼神地区農地集積加速化基盤整備事業 位置図



第 4 6 図 小掛・鬼神地区農地集積加速化基盤整備事業 試掘坑配置図



調査対象地近景（久沢川流域地区）



試掘坑 5 完掘状況



調査対象地近景（内川流域地区）



試掘坑 14 完掘状況

写真 2 1 荷上場地区農地集積加速化基盤整備事業

6. 東雲原地区農地集積加速化基盤整備事業

調査地 能代市落合字上大野台地内ほか（上大野台遺跡）

調査日 平成29年3月21～23日

調査面積 269㎡（調査対象面積48.9ha）

調査に至る経緯

秋田県山本地域振興局は、落合、向能代、比八田、竹生、真壁地地区にまたがる東雲原地区で農地集積加速化基盤整備事業を予定していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地は周知の上大野台遺跡の推定遺跡範囲を含むほか、地形等から遺跡が存在する可能性があることから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成28年10月17日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査地は、米代川右岸に展開する海成・河成段丘である東雲台地の西縁付近である。付近の標高は21～27mで、能代平野を構成する中位段丘で米代川の旧河床であったと考えられており、段丘北端は上位段丘との段丘崖となっている。調査対象範囲は、概ね北端をこの段丘崖、東～南端を貝沢川、西端をJR五能線によって画される範囲となる。台地の縁辺に沿って多数の遺跡が分布し、調査対象範囲内にも周知の上大野台遺跡（縄文・弥生）が所在している。東雲台地は、戦後各地からの入植者により開拓されてきたほか、調査地周辺には戦前からの落合集落の草刈り場があり、昭和30年代後半に水田として整備されている。

調査の概要及び結果

調査は、平成29年度面工事予定地に試掘坑または試掘トレンチ21箇所を設定して重機で耕作土以下まで掘り下げたあと人力で精査し、遺構・遺物の有無を確認した。

①層 序 []内は層厚

耕地整備に伴う造成により、部分的に盛土や地山に達する削平が見られるほか、北側の段丘崖付近にはグライ化した粘土が厚く堆積している。

I層：耕作土 暗褐～黒褐色土 [11～26cm]

II層： 黒～黒褐色土 [5～29cm]

III層： にぶい黄褐～灰黄褐色土 試掘地点17～20ではグライ化

②検出遺構と出土遺物

(ア) 遺構

試掘トレンチ5では、時期不明の土坑1基を確認したが、黒色土中から掘り込まれ、埋土にしまりがいいことから新しい時期のものと判断した。

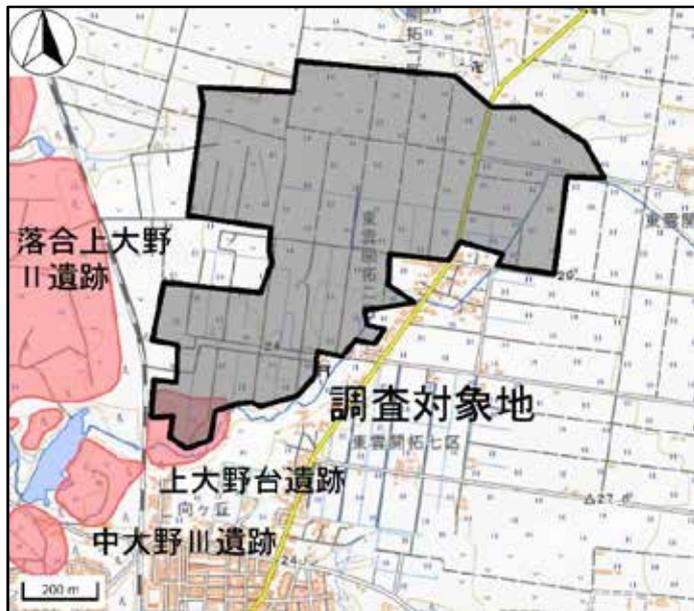
試掘トレンチ9、試掘坑13では、小土坑各1基を確認したが、いずれも遺物は出土せず、時期は不明である。

(イ) 遺物

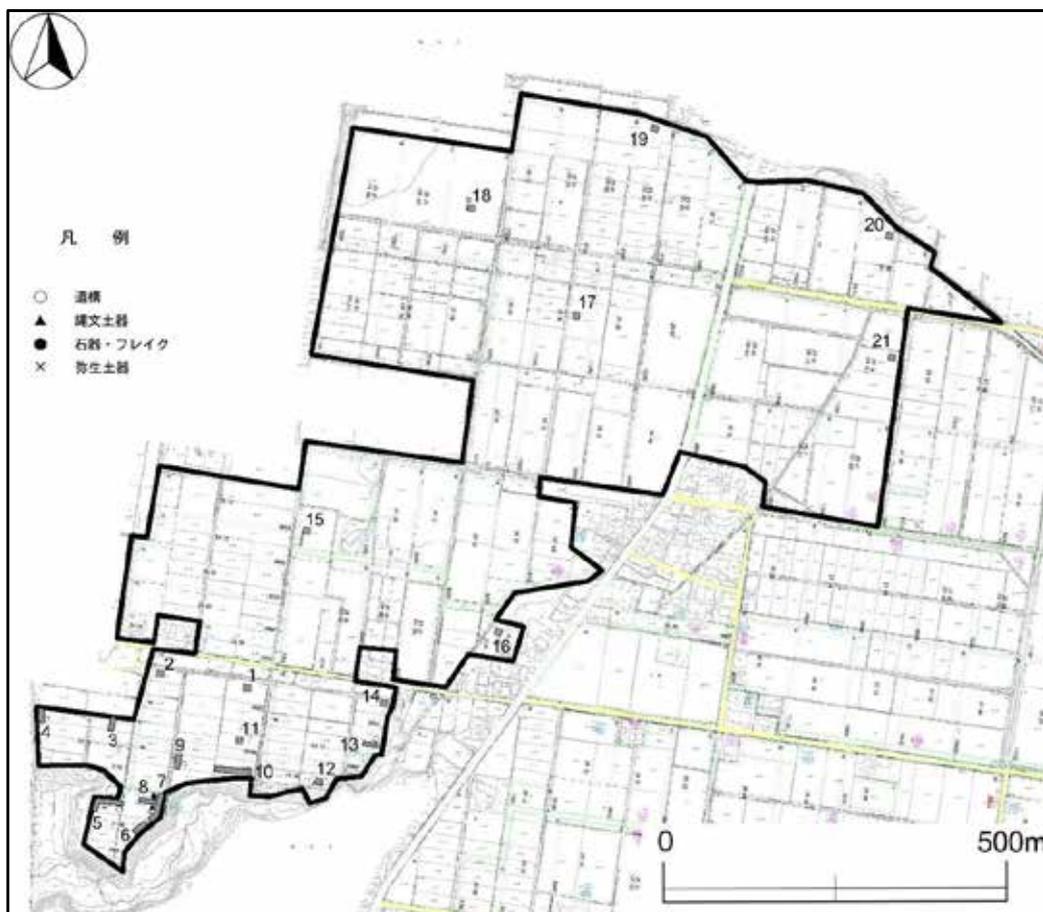
試掘トレンチ7から縄文土器片、剥片、弥生土器片が出土し、周辺を拡張したものの広がり確認できず、攪乱からの出土と判断した。

所 見

当該地において、調査で確認された土坑 1 基、小土坑 2 基については時期が不明あるいは新しいことから、慎重工事での対応が可能と判断したが、周知の上大野台遺跡の推定範囲内であるため、文化財保護法第 9 4 条に基づく通知書の提出を指示した。



第 4 7 図 東雲原地区農地集積加速化基盤整備事業 位置図



第 4 8 図 東雲原地区農地集積加速化基盤整備事業 試掘坑配置図



調査対象地近景（右奥上大野台遺跡）



試掘トレンチ5 完掘状況



試掘トレンチ5 土坑と土層



試掘トレンチ7 完掘状況



試掘トレンチ13 小土坑検出状況



試掘トレンチ7 出土遺物

写真22 東雲原地区農地集積加速化基盤整備事業

(5) 平成29年度の調査

1. 八峰風力発電事業変電施設建設工事

調査地 能代市朴瀬字八森坂地内（八森坂Ⅰ遺跡近接地）

調査日 平成29年4月17日

調査面積 82㎡（調査対象面積1,330㎡）

調査に至る経緯

八峰風力開発株式会社は、朴瀬地区で風力発電事業に伴う変電施設の建設を予定していたことから、能代市教育委員会に建築予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地が周知の八森坂Ⅰ遺跡に近接していることから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成29年4月10日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川右岸に展開する海成・河成段丘である東雲台地の南縁に位置し、付近の標高は28m前後である。当該地の南東には周知の八森坂Ⅰ・Ⅱ遺跡、西には宇藤台Ⅱ遺跡が近接している。八森坂遺跡では、昭和50年に能代山本地区広域農道（現県道常盤峰浜線）建設事業に伴い発掘調査が行われており、今回の調査地から南東に約270mの地点で縄文時代の土坑1基が確認され、縄文土器・石器等が出土している。当該地の現況は、北東側が原野（地目：畑）で南西側が山林（地目：原野）となっている。

調査の概要及び結果

調査は、変電施設敷地のうち、送電用地を除く約1,330㎡を対象とし、試掘トレンチ9箇所を設定して重機により遺構確認面まで掘り下げたあと人力で精査し、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序〔 〕内は層厚

当該地北東側の旧畑地では、耕地整備のため切土・盛土による造成が認められる。南東側のスギ林内は腐植土が20～40cmほど堆積し、ほぼ原地形を残しているものと考えられる。

I層：表土・旧耕作土 黒褐色土 [4～42cm] 黒ボク土

※試掘トレンチ1～4ではこの下に造成土が入る

II層： 黒褐色土 [11～23cm] 試掘トレンチ1・3～5では欠く

III層：地山漸移層 暗褐色土 [4～8cm]

IV層：地山 黄褐色土

②検出遺構と出土遺物

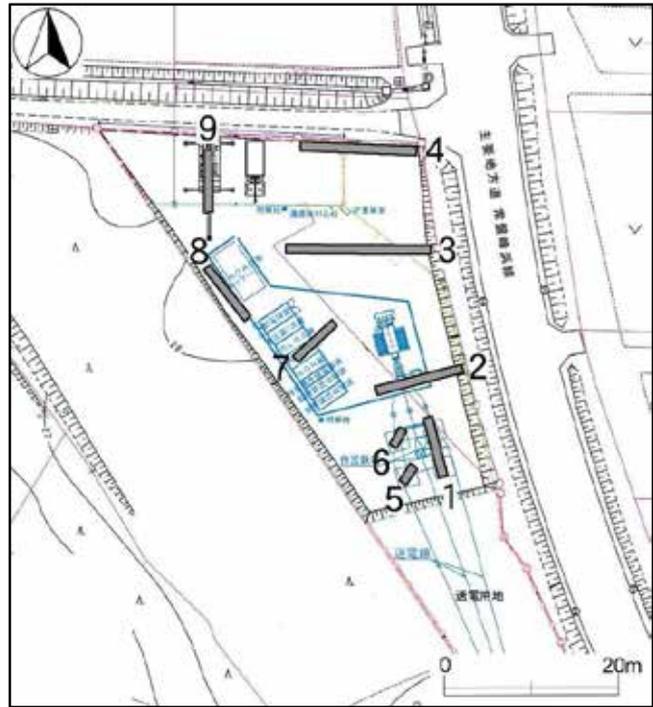
遺構・遺物は確認されなかった。

所見

当該地において、遺跡は存在しないと判断した。



第 49 図 八峰風力発電事業変電施設建設工事 位置図



第 50 図 八峰風力発電事業変電施設建設工事 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘トレンチ3 完掘状況



試掘トレンチ4 完掘状況



試掘トレンチ9 完掘状況

写真 23 八峰風力発電事業変電施設建設工事

2. 山砂採取工事

調査地 能代市中沢字大沢 21-1、字箒沢 75 (蟻ノ台Ⅱ遺跡近接地)

調査日 平成29年5月2日・12日

調査面積 112m² (調査対象面積35, 626m²)

調査に至る経緯

大森建設株式会社は、中沢地区で山砂採取工事を計画していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地2地点のうち、1地点が周知の蟻ノ台Ⅱ遺跡に近接していること、他の1地点も地形等から遺跡が存在する可能性があることから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成29年4月28日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は志戸橋野台地の北縁に位置し、調査対象地1(字大沢地内)は新田集落の南西約350m、調査対象地2(字箒沢地内)は下中沢集落の南南西約850mで標高はともに35m前後である。調査対象地1は、その大部分が北に延びる舌状台地の斜面であり、現況山林である。調査対象地2は犬伏沢に開析された台地の北端部で、南側に縄文時代前期の蟻ノ台Ⅱ遺跡が近接する。調査対象地2の現況も山林である。

調査の概要及び結果

調査は、工事による掘削範囲を対象とし、各地点に試掘坑または試掘トレンチを各4箇所を設定し、調査対象地1は人力で、調査対象地2は重機により地山まで掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序 []内は層厚

(ア) 調査対象地1

I層：表土	黒褐色土	[9~23cm]	
II層：	灰黄褐色土	[19cm]	試掘坑3のみ
III層：	黒褐色土	[7~10cm]	試掘坑1・4では欠く
IV層：地山漸移層	にぶい黄燈~暗褐色土	[4~9cm]	試掘坑4では欠く
V層：地山	にぶい黄褐~褐色土		

(イ) 調査対象地2

I層：表土	黒褐色土	[5~12cm]	
II層：	黒褐色土	[7~14cm]	試掘坑4では欠く
III層：地山漸移層	にぶい黄燈~灰黄褐色土	[2~6cm]	試掘坑3・4では欠く
IV層：地山	にぶい黄褐~にぶい黄燈色土		

②検出遺構と出土遺物

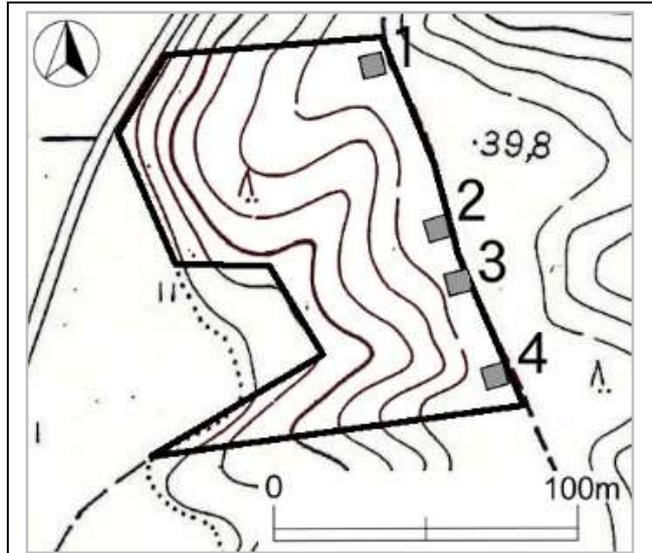
遺構・遺物は確認されなかった。

所見

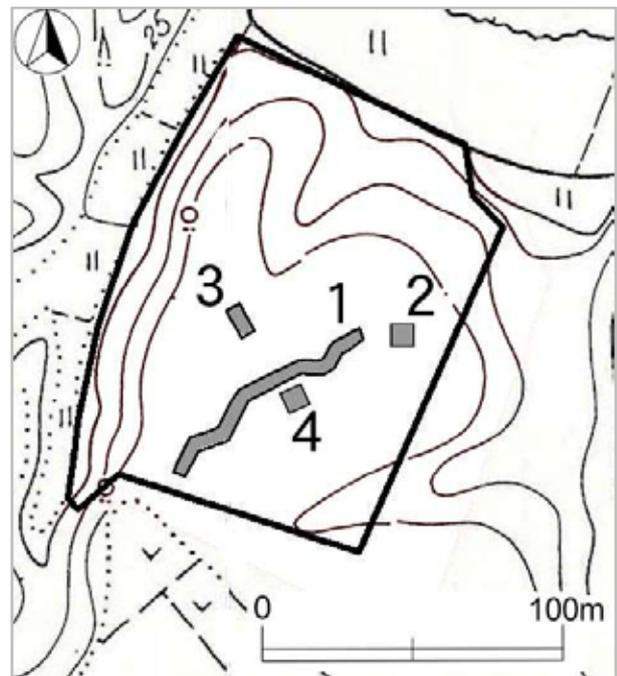
当該地において、遺跡は存在しないと判断した。



第 5 1 図 山砂採取工事 位置図



調査対象地 1



調査対象地 2

第 5 2 図 山砂採取工事 試掘坑配置図



調査対象地 1 近景



調査対象地 1 試掘坑 2 完掘状況



調査対象地 1 試掘坑 4 完掘状況



調査対象地 2 近景



調査対象地 2 試掘トレンチ 1 完掘状況



調査対象地 2 試掘坑 2 完掘状況



調査対象地 2 試掘坑 2 土層

写真 2 4 山砂採取工事

3. 個人用住宅建設工事

調査地 能代市字仁井田白山33（仁井田白山遺跡近接地）

調査日 平成29年6月13日

調査面積 1.2㎡（調査対象面積6.6㎡）

調査に至る経緯

字仁井田白山地内の自宅敷地内に住宅の改築を予定していた個人は、住宅会社をと
おし能代市教育委員会に建設予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委
は、当該地が周知の仁井田白山遺跡に近接していることから、事前調査の必要性があ
る旨を回答した。その結果、平成29年5月26日付けで調査の依頼があり、埋蔵文
化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川左岸沖積地にある河岸段丘上に位置し、中世の仁井田白山遺
跡に近接している。平成25年に同じ敷地内で試掘調査を実施したが、その際には遺
構・遺物は確認されていない。現況は宅地で、旧家屋を解体したあとの更地となっ
ており、基礎を撤去した際に攪乱を受けている。

調査の概要及び結果

調査は住宅の基礎部分を対象とし、試掘坑4箇所を設定して工事計画で示された掘
削深45cmを目安に人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序 []内は層厚

I層：表土 にぶい黄褐色土 [17～31cm] 造成・攪乱土

II層： 暗褐色土 炭化物・焼土微量 [21～31cm]

III層： 黒褐色土

②検出遺構と出土遺物

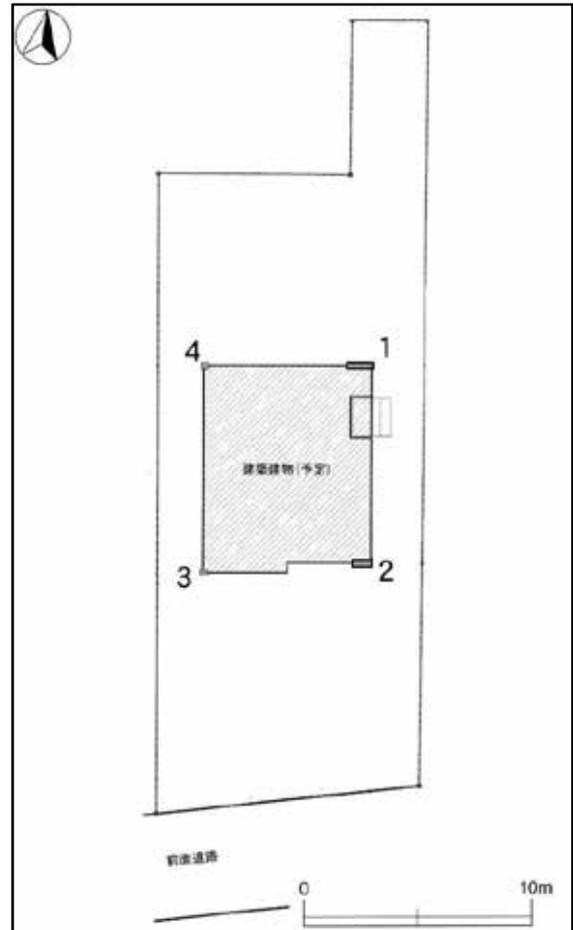
遺構・遺物は確認されなかった。

所見

当該地において、遺跡は存在しないと判断した。



第53図 個人用住宅建設工事 位置図



第54図 個人用住宅建設工事 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑2 土層



試掘坑1 完掘状況

写真25 個人用住宅建設工事

4. 東雲原地区農地集積加速化基盤整備事業

調査地 能代市竹生字笹ノ台地内ほか
調査日 平成29年11月27～28日
調査面積 48㎡（調査対象面積37.5ha）

調査に至る経緯

秋田県山本地域振興局は、昨年度に引き続き落合、向能代、比八田、竹生、真壁地区にまたがる東雲原地区で農地集積加速化基盤整備事業を予定していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地に登録されていないものの、地形等から遺跡が存在する可能性があることから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成29年10月5日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川右岸に展開する海成・河成段丘である東雲台地の西縁付近である。付近の標高は24～28mで、能代平野を構成する中位段丘で米代川の旧河床であったと考えられており、段丘北端は上位段丘との段丘崖となっている。調査対象範囲は、昨年度調査地の東側で、現況は水田あるいは水田を転作した畑地となっている。

調査の概要及び結果

調査は、平成30年度面工事予定地に1.2×2.5m程度の試掘坑16箇所を設定して重機で耕作土以下まで掘り下げたあと人力で精査し、遺構・遺物の有無を確認した。

①層 序 []内は層厚

耕地整備に伴う造成により、部分的に盛土や地山に達する削平が見られるほか、北側の段丘崖付近にはグライ化した粘土が厚く堆積している。

I層：耕作土 黒～黒褐色土 [12～19cm]

※試掘坑1・5・6・8・11・15では直下に造成土

II層： 黒褐～暗褐色土 [10～27cm]

※試掘坑4・7・14～16のみ

III層：地山漸移層 にぶい褐～にぶい黄褐色土 [8～14cm]

※試掘坑1～6・9～13では欠く

IV層：地山 にぶい褐～にぶい黄橙色粘質土

②検出遺構と出土遺物

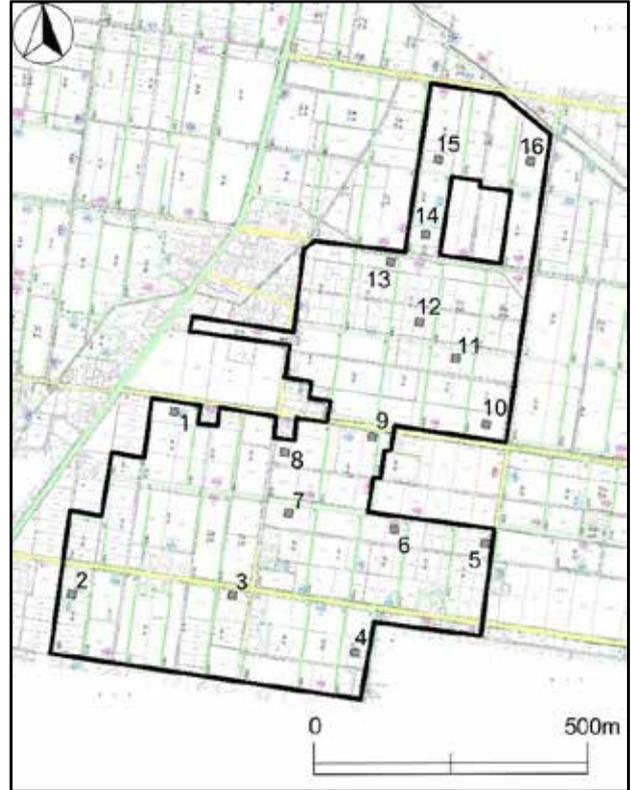
遺構・遺物は確認されなかった。

所 見

当該地において、遺跡は存在しないと判断した。



第 5 5 図 東雲原地区農地集積加速化基盤整備事業 位置図



第 5 6 図 東雲原地区農地集積加速化基盤整備事業 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑 5 完掘状況



試掘坑 9 完掘状況



試掘坑 16 完掘状況

写真 2 6 東雲原地区農地集積加速化基盤整備事業

5. 小掛・鬼神地区農地集積加速化基盤整備事業

調査地 能代市二ツ井町小掛地内（小掛遺跡）
調査日 平成29年11月29日～12月1日
調査面積 280㎡（調査対象面積13.9ha）

調査に至る経緯

秋田県山本地域振興局は、昨年度に引き続き二ツ井町小掛、仁鮎字鬼神地区で農地集積加速化基盤整備事業を予定していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地内に周知の小掛遺跡が所在することから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成29年10月5日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川支流の内川沿いの沖積地に位置し、標高は20m前後である。当該地の西端部には周知の小掛遺跡が、さらに西側の段丘上には上ミ山遺跡が所在する。現況は水田または畑地である。

調査の概要及び結果

調査は、平成30年度面工事予定地に試掘坑または試掘トレンチ18箇所を設定して重機で耕作土以下まで掘り下げたあと人力で精査し、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序〔 〕内は層厚

多くの調査地点で、内川の河成堆積物である砂や砂利層の分布が確認できる。また、周辺の水田は、昭和50年ころに耕地整理が行われており、その際の造成土層も各地点で確認できた。

I層：耕作土 灰黄褐～暗褐色土 [13～19cm]

II層： にぶい黄褐色土 [22～38cm] 直上に造成土を挟む地点あり

III層： 灰黄～灰黄褐色土 [17～56cm]

IV層： 砂利・粗砂層 ※調査対象地北部ではグライ化粘土に置き換わる

②検出遺構と出土遺物

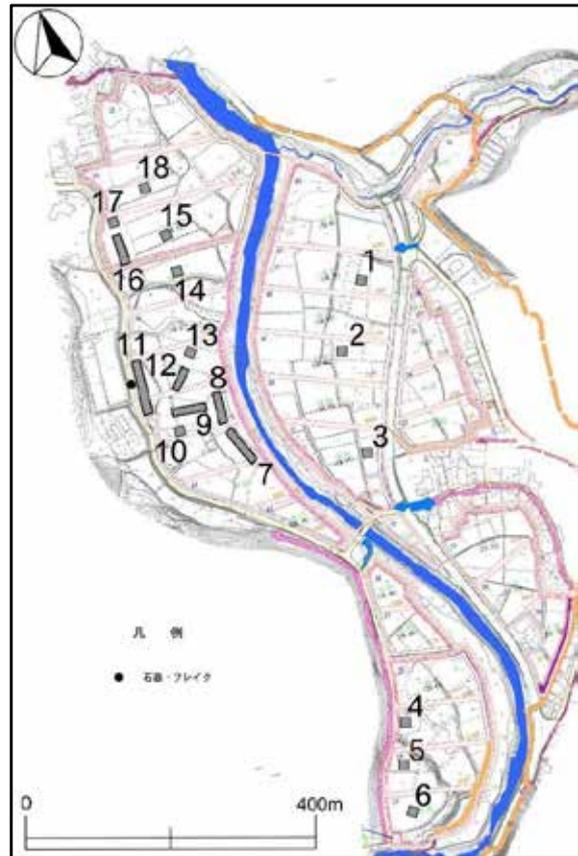
試掘トレンチ11で浅い溝状の落ち込みを検出し、その埋土から縄文時代の石器（石匙）1点が出土したが、周辺からの流れ込みの可能性もある。その他の試掘地点では遺構・遺物を確認できなかった。

所見

当該地において、調査で確認された遺物は石器1点のみであることから、慎重工事での対応が可能と判断したが、周知の小掛遺跡を含むため、文化財保護法第94条に基づく通知書の提出を指示した。



第 57 図 小掛・鬼神地区農地集積加速化基盤整備事業 位置図



第 58 図 小掛・鬼神地区農地集積加速化基盤整備事業 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘トレンチ 11 完掘状況



試掘トレンチ 11 落ち込み部分土層



出土遺物

写真 27 小掛・鬼神地区農地集積加速化基盤整備事業

6. 河戸川・浅内地区農地集積加速化基盤整備事業

調査地 能代市榊・河戸川地内（塩干田遺跡）

調査日 平成30年3月19日～23日

調査面積 495 m²（調査対象面積48ha）

調査に至る経緯

秋田県山本地域振興局は、榊、河戸川、浅内地区で農地集積加速化基盤整備事業を予定していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地内に周知の塩干田遺跡が所在することから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成29年10月5日付で調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川下流左岸の3段化している沖積低地のうち、最も標高の高い面に位置し、北東部には周知の塩干田遺跡が所在している。付近の標高は6～7m前後で、大部分が915年の十和田火山噴火後に発生したシラス洪水によるシラス層に覆われており、東部では1m以上堆積している箇所もある。調査対象地の現況は、耕作あるいは休耕中の水田で、現在までの耕地整理で集積されたシラス（軽石）の小山が点在する独特の景観が見られる。

調査の概要及び結果

調査は、平成30年度面工事予定地に試掘坑または試掘トレンチ52箇所を設定して重機で耕作土以下まで掘り下げたあと人力で精査し、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序〔 〕内は層厚

試掘坑2・3・22を除く各調査地点で、シラス層を確認できる。シラス層の上部は基本的に耕作土か造成土である。

I層：耕作土 黒褐色土 [13～24cm]

II層：シラス層 灰黄褐～暗灰黄色土 [10cm～] 直上に造成土を挟む地点あり

III層： にぶい黄褐～にぶい黄橙色土 [16～37cm] 欠く地点あり

IV層： 黒褐色土 [18～23 cm]

V層： 灰黄褐色粘質土 地点によりグライ化

②検出遺構と出土遺物

(ア) 遺構

試掘坑35では、土坑1基を検出した。

(イ) 遺物

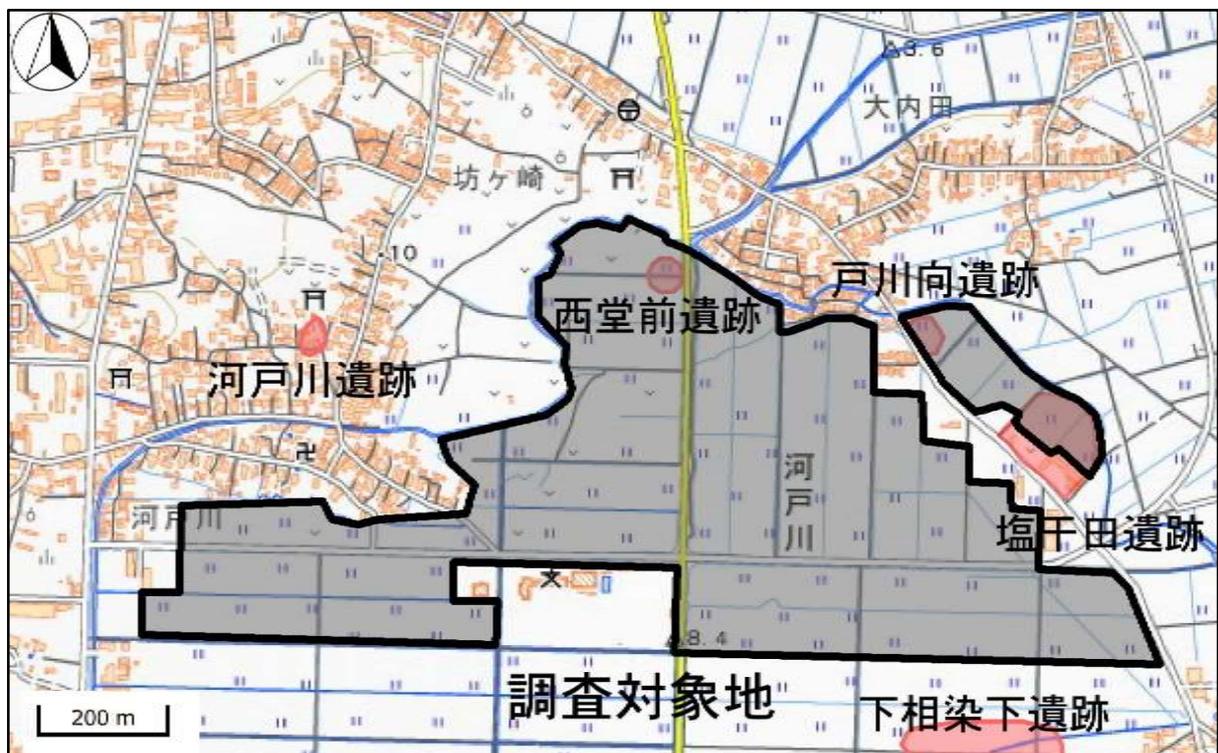
試掘坑35・37では、古代の遺物包含層を確認した。

試掘坑24ではII層中から、試掘坑34では4層中から土師器片が各1点出土した。

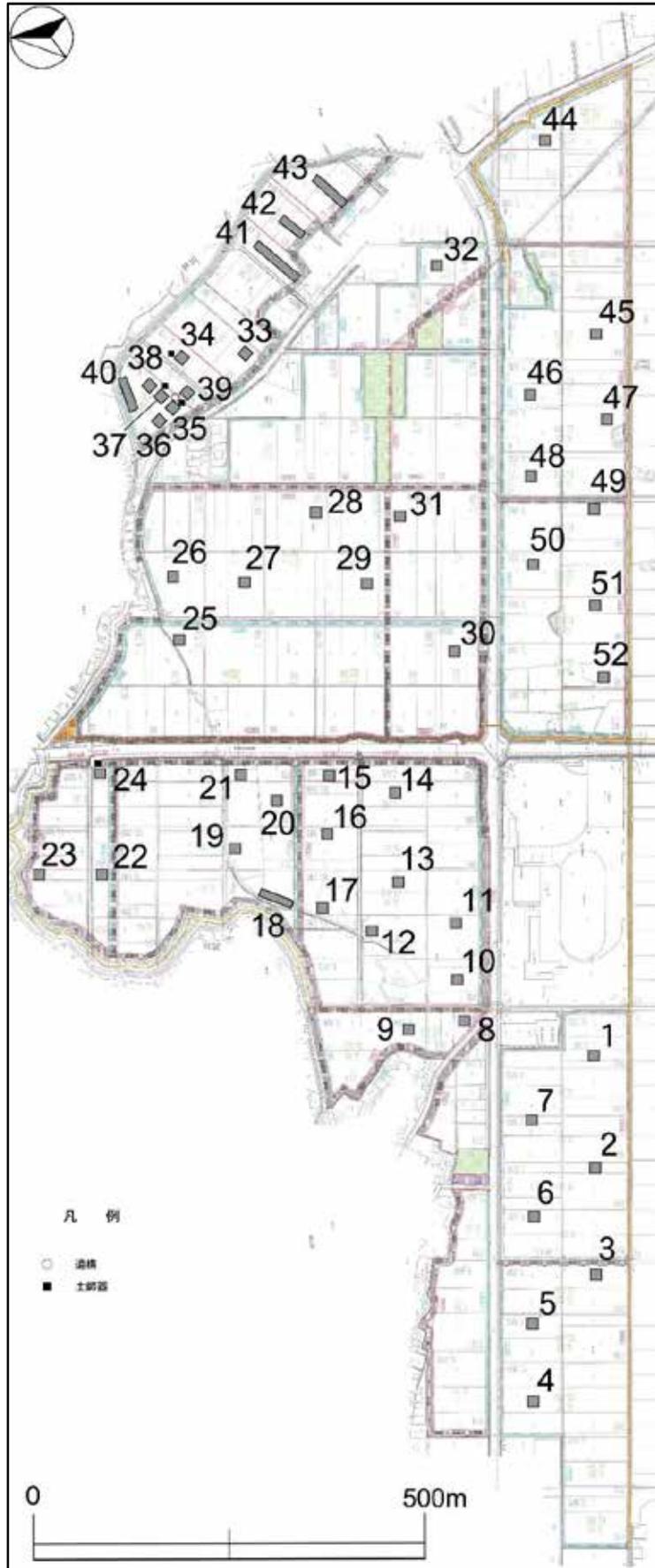
所見

当該地において、遺構が検出され、遺物包含層が確認された試掘坑35周辺を新発見の戸川向遺跡、遺物が出土した試掘坑24周辺を西堂前遺跡として登録した。周知の塩干田遺跡の推定範囲内では湿地の様相を呈しており、遺構・遺物は確認できな

った。戸川向遺跡の遺構検出面及び遺物出土層は、面工事による掘削深以下であるため、面工事については慎重工事で対応が可能であるが、用排水路工事等で現地表面から40cm以上の掘削の際には事前の保護措置が必要になる。



第59図 河戸川・浅内地区農地集積加速化基盤整備事業 位置図



第 60 図 河戸川・浅内地区農地集積加速化基盤整備事業 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑 3 完掘状況



試掘トレンチ 18 完掘状況



試掘坑 25 完掘状況



試掘坑 35 包含層確認状況 (右下: 土坑)



試掘坑 35 土層



試掘トレンチ 37 完掘状況



出土遺物

写真 28 河戸川・浅内地区農地集積加速化基盤整備事業

7. 特別高圧送電線路「米代線」No.10鉄塔建替工事

調査地 能代市朴瀬字八森坂、字宇藤坂地内（八森坂Ⅰ遺跡近接地）

調査日 平成30年3月26日

調査面積 15㎡（調査対象面積224㎡）

調査に至る経緯

東北電力株式会社は、朴瀬地区で特別高圧送電線路「米代線」No.10鉄塔建替工事を予定していたことから、能代市教育委員会に建築予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地が周知の八森坂Ⅰ遺跡に近接していることから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成30年1月18日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川右岸に展開する海成・河成段丘である東雲台地の南縁で、台地を開析する沢の源頭部にあり、付近の標高は28m前後で、現況は山林および原野である。当該地の南東には周知の八森坂Ⅰ・Ⅱ遺跡、西には宇藤台Ⅱ遺跡が近接している。八森坂遺跡では、昭和50年に能代山本地区広域農道建設事業に伴い発掘調査が行われており、今回の調査地から南東に約260mの地点で縄文時代の土坑1基が確認され、縄文土器・石器等が出土している。また、平成29年4月に北側隣接地で実施した試掘調査では、遺構・遺物とも確認できなかった。

調査の概要及び結果

調査は、鉄塔敷地のうち、基礎工事による掘削範囲を対象とし、2×2mの試掘坑4箇所を設定して重機により遺構確認面まで掘り下げたあと人力で精査し、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序〔 〕内は層厚

- | | | |
|-----------|---------------|----------------------------|
| I層：表土 | 黒褐色土 | 〔14～53cm〕 |
| II層： | 黒色土 | 〔20～23cm〕 遺物包含層 試掘坑2・4では欠く |
| III層： | 黒褐色土 | 〔12～28cm〕 遺物包含層 |
| IV層：地山漸移層 | にぶい黄燈～にぶい黄褐色土 | 〔6～12cm〕 |
| V層：地山 | 黄褐色土 | |

②検出遺構と出土遺物

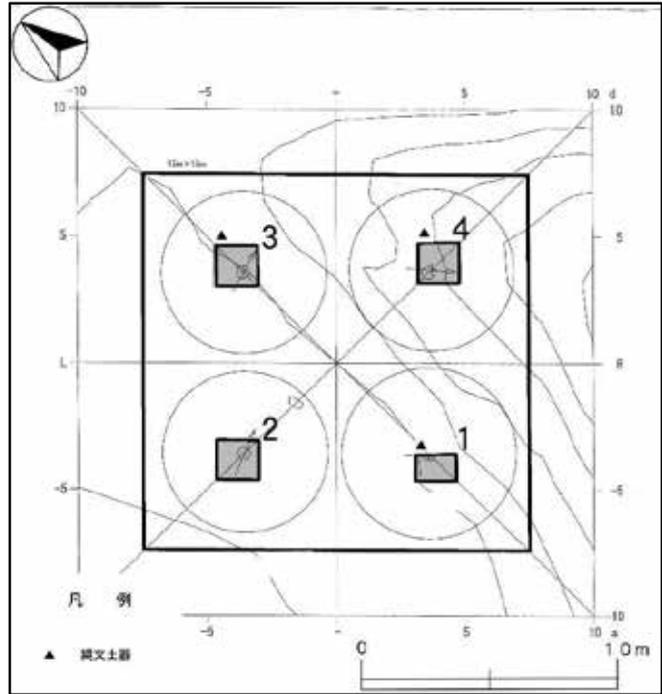
遺構は確認できなかったものの、3地点から縄文時代の土器片が出土した。粘土紐貼付による隆線と半裁竹管による刺突文が施されていることから、縄文時代中期前葉に属するものとみられる。

所見

当該地において、周知の八森坂Ⅰ遺跡の広がり確認されたが、事業に伴う掘削予定箇所の大部分を調査したことになるので、工事による埋蔵文化財への影響は些少であると判断した。



第61図 特別高圧送電線路「米代線」No.10鉄塔建替工事 位置図



第62図 特別高圧送電線路「米代線」No.10鉄塔建替工事 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑1 完掘状況



試掘坑4 完掘状況



出土遺物

写真29 特別高圧送電線路「米代線」No.10鉄塔建替工事

8. 土砂採取事業

調査地 能代市浅内字船沢地内（船沢遺跡）
調査日 平成30年3月28～29日、4月4・5日
調査面積 865㎡（調査対象面積18,000㎡）

調査に至る経緯

白神カントリークラブ株式会社は、浅内地区で土砂採取事業を予定していたことから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地が周知の船沢遺跡の推定遺跡範囲内に位置することから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成29年12月19日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川左岸に展開する海成・河成段丘である浅内台地の北縁に所在する船沢遺跡の推定範囲内である。現況は山林を伐採した原野であるが、南東部分に未伐採の部分を残している。付近の標高は45～50m前後であり、西側は沖積地に接する比高3.5mほどの段丘崖となっている。当該地の南には沢を挟んで縄文・古代の此掛沢Ⅲ遺跡が所在するほか、周辺には数多くの遺跡が分布している。

調査の概要及び結果

調査は、事業による掘削範囲を対象とし、試掘トレンチ19箇所を設定して重機により遺構確認面まで掘り下げたあと人力で精査し、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序〔 〕内は層厚

- | | | |
|------------|-----------|------------------------|
| I層：表土 | 黒褐色土 腐植土 | 〔9～25cm〕 |
| II層： | 黒褐～暗褐色土 | 〔11～38cm〕 試掘坑トレンチ1では欠く |
| III層：地山漸移層 | 褐～にぶい黄褐色土 | 〔4～13cm〕 |
| IV層：地山 | 褐～にぶい黄橙色土 | |

②検出遺構と出土遺物

平安時代に属すると思われる竪穴建物跡2軒のほか、土坑11基、溝4条ほかを確認し、遺構内及び周辺から土師器片、須恵器片が出土した。分布密度はやや低めで、遺物の出土も少量であり、舌状となった台地縁辺部を中心に分布している。

(ア) 遺構

試掘トレンチ1では、上面幅90cmの溝跡1条を検出した。

試掘トレンチ2では、竪穴建物跡1軒、土坑2基を検出した。

試掘トレンチ4では、竪穴建物跡1軒、土坑1基を検出した。竪穴建物跡の平面形は方形を呈するとみられ、確認できる壁長は3.6mである。

試掘トレンチ5では、上面規模19×17cmの柱穴様土坑1基を確認した。

試掘トレンチ6では、土坑1基を確認した。

試掘トレンチ7では、土坑1基を確認した。埋土に焼土を多量に含む。

試掘トレンチ8では、土坑2基を確認した。うち1基は埋土に焼土、炭化物を多量に含む。周辺から土師器片が出土している。

試掘トレンチ12では、土坑2基を検出した。

試掘トレンチ13では、焼土遺構1基を検出した。

試掘トレンチ17では、土坑1基、溝跡1条、焼土遺構1基を検出した。

試掘トレンチ18では、上面幅160cmの溝1条を確認した。

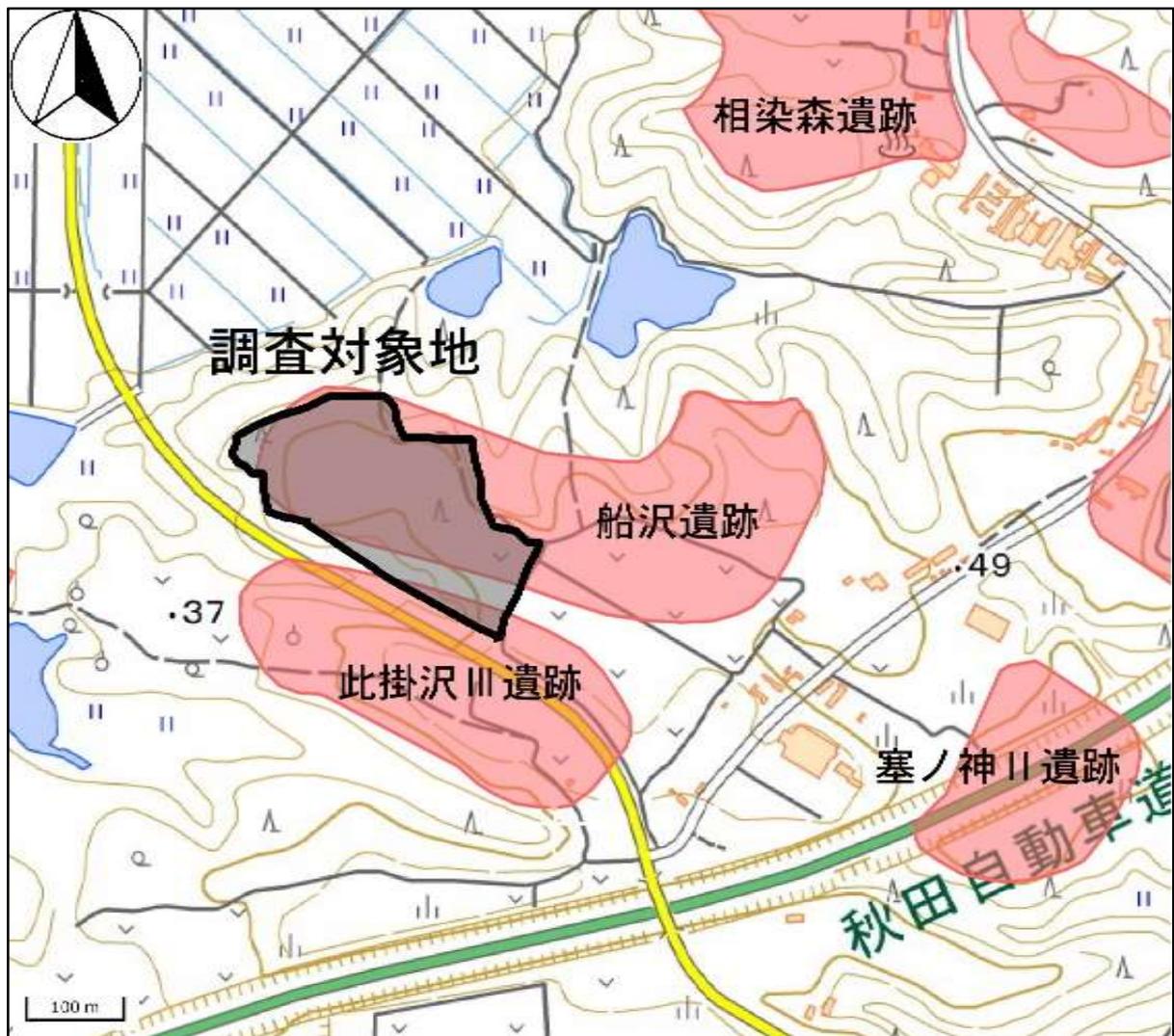
(イ) 遺物

試掘トレンチ7では、須恵器の小片が出土した。

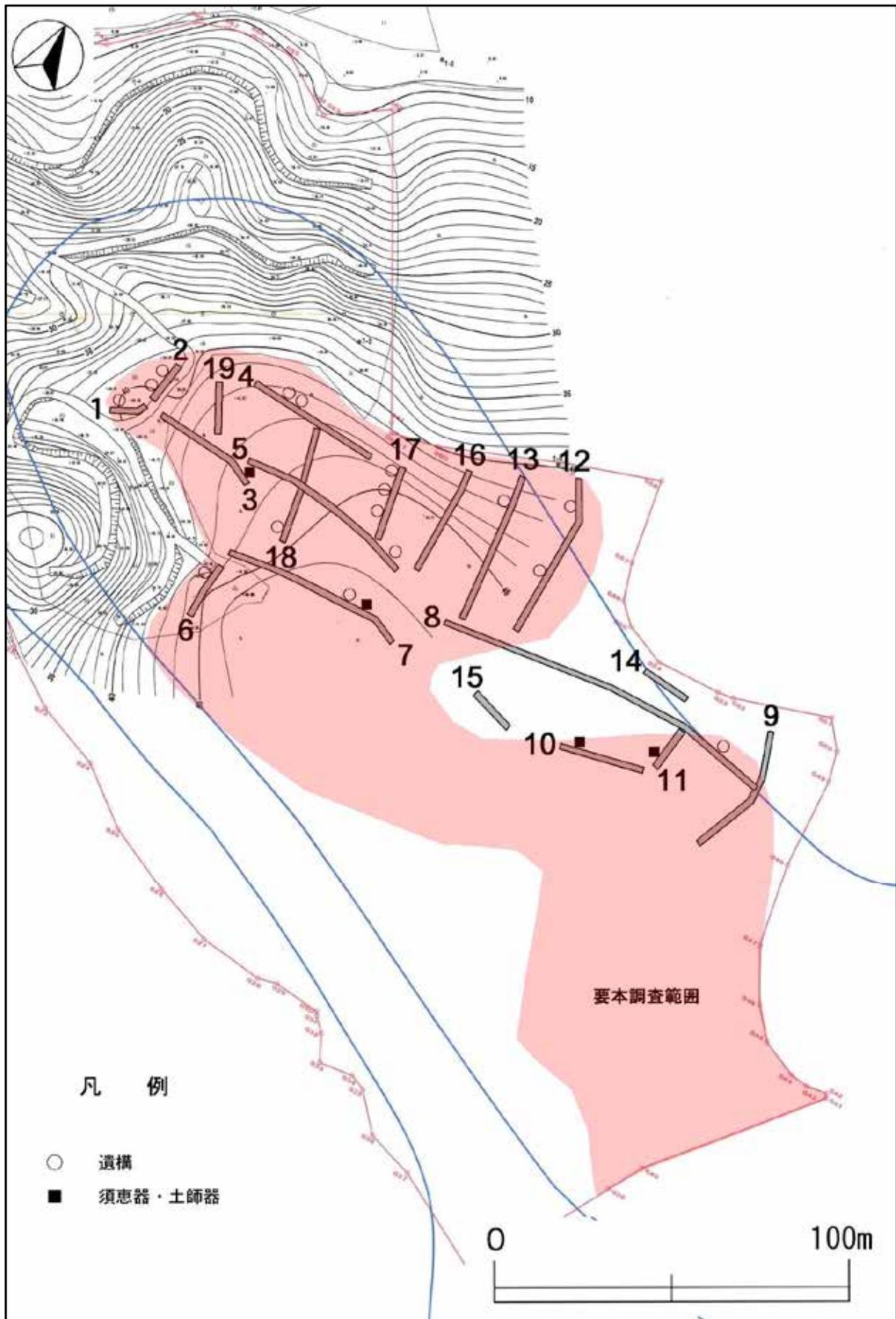
試掘トレンチ2・3・6・10～13・17では、少量ではあるが土師器坏、甕が出土した。

所見

当該地において、未伐採で調査ができなかった部分も含め、台地上のほぼ全面にわたり周知の船沢遺跡が広がっていることが推定される。土砂採取という事業内容から、台地上の約20,000㎡について事前の保護措置が必要と判断する。



第63図 土砂採取事業 位置図



第64図 土砂採取事業 試掘坑配置図



遺跡近景



調査対象地近景況



試掘トレンチ4 竪穴建物跡検出状況



試掘トレンチ7 土坑検出状況



試掘トレンチ8 土坑検出状況



試掘トレンチ10 溝跡検出状況



試掘トレンチ12 土坑検出状況



出土遺物

写真30 土砂採取事業

(6) 平成30年度の調査

1. 特別高圧送電線路「森岳線」鉄塔建替工事

調査地 能代市字九郎左エ門笹台地内

調査日 平成30年5月10日

調査面積 5㎡ (調査対象面積745㎡)

調査に至る経緯

東北電力株式会社は、能代東変電所～森岳変電所間を結ぶ特別高圧送電線路「森岳線」の鉄塔建替工事を計画していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、地形等から遺跡が存在する可能性があることから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成30年4月11日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、志戸橋野台地北西部の小沢の源頭部に位置する。現況は原野で、南側は水田と接しており、付近の標高は30m前後である。当該地の東方約600mには古代の九郎左エ門台遺跡が、西方800mには旧石器～古代の逆川遺跡が所在している。

調査の概要及び結果

調査は、鉄塔敷地を対象とし、鉄塔基礎付近に試掘坑を各4箇所設定して人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序 []内は層厚

I層：表土（造成土）黒褐色土 [16cm～]

II層：地山漸移層 にぶい黄褐色土 [3cm] 試掘坑2のみ

III層：地山 にぶい黄橙色土

②検出遺構と出土遺物

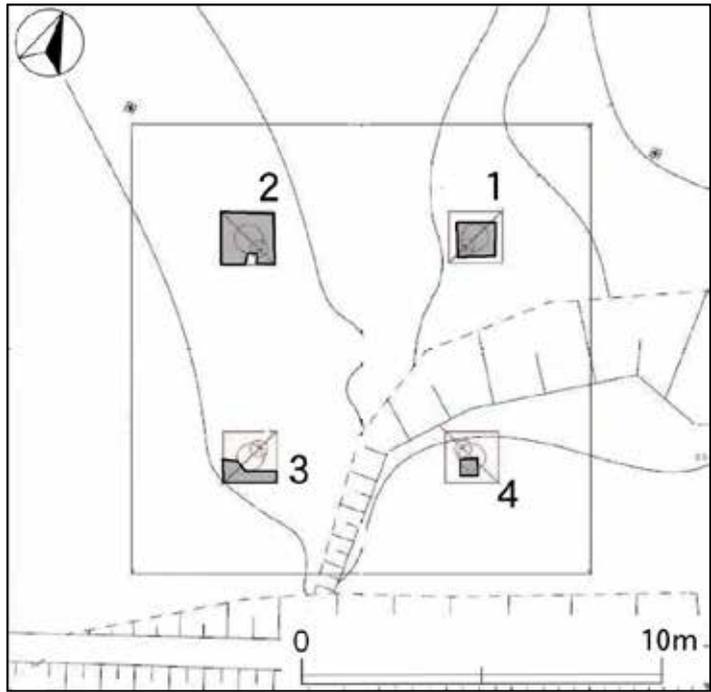
当該地は水田造成時あるいは既存鉄塔建設時に生じたと思われる造成土に覆われ、部分的に地山まで削平されている状況が確認できた。遺構・遺物は確認されなかった。

所見

当該地において、遺跡は存在しないと判断した。



第 6 5 図 特別高圧送電線路「森岳線」鉄塔建替工事 位置図



第 6 6 図 特別高圧送電線路「森岳線」鉄塔建替工事 試掘坑配置図



調査対象地 近景



試掘坑 1 完掘状況



試掘坑 2 完掘状況



試掘坑 3 完掘状況

写真 3 1 特別高圧送電線路「森岳線」鉄塔建替工事

2. 東雲中学校バス停車帯設置工事

調査地 能代市向能代字トトメキ地内（トドメキⅠ遺跡近接地）

調査日 平成30年6月25日

調査面積 23㎡（調査対象面積140㎡）

調査に至る経緯

能代市教育委員会は、市立東雲中学校敷地内でスクールバス停車帯設置工事を予定していたが、当該地が周知のトドメキⅠ遺跡に近接していることから、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川右岸に展開する海成・河成段丘である東雲台地の南西部、台地を南方から開析するトトメキ沢の西岸に位置し、付近の標高は22m前後である。当該地は東雲中学校の学校敷地で、以前は樹木が植栽されていたが、校舎改築事業に伴う整備で芝生化されている。当該地の南には、中学校グラウンドを中心とする周知のトドメキⅠ遺跡が近接しており、平成14年度に実施されたグラウンド整備工事に伴う発掘調査では、古代の土坑群が検出されている。

調査の概要及び結果

調査は、駐車帯予定地140㎡を対象とし、試掘トレンチ4箇所を設定して重機により遺構確認面まで掘り下げたあと人力で精査し、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序〔 〕内は層厚

I層：表土（造成土） にぶい黄褐色土 [26～48cm] 表層は粗砂

II層：黒褐色土（旧表土） [4～29cm]

III層：地山漸移層 にぶい黄褐色土 [8cm] 試掘坑1・2では欠く

IV層：地山 褐～にぶい黄褐色土

②検出遺構と出土遺物

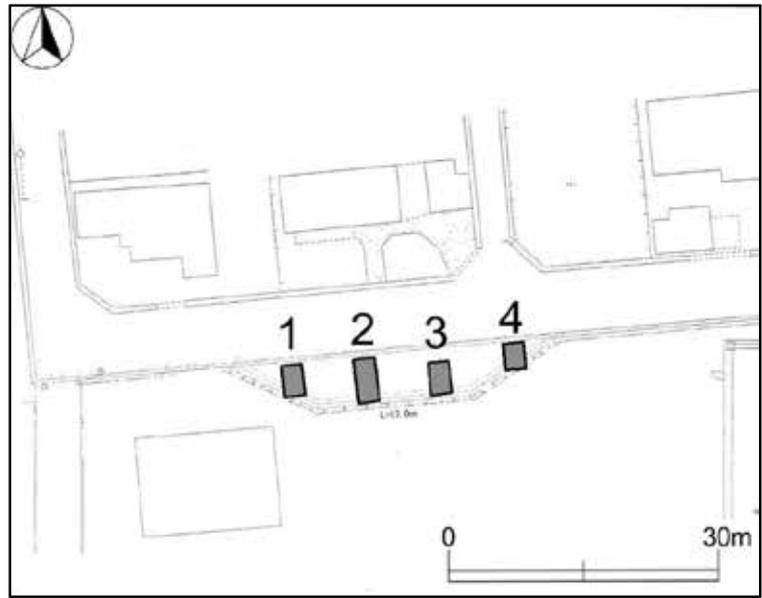
当該地は、旧表土あるいは旧校舎解体時の攪乱の上に造成土が載っている。新しい溝や攪乱は確認されたが、古代に属する遺構・遺物は確認されなかった。

所見

当該地において、遺跡は存在しないと判断した。



第 6 7 図 東雲中学校バス停車帯設置工事 位置図



第 6 8 図 東雲中学校バス停車帯設置工事 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑 1 完掘状況



試掘坑 2 完掘状況



試掘坑 3 完掘状況

写真 3 2 東雲中学校バス停車帯設置工事

3. 北部地区配水管整備事業（竹生ポンプ場建設工事）

調査地 能代市竹生字竹生 85 ほか（竹生Ⅱ遺跡）

調査日 平成30年11月30日

調査面積 72㎡（調査対象面積232㎡）

調査に至る経緯

能代市都市整備部上下水道整備課は、竹生地区で北部地区配水管整備事業に伴う竹生ポンプ場建設工事を計画していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地が周知の竹生Ⅱ遺跡の推定範囲内に位置することから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成30年11月30日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川右岸に展開する海成・河成段丘である東雲台地の北西端部に位置する。当該地の現況は宅地で、平成24年に廃止された旧竹生保育園の前庭部分にあたるが、それ以前には昭和55年度まで竹生小学校敷地として利用されていた。周辺の標高は10m前後で、西側沖積地との比高は約5mである。

調査の概要及び結果

調査は、工事による掘削範囲を対象とし、試掘トレンチを7箇所設定し重機により地山まで掘り下げたあと人力で精査し、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序〔 〕内は層厚

I層：表土（造成土）黒褐色土 [17～25cm]

II層： 黒褐色土 [19cm] 地山粒・炭化物混 試掘坑2では欠く

III層：地山漸移層 褐～暗褐色土 [6～15cm]

IV層：地山 褐色土

②検出遺構と出土遺物

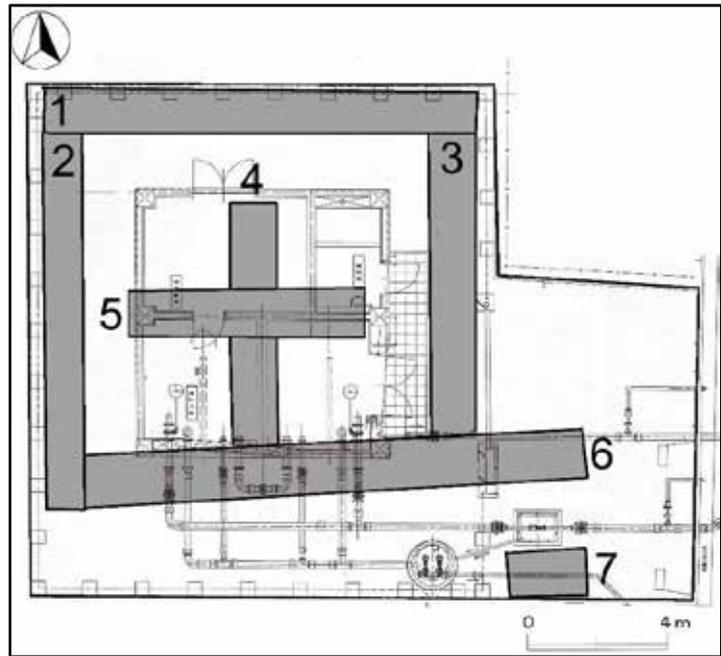
試掘トレンチ1～6から方形主体のピットが複数確認されたが、埋土の締まりが弱く、輪郭が明瞭であるため、新しいものと判断した。旧保育所の門からの通路北側部分からのみの確認であることから、遊具の基礎埋設の痕跡と思われる。その他の遺構・遺物は確認されなかった。

所見

当該地において、遺構・遺物は確認できなかったものの、周知の竹生Ⅱ遺跡の推定範囲内であるため、文化財保護法第94条に基づく通知書の提出を指示した。



第 69 図 北部地区配水管整備事業 位置図



第 70 図 北部地区配水管整備事業 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘トレンチ 1 内ピット確認状況



試掘トレンチ 1 完掘状況



試掘トレンチ 2 完掘状況



試掘トレンチ 5 完掘状況

写真 33 北部地区配水管整備事業

4. 一般国道7号能代地区線形改良事業（排土置場整備）

調査地 能代市二ツ井町駒形字堤沢地内（烏野遺跡）

調査日 平成31年3月18日

調査面積 28㎡（調査対象面積77,900㎡）

調査に至る経緯

国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所は、二ツ井町駒形地区で一般国道7号能代地区線形改良事業に伴う排土置き場の造成を予定していることから、能代市役所二ツ井地域局をとおし、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地に登録されていないものの、地形等から遺跡が存在する可能性があることから、事前調査の必要性がある旨を回答し、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、JR富根駅の南東約2km、米代川左岸で南北に長い舌状を呈する河岸段丘である烏野台地に位置する。当該地は北から台地を開析する小沢の源頭部にあり、周辺の標高は42～47mである。現況は原野であるが、以前は富根地区協議会の採草地として利用されていた。当該地の北東には周知の烏野遺跡が、南東には烏野上台遺跡が近接しており、烏野遺跡は平成元年から10年にかけて、また烏野上台遺跡は平成16年に発掘調査され、縄文時代中期の集落と平安時代の集落の複合遺跡であることが明らかになっている。

調査の概要及び結果

調査は、造成工事による掘削範囲を調査対象とし、1.2×2.5m程度の試掘坑10箇所を設定して重機で地山まで掘り下げたあと人力で精査し、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序〔 〕内は層厚

I層：表土（造成土）	灰黄褐～黒褐色土	〔17～30cm〕
II層：旧表土？	黒褐色土	〔8cm〕 試掘坑5のみ
III層：遺物包含層	にぶい黄褐色土	〔10cm〕 試掘坑5のみ
IV層：地山漸移層	褐色土	〔4cm〕 試掘坑5のみ
V層：地山	にぶい黄褐～明黄褐色土	

②検出遺構と出土遺物

調査対象地の大部分が地山まで削平されていたが、試掘坑5周辺は浅い沢状の地形となっており、遺物包含層が残存していた。

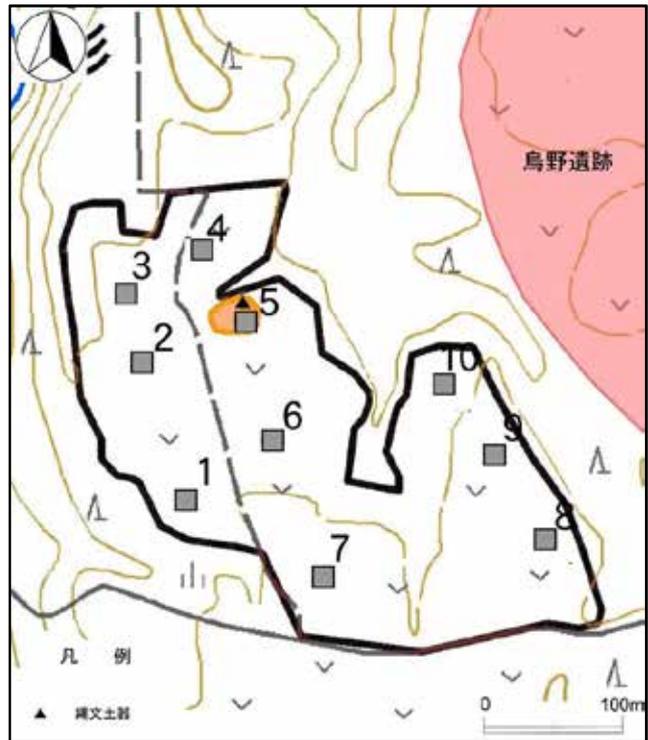
試掘坑5から、縄文土器片が出土したが、遺構は検出されなかった。

所見

烏野遺跡の範囲が、当該地まで広がっていることが確認された。この部分については、工事の際の掘削深を20cm程度にとどめるなど工法に留意するとともに、文化財保護法第94条に基づく通知文書の提出を指示した。



第 7 1 図 一般国道7号能代地区線形改良事業 位置図



第 7 2 図 一般国道7号能代地区線形改良事業 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑1 完掘状況



試掘坑5 完掘状況



試掘坑5 出土遺物

写真 3 4 一般国道7号能代地区線形改良事業

5. 東雲原地区農地集積加速化基盤整備事業

調査地 能代市竹生字笹ノ台地内ほか

調査日 平成31年3月19～20日

調査面積 40m² (調査対象面積51.9ha)

調査に至る経緯

秋田県山本地域振興局は、昨年度に引き続き落合、向能代、比八田、竹生、真壁地地区にまたがる東雲原地区で農地集積加速化基盤整備事業を予定していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地に登録されていないものの、地形等から遺跡が存在する可能性があることから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成30年11月21日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川右岸に展開する海成・河成段丘の東雲台地南西部である。付近の標高は28～40mで、米代川の旧河床であったと考えられる中位段丘とその上位段丘からなり、比高4mほどの段丘崖が当該地のほぼ中央を北西～南東方向に延びている。当該地は、昨年度調査地の東側に位置し、現況は水田あるいは水田を転作した畑地となっている。

調査の概要及び結果

調査は、平成31年度面工事予定地に1.2×2.5m程度の試掘坑17箇所を設定して重機で耕作土以下まで掘り下げたあと人力で精査し、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序 []内は層厚

耕地整備に伴う造成により、部分的に盛土や地山に達する削平が見られる。

I層：耕作土 黒褐色土 [10～26cm]

※試掘坑1～3・6・8・11・16では直下に造成土

II層： 黒～黒褐色土 [9～26cm]

※試掘坑5～7・9・10・16・17のみ

III層：地山漸移層 暗褐～にぶい黄褐色土 [8～14cm]

※試掘坑3・5・6・7・9・10・16・17のみ

IV層：地山 褐～にぶい黄橙色土

②検出遺構と出土遺物

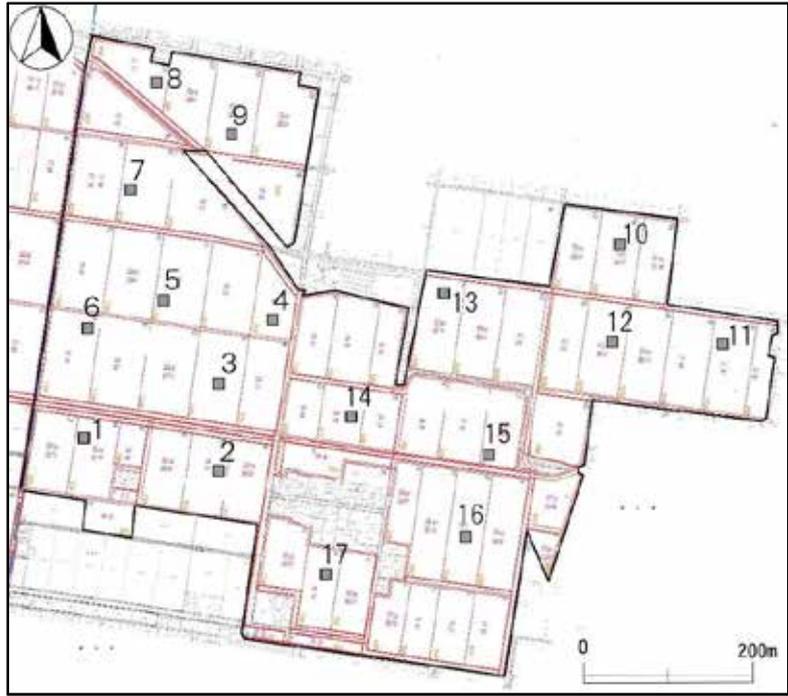
遺構・遺物は確認されなかった。

所見

当該地において、遺跡は存在しないと判断した。



第 7 3 図 東雲原地区農地集積加速化基盤整備事業 位置図



第 7 4 図 東雲原地区農地集積加速化基盤整備事業 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑 1 完掘状況



試掘坑 4 完掘状況



試掘坑 12 完掘状況

写真 3 5 東雲原地区農地集積加速化基盤整備事業

6. 河戸川・浅内地区農地集積加速化基盤整備事業

調査地 能代市浅内・河戸川地内（下相染下遺跡）

調査日 平成31年3月25日～28日

調査面積 129 m²（調査対象面積60 ha）

調査に至る経緯

秋田県山本地域振興局は、昨年に引き続き榊、河戸川、浅内地区で農地集積加速化基盤整備事業を予定していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地内に周知の下相染下遺跡が所在することから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成30年11月21日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川下流左岸の3段化している沖積低地のうち、最も標高の高い面に位置し、東部には周知の下相染下遺跡が所在している。付近の標高は6～10m前後で、大部分が915年の十和田火山噴火後に発生したシラス洪水によるシラス層に覆われている。当該地の現況は、耕作あるいは休耕中の水田で、現在までの耕地整理で集積されたシラス（軽石）の小山が点在する独特の景観が見られる。

調査の概要及び結果

調査は、平成31年度面工事予定地に試掘坑または試掘トレンチ48箇所を設定して重機で耕作土以下まで掘り下げたあと人力で精査し、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序 []内は層厚

試掘坑6・19を除く各調査地点で、シラス層を確認できる。シラス層の上部は基本的に耕作土か造成土である。

I層：耕作土 黒褐色土 [13～25cm]

II層：シラス層 灰黄褐～暗灰黄色土 [3cm～] 直上に造成土を挟む地点あり

III層： 暗灰黄～褐灰色土 [11～64cm] 欠く地点あり

IV層： 黒褐色土 [8～51cm] 直下に植物遺存層を挟む地点あり

V層： 灰黄褐～暗灰黄色粘質土 地点によりグライ化

②検出遺構と出土遺物

(ア) 遺構

遺構の検出はなかった。

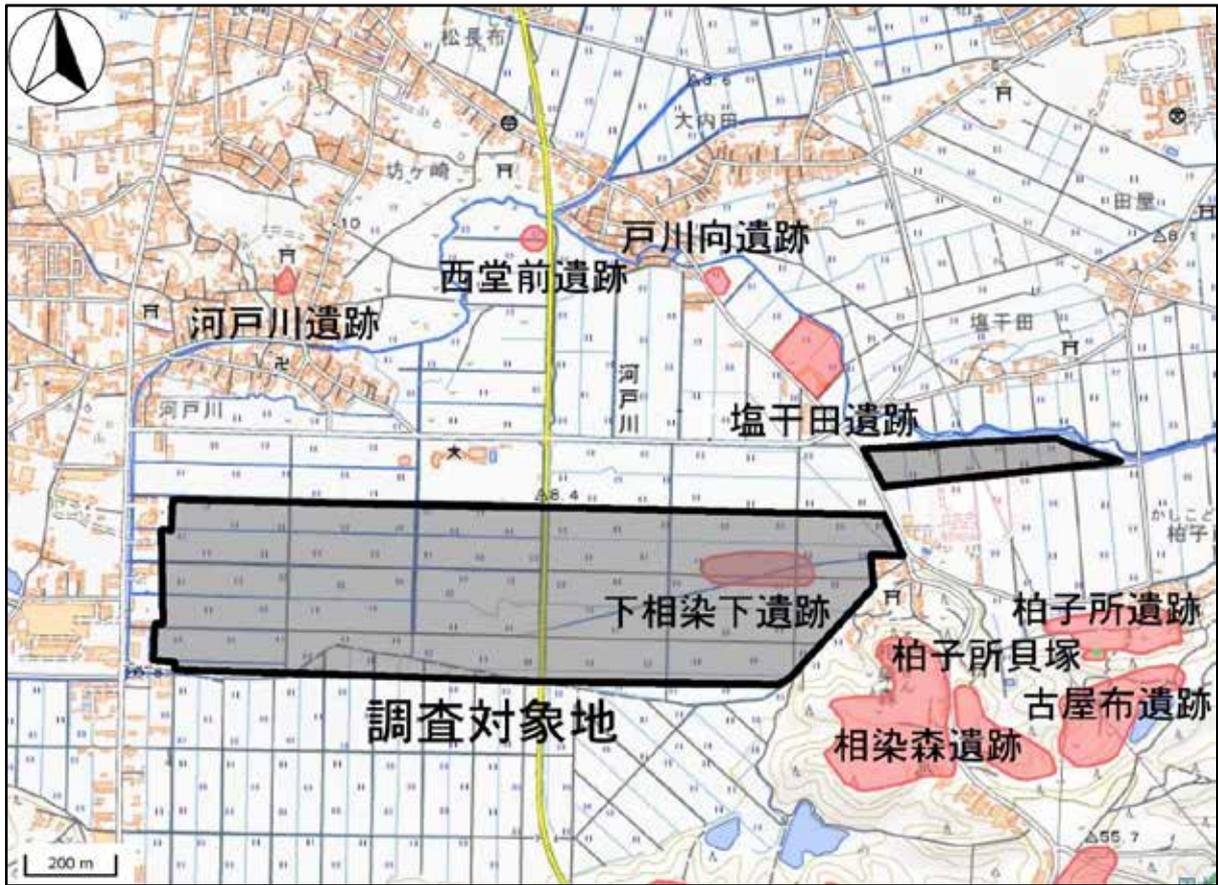
(イ) 遺物

試掘坑41では、現地表面から54cm深のIV層黒褐色土中から須恵器片や土師器片が出土したほか、板状の木材が出土した。

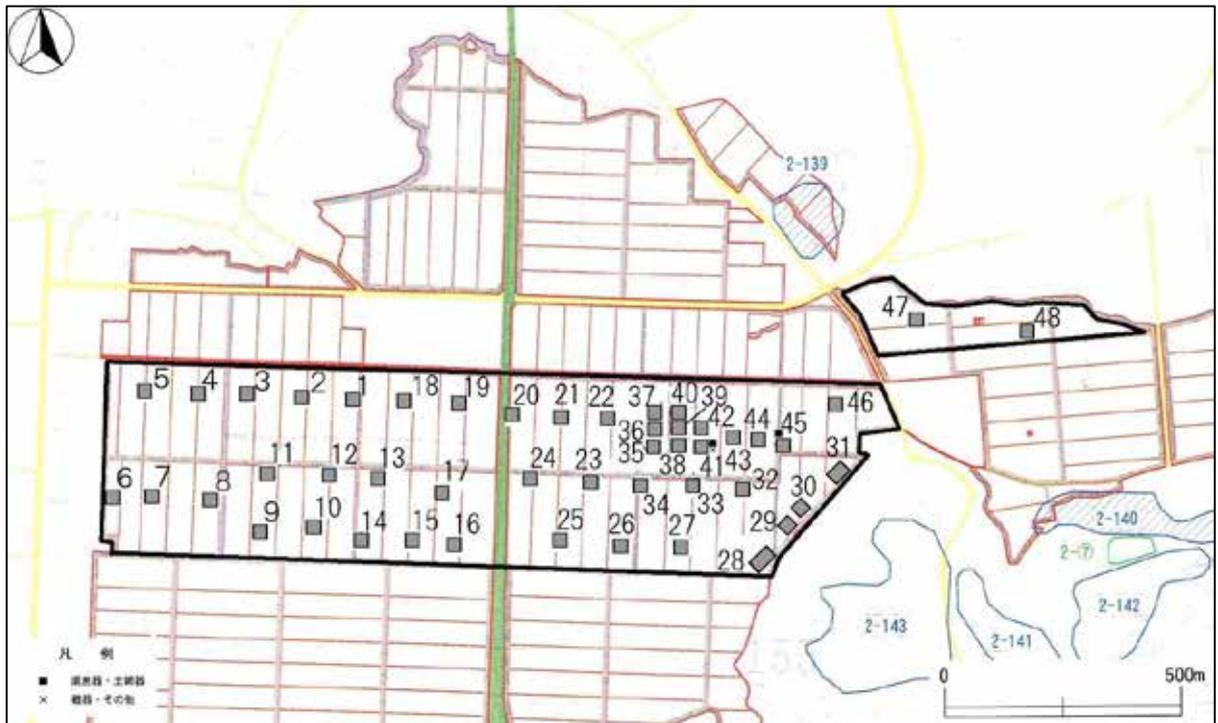
試掘坑45では、現地表面から89cm深のIV層中から土師器片が1点出土した。

所見

当該地において、周知の下相染下遺跡の周辺で遺物が出土し、従来より遺跡範囲が東側に拡大することが明らかになった。遺物出土層は面工事による掘削深以下であるため、面工事については慎重工事に対応が可能であるが、用排水路工事等で現地表面から50cm以上の掘削の際には事前の保護措置が必要になる。



第 7 5 図 河戸川・浅内地区農地集積加速化基盤整備事業 位置図



第 7 6 図 河戸川・浅内地区農地集積加速化基盤整備事業 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑 6 土層



試掘坑 4 1 完掘状況



試掘坑 4 1 土層



試掘坑 4 5 完掘状況



試掘坑 4 5 土層



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)

写真 3 6 河戸川・浅内地区農地集積加速化基盤整備事業

(7) 令和元（平成31）年度の調査

1. 個人用住宅改築工事

調査地 能代市臈淵字臈淵23-1の内（臈淵遺跡）

調査日 平成31年4月24日

調査面積 2㎡（調査対象面積7.5㎡）

調査に至る経緯

自宅敷地内に住宅の改築を予定していた個人は、住宅会社をとおし能代市教育委員会に建設予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地が周知の臈淵遺跡の推定範囲内に所在していることから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、平成31年4月23日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川左岸沖積地にある河岸段丘上に位置し、縄文・中世の散布地である臈淵遺跡の推定範囲内に位置する。当該地の現況は宅地で、周辺の標高は約9mである。

調査の概要及び結果

調査は住宅の基礎部分約7.5㎡を対象とし、1×1mの試掘坑3箇所を設定して工事計画で示された掘削深5.5cmを目安に人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序 []内は層厚

当該地は、現家屋を一部解体した後の更地で、現家屋建築時に約40cm厚の盛土造成がなされている。

I層：表土	黒褐色土	[4~19cm]	試掘坑3では欠く
II層：造成土	灰黄褐~黒褐色土	[5~42cm]	
III層：	黒~オリーブ黒色土	[4~21cm]	火災時の瓦礫等が混入
IV層：	オリーブ黒色土	[10cm~]	湧水
V層：シラス層	暗灰黄色土		

②検出遺構と出土遺物

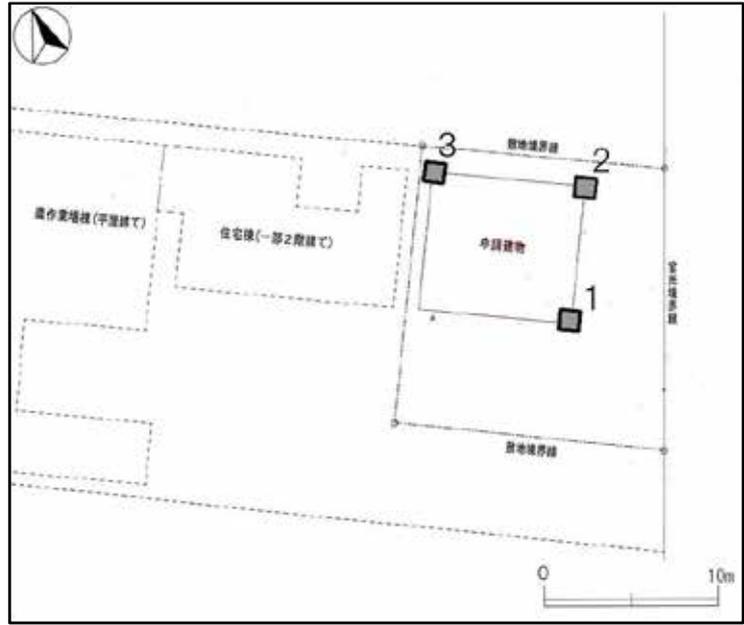
遺構・遺物は確認されなかった。

所見

当該地において、遺構・遺物は確認できず、また工事内容から遺跡への影響は軽微であると判断したものの、周知の臈淵遺跡の推定範囲内であることから、文化財保護法第93条の規定による届出書の提出を指示した。



第 7 7 図 個人用住宅改築工事 位置図



第 7 8 図 個人用住宅改築工事 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑 1 完掘状況



試掘坑 2 土層



試掘坑 3 土層

写真 3 7 個人用住宅改築工事

2. 個人用住宅新築工事

調査地 能代市檜山字赤館 1 1 - 1 (檜山城跡近接地)

調査日 令和元年 6 月 3 日

調査面積 2 m² (調査対象面積 7.6 m²)

調査に至る経緯

自宅敷地内に住宅の新築を予定していた個人は、住宅会社をとおし能代市教育委員会に建設予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地が国指定史跡檜山安東氏城館跡(檜山城跡)に近接していることから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、令和元年 6 月 2 日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、檜山城跡の北麓に近接する沖積低地上に位置し、北側を檜山川が西流している。当該地の現況は宅地で、近世には佐竹氏直臣の松野氏配下の侍屋敷として利用されていた。中世における土地の利用状況は不明であるが、同様の使われ方が想定される。周辺の標高は 19 m 前後である。

調査の概要及び結果

調査は住宅の基礎及び浄化槽設置部分 7.6 m² を対象とし、試掘坑 4 箇所を設定して人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序 [] 内は層厚

- | | | |
|-------------|-------------|-----------------------|
| I 層：表土 | 黒～暗褐色土 | [17～25cm] |
| II 層： | 暗灰黄～暗褐色土 | [9～22cm] 試掘坑 1・3 では欠く |
| III 層：地山漸移層 | にぶい黄橙色土 | [2cm～] 試掘坑 1 のみ |
| IV 層：地山 | にぶい黄橙～暗灰黄色土 | |

②検出遺構と出土遺物

(ア) 遺構

試掘坑 1 では、III 層上面で平面形が 22 × 16 cm の楕円形を呈し、深さ 2.6 cm の小土坑 1 基を検出した。本遺構からの遺物の出土はなかった。

試掘坑 2 では、IV 層上面で平面形が円形を呈すると思われる小土坑 1 基を検出した。規模は不明で、深さは 7 cm である。本遺構からの遺物の出土はなかった。

試掘坑 4 では、IV 層上面で、平面形が直径 1.5 cm の円形を呈し、深さ 1.8 cm の小土坑 1 基を検出した。本遺構からの遺物の出土はなかった。

(イ) 遺物

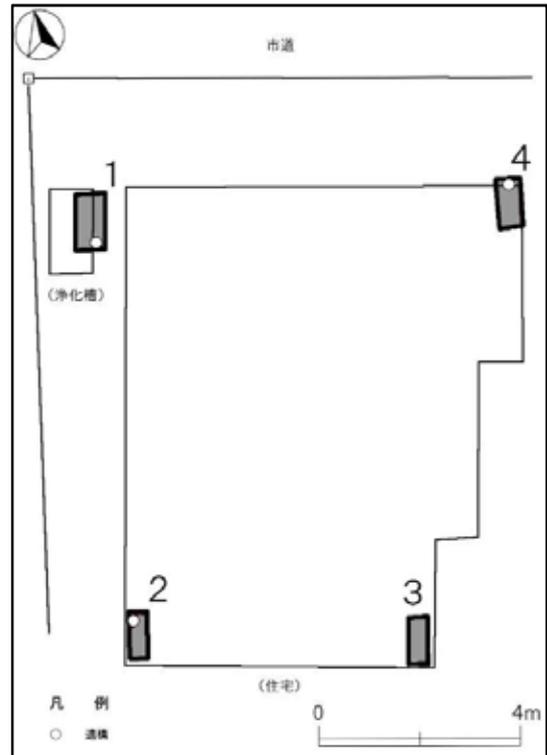
遺物は出土しなかった。

所見

当該地において、小土坑 3 基を検出したものの、遺物を伴わずその時期を明らかにすることはできなかった。今後の工事にあたっては、市専門職員が立ち会い、状況を確認するとともに、必要に応じ記録を作成する必要がある。



第 79 図 個人用住宅新築工事 位置図



第 80 図 個人用住宅新築工事 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑 1 小土坑確認状況



試掘坑 2 小土坑確認状況



試掘坑 4 小土坑確認状況

写真 38 個人用住宅新築工事

3. a u 携帯電話基地局 能代清助町局建設工事

調査地 能代市清助町445番内

調査日 令和元年10月25日

調査面積 2 m² (調査対象面積 9 m²)

調査に至る経緯

KDDI株式会社は、能代市清助町に携帯電話無線基地局建設工事を計画していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地が地形等から遺跡が存在する可能性があるかと判断し、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、令和元年10月3日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川河口に近い左岸沖積低地上に位置し、南側には新砂丘の能代公園が控えており、周辺の標高は約3mである。清助町は、16世紀半ばに檜山安東氏により町建てされたとされる能代町の西端に位置し、近世には廻船業で栄えた。近代以降は木材産業が盛んになったが、当該地も木材工場の倉庫敷地として利用されていたようである。地目は宅地であるが、現況は原野となっている。

調査の概要及び結果

調査は、工事による掘削範囲を調査対象とし、1×1.5mの試掘坑1箇所を設定して人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

①層序 []内は層厚

I層：表土 黒褐色土 [23cm]

II層： 灰黄褐色砂質土 [107cm]

III層： にぶい黄褐色土 [4cm～]

②検出遺構と出土遺物

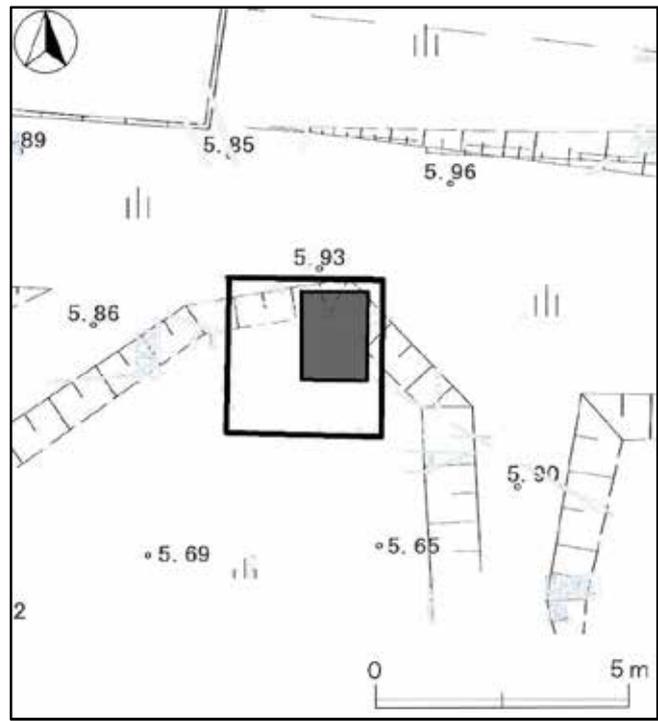
試掘坑内で東西方向に境界線が延びる、平面規模不明で深さ85cmの掘り込みあるいは地業の痕跡を検出したが、埋土上面から煉瓦片が出土したことから近代以降の構築と考えられる。

所見

当該地において、遺跡は存在しないと判断した。



第 8 1 図 au 携帯電話基地局建設工事 位置図



第 8 2 図 au 携帯電話基地局建設工事 試掘坑配置図



調査対象地近景



掘り込み？確認状況



サブトレンチ土層



試掘坑 完掘状況

写真 3 9 au 携帯電話基地局 能代清助町局建設工事

4. 一般廃棄物処理施設整備事業

調査地 能代市竹生字天神谷地122-1 (天神谷地遺跡近接地)

調査日 令和元年11月1日

調査面積 10m²

調査に至る経緯

能代山本広域市町村圏組合は、竹生地区で一般廃棄物処理施設整備事業を計画していることから、能代市教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財の有無を照会した。市教委は、当該地が周知の天神谷地遺跡に近接していることから、事前調査の必要性がある旨を回答した。その結果、令和元年9月19日付けで調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

立地と現況

調査対象地は、米代川右岸の海岸砂丘上に位置し、古代の散布地である天神谷地遺跡の東側に近接している。当該地の現状は雑木林で、付近の標高は10～27mである。周辺の砂丘上には天神谷地遺跡のほか、神田遺跡、ホンコ谷地B遺跡等が分布している。

調査の概要及び結果

調査は、工事による掘削範囲を対象とし、1.2×1.0mの試掘坑を9箇所設定し、重機により掘り下げ遺構・遺物の有無を確認した。周辺の遺跡では、砂丘内部の黒土層から遺物が出土しているため、この黒土層に達する深度まで掘り下げることとした。

①層序 []内は層厚

I層：表土 黒～黒褐色土 [17～64cm] 上部草木根多い

II層： にぶい黄褐～暗灰黄色砂質土

※試掘坑9では、II層上部に黒褐色砂質土[33cm厚]が入る

②検出遺構と出土遺物

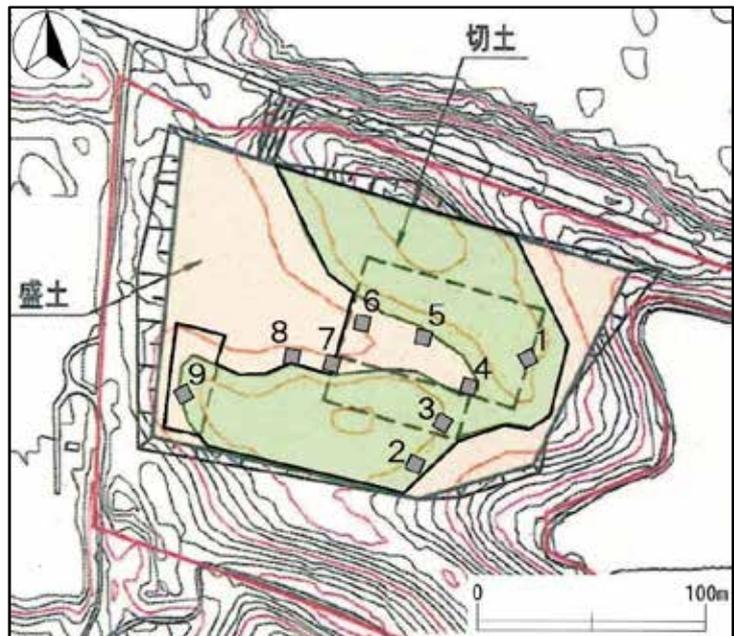
各試掘坑を2.2～2.4mの深さまで掘り下げたが、黒色土層に達せず、遺構・遺物は確認されなかった。

所見

当該地において、遺構・遺物は確認できなかったものの、今回の掘削深度以下に黒色土層が存在する可能性が残されているので、工事の際には立ち会う必要がある。



第 8 3 図 一般廃棄物処理施設整備事業 位置図



第 8 4 図 一般廃棄物処理施設整備事業 試掘坑配置図



調査対象地近景



試掘坑 7 完掘状況



試掘坑 4 土層



試掘坑 7 土層



試掘坑 9 土層

写真 4 0 一般廃棄物処理施設整備事業

第2節 小規模発掘調査

(1) 四ツ屋台遺跡発掘調査

調査地 能代市扇田字四ツ屋25-631

調査日 平成29年2月3～6日

調査面積 25㎡

調査に至る経緯

東北電力株式会社は、過去に事業計画されたものの、諸事情により中断されていた能代変電所と民間商業施設建設予定地を結ぶ特別高圧送電線路の新設工事を再開することとなった。鉄塔建設予定地のうち、1箇所が周知の四ツ屋台遺跡の範囲内に位置することから、東北電力は平成28年12月13日付けで文化財保護法第93条に基づく届出書を県教委宛て提出したところ、過去の試掘調査の結果も踏まえ、平成29年2月1日付け教生-1536号文書で事前に発掘調査を実施するよう指示があった。東北電力からの調査依頼を受け、市教委が発掘調査を実施することとなった。

立地と現況

調査対象地は、檜山川左岸、四ツ屋集落背後の志戸橋野台地北縁に位置する。現況は畑地で、付近の標高は40m前後である。昭和49年度の能代市遺跡分布調査で古代の遺跡であることが確認され、平成20年度の本事業に伴う試掘調査では、柱穴様土坑4基を検出、土師器が出土している。

調査の概要及び結果

調査は、鉄塔脚の建設時の掘削範囲約2.5×2.5m4箇所を調査範囲とし、重機による表土除去のあと人力で精査し、検出した遺構について調査を行った。調査の記録は図面と写真により、図面は任意に設定したポイントを基準に測量し、個別の遺構は1/20、調査区全体を1/50の縮尺で作成した。写真撮影には、APS-Cサイズ1,600万画素のデジタルカメラを使用した。

①層序 []内は層厚

I層：耕作土 黒褐色(10YR3/2)土 地山小ブロック2% [10～15cm]

II層： にぶい黄褐色(10YR4/3)土主体 I層土混 [8cm]

III層：地山 にぶい黄褐色(10YR5/4)土

②検出遺構と出土遺物

調査の結果、平安時代に属すると思われる土坑1基と柱穴様土坑3基を検出した。

SK01土坑は調査区南西のb脚部分、II層上面で確認した。全体の約1/2は調査区外に出るものの略楕円形を呈すると推定され、長軸110cm以上、短軸124cm、確認面からの深さ22cmを測る。埋土は人為堆積と見られ、土師器坏が出土している。

柱穴様土坑は調査区南東のa脚部分、II層上面で確認した。SKP01柱穴様土坑は略円形を呈し、上面径44×38cm、底径33×29cm、深さ21cmを測る。底面には直径約20cm、深さ5cmの凹みがある。遺物は出土しなかった。SKP02柱穴様土坑は略円形を呈し、上面径40cm、底径36cm、深さ18cm

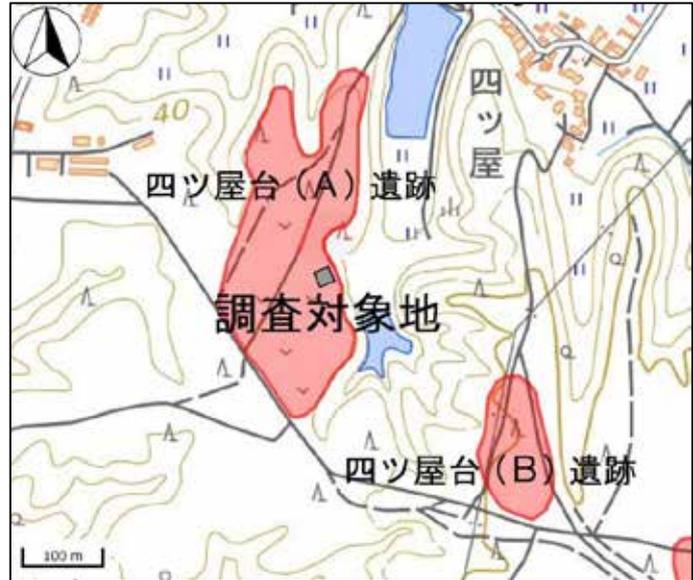
を測る。埋土から土師器坏、土師器甕が出土している。SKP03柱穴様土坑は略円形を呈し、上面径37cm、底径24cm、深さ19cmを測り、遺物の出土はなかった。SKP02、03は重複しており、SKP03が古い。

所見

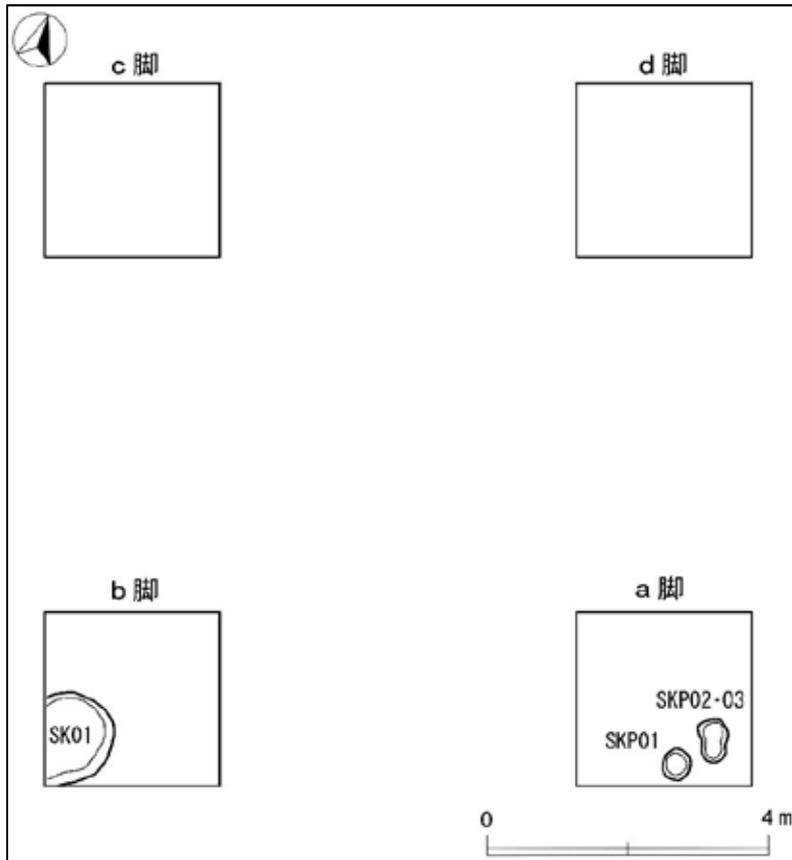
今回の調査では住居跡は確認できなかったものの、本調査地点は平安時代の集落の一部を構成するものと考えられる。



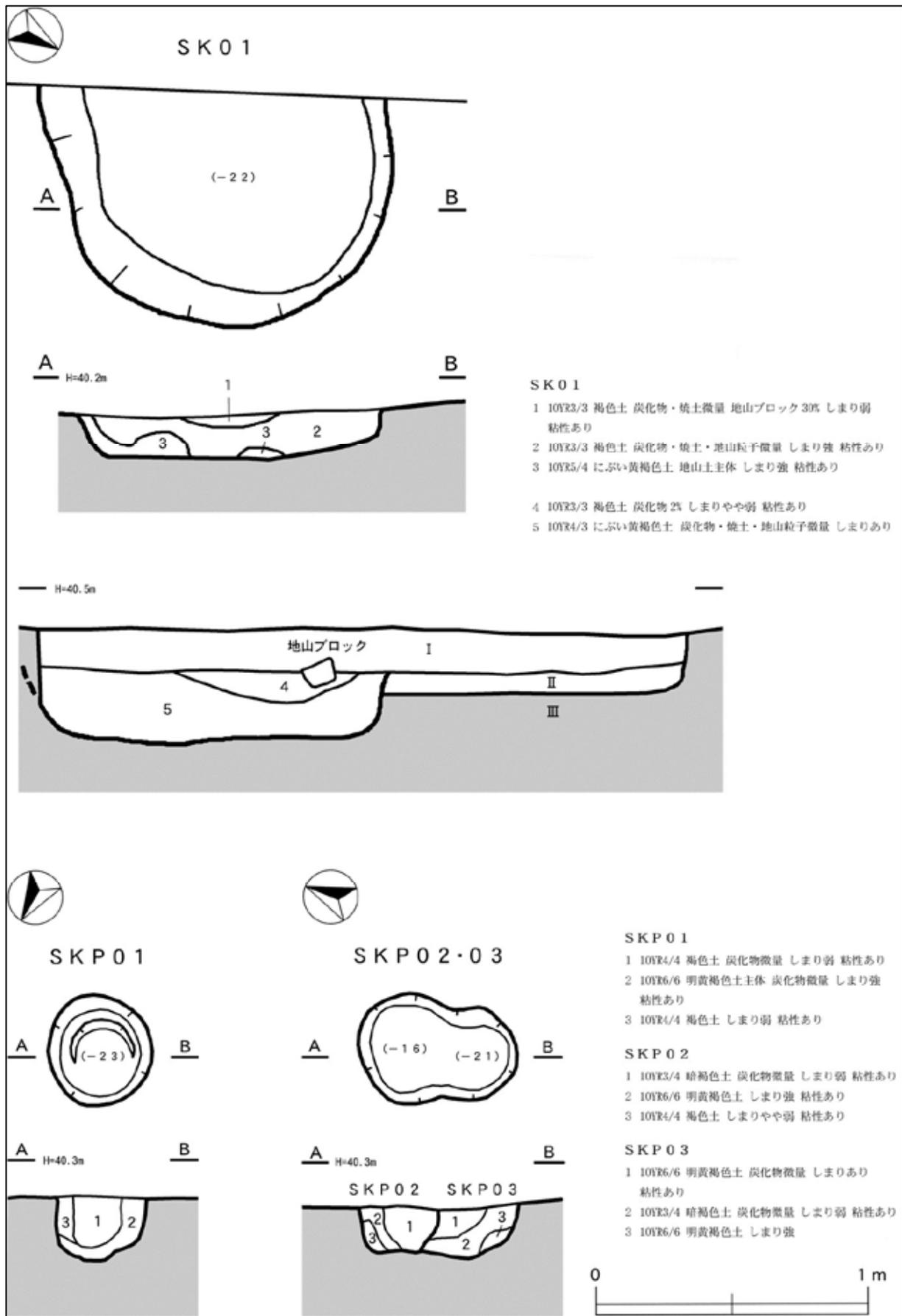
第85図 四ツ屋台遺跡発掘調査 位置図①



第86図 四ツ屋台遺跡発掘調査 位置図②



第87図 四ツ屋台遺跡 遺構配置図



第88図 四ツ屋台遺跡 SK01土坑、SKP01~03柱穴様土坑



遺跡近景（北東→）



調査対象地 近景（南西→）



a 脚遺構確認状況（北西→）



b 脚遺構確認状況（北東→）



c 脚完掘状況（南西→）



d 脚完掘状況（南東→）



SK01土坑 確認状況（北東→）



SK01土坑 土層（北東→）

写真41 四ツ屋台遺跡発掘調査（1）



SK01土坑 完掘状況（北西→）



SKP01柱穴様土坑 確認状況（北西→）



SKP01柱穴様土坑 土層（北西→）



SKP01柱穴様土坑 完掘状況（北西→）



SKP02・03柱穴様土坑 確認状況（南西→）



SKP02・03柱穴様土坑 土層（南西→）



SKP02・03柱穴様土坑 完掘状況（南西→）



遺構内出土遺物

写真42 四ツ屋台遺跡発掘調査（2）

(2) 小友IV遺跡発掘調査

調査地 能代市中沢字小友18-2

調査日 平成29年3月6～9日

調査面積 41㎡

調査に至る経緯

東北電力株式会社は、過去に事業計画されたものの、諸事情により中断されていた能代変電所と民間商業施設建設予定地を結ぶ特別高圧送電線路の新設工事を再開することとなった。市教委は、当該地が周知の小友IV遺跡に近接していることから、事前調査の必要性がある旨を回答していたため、改めて平成28年12月13日付けで試掘調査の依頼があり、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。調査中、遺構を検出したため、直ちに記録作成に着手した。

立地と現況

調査対象地は、下中沢集落の北西約400m、志戸橋野台地北端に位置し、標高約37m、東側水田との比高は約25mである。北西100mには古代の小友IV遺跡が近接しているほか、周辺には縄文から近世までの遺跡が密集している。当該地は北西に延びる細い舌状台地上にあり、現況は水田である。

調査の概要及び結果

調査は、鉄塔脚の建設時の掘削範囲約3.2×3.2m4箇所を対象とし、重機による表土除去のあと人力で精査し、検出した遺構について調査を行った。調査の記録は図面と写真により、図面は任意に設定したポイントを基準に測量し、個別の遺構は1/20、調査区全体を1/50の縮尺で作成した。写真撮影には、APS-Cサイズ1,600万画素のデジタルカメラを使用した。

①層序 []内は層厚

開田時の造成工事による削平が推測される。

I層：耕作土 暗褐色(10YR3/3)土 炭化物微量 [20cm]

II層：地山 にぶい黄褐色(10YR4/3)土

②検出遺構と出土遺物

調査の結果、縄文時代に属すると思われる陥し穴状遺構2基を検出した。2基は台地の軸線と平行に、並列するように位置していた。遺構内及び周辺から遺物の出土はなかった。

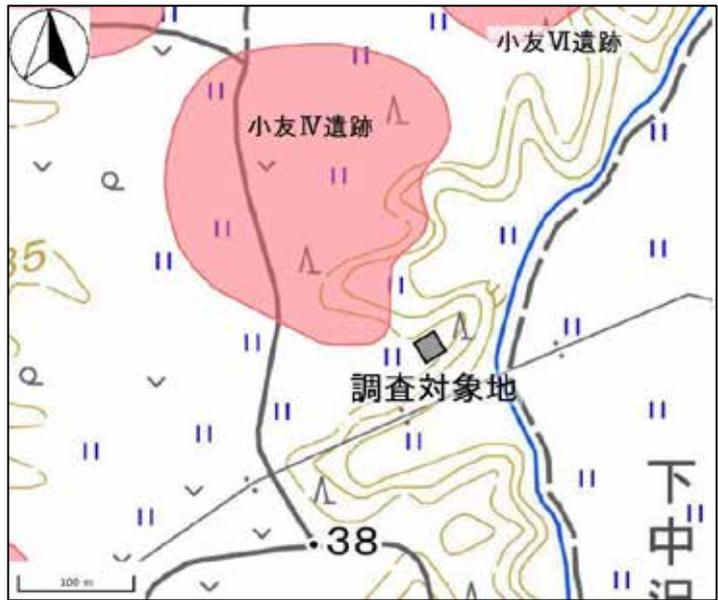
SKT01陥し穴状遺構は、a脚部分のII層上面で検出し、南西側は調査区外に出る。確認できる長軸215cm、最大幅56cm、確認面からの深さ123cmを測る。SKT02陥し穴状遺構はb脚部分のII層上面で検出し、南西側は調査区外に出る。確認できる長軸200cm、最大幅60cm、深さ109cmを測る。

所見

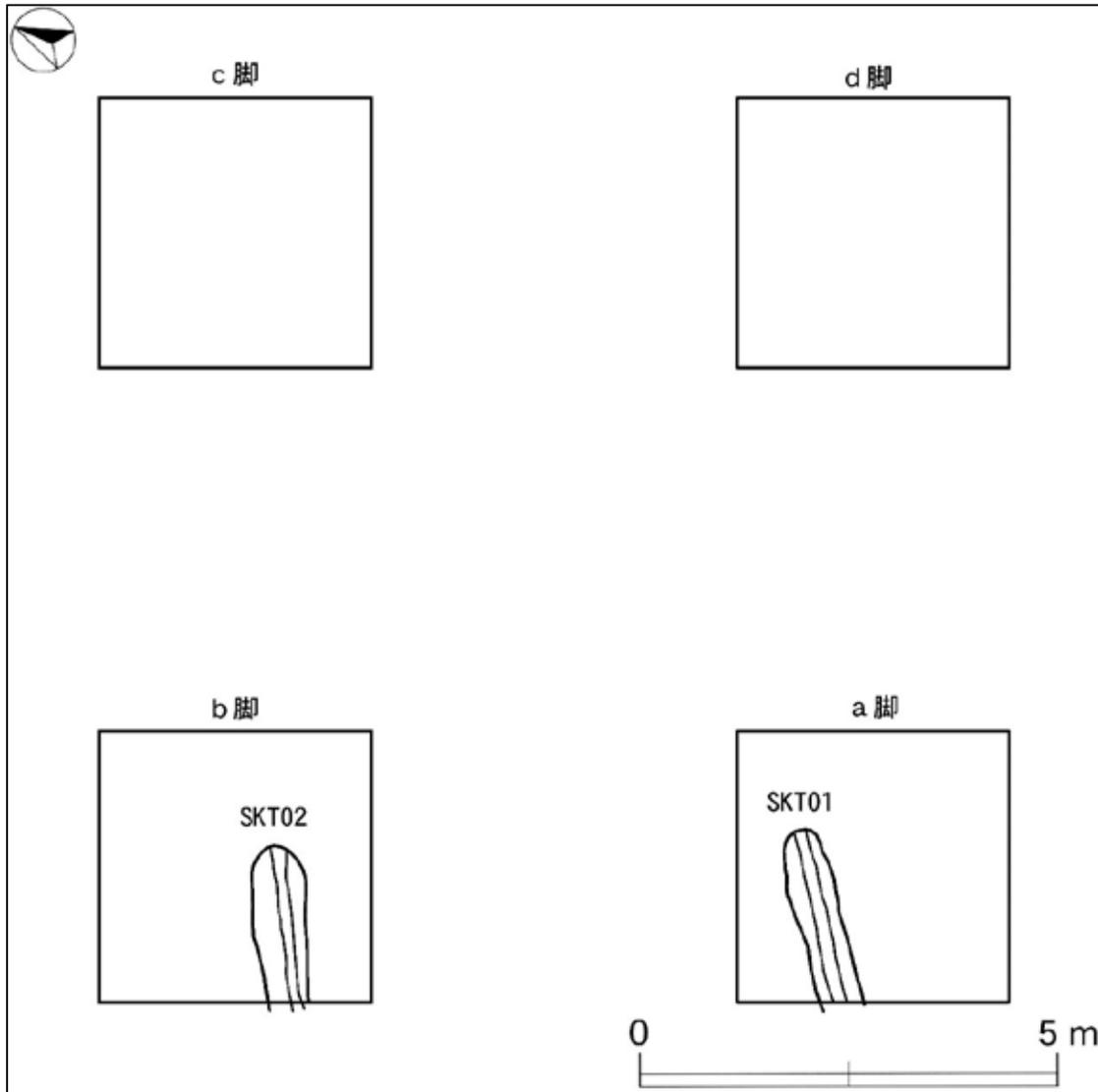
陥し穴状遺構は、調査区の南西200mにある梯ノ台遺跡でも平成6年度の調査で11基が検出されており、周辺の台地は縄文時代には狩猟場として利用されていたことが推察される。今回の調査結果により、周知の小友IV遺跡の範囲を南東に拡大し、古代(平安)と縄文の複合遺跡とした。



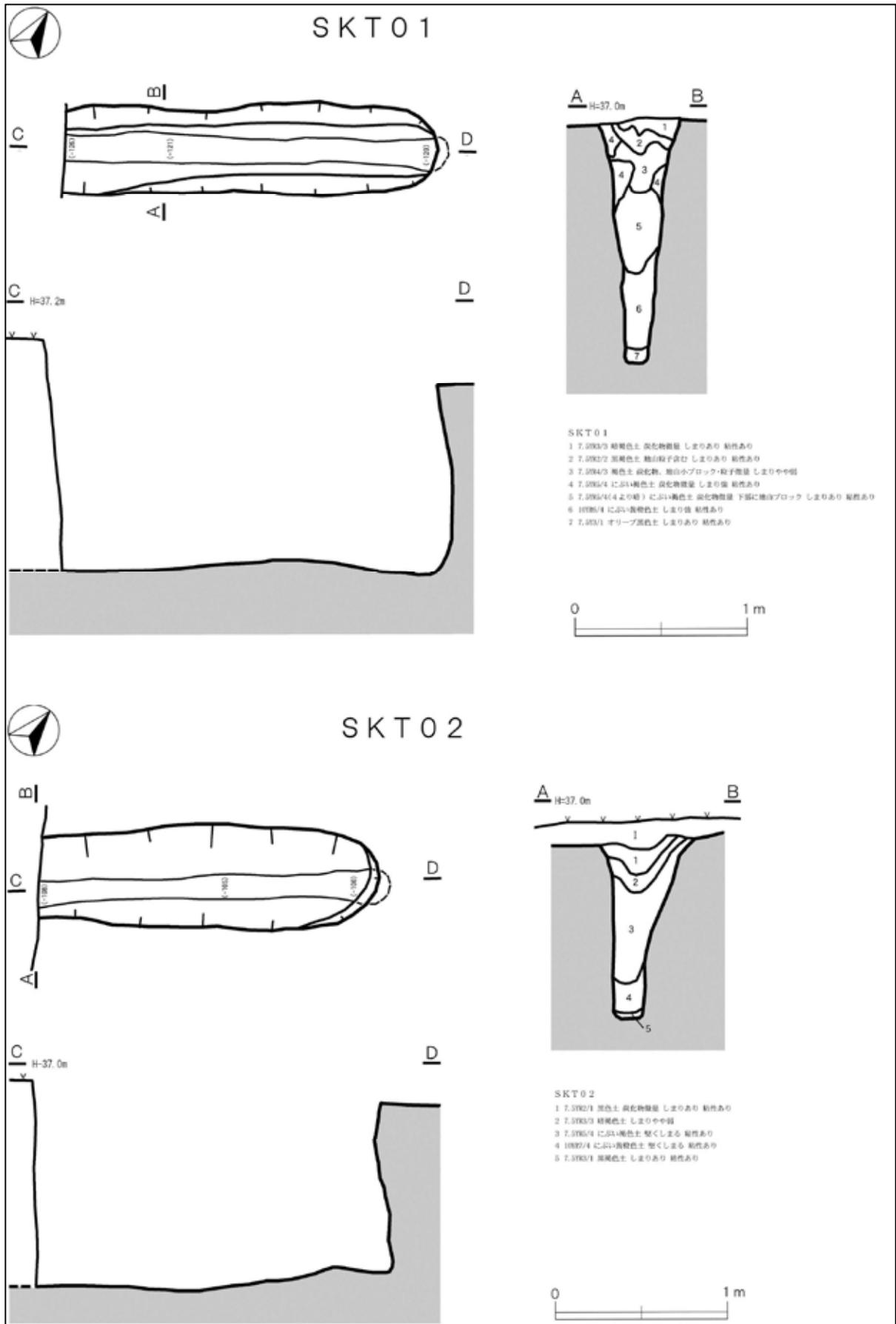
第 89 図 小友IV遺跡発掘調査 位置図①



第 90 図 小友IV遺跡発掘調査 位置図②



第 91 図 小友IV遺跡 遺構配置図



第92図 小友IV遺跡 SKT01・02 陥し穴状遺構



遺跡近景 (南西→)



調査対象地 近景 (南→)



a 脚遺構確認状況 (南西→)



b 脚遺構確認状況 (南西→)



c 脚完掘状況 (南西→)



d 脚完掘状況 (南西→) ※中央は攪乱



S K T 0 1 陥し穴状遺構 確認状況 (北西→)



S K T 0 2 陥し穴状遺構 確認状況 (北東→)

写真 4 3 小友IV遺跡発掘調査 (1)



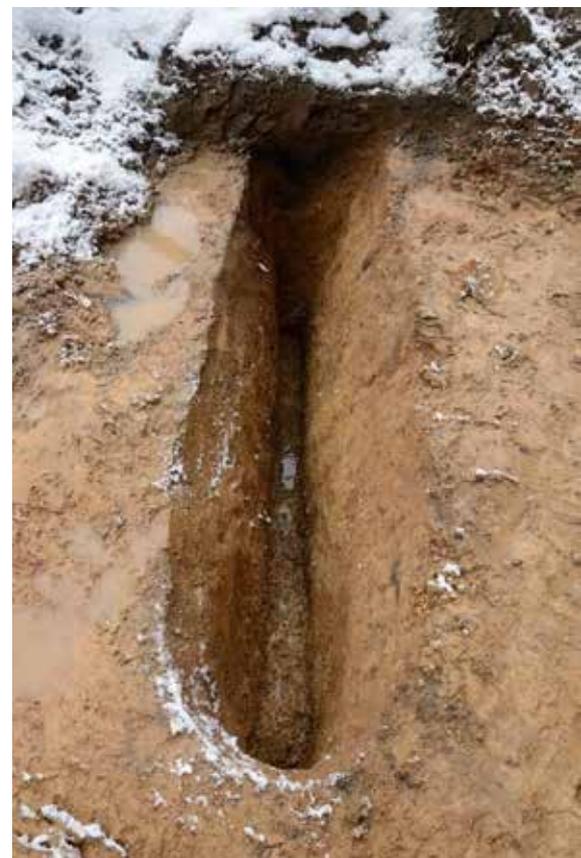
SKT01 落とし穴状遺構 土層 (北東→)



SKT01 陥し穴状遺構 完掘状況 (北東→)



SKT02 落とし穴状遺構 土層 (北東→)



SKT02 陥し穴状遺構 完掘状況 (北東→)

写真44 小友IV遺跡発掘調査(2)

(3) 梯ノ台遺跡発掘調査

調査地 能代市中沢字梯ノ台42
調査日 令和元年7月25～29日
調査面積 287㎡

調査に至る経緯

東北電力株式会社は、周知の梯ノ台遺跡内に所在する能代変電所内の変電設備増設のため、平成31年4月17日付けで文化財保護法第93条に基づく届出書を秋田県教育委員会宛て提出した。県教委からは過去の調査の結果も踏まえ、平成31年4月24日付け教生一240号文書で事前に発掘調査を実施するよう指示があった。東北電力からの調査依頼を受け、市教委が発掘調査を実施することとなった。

立地と現況

調査対象地は、米代川下流左岸に展開する志戸橋野台地北端の台地上にあり、下中沢集落の西約750mに位置する。周辺の標高は約36mで、沖積地との標高差は約20mである。当該地西側の同一台地上には蟻ノ台I～IV遺跡があるほか、周辺には縄文から近世までの遺跡が密集している。

梯ノ台遺跡は、これまで東北電力株式会社の開閉所新設工事(平成6年)、変電設備増設工事(平成25年)に伴う発掘調査が行われている。平成6年の調査では、縄文時代に属すると推測される落とし穴状遺構、平成25年の調査では時期不明の土坑等が検出されている。今回の調査対象地は、平成25年調査区の南東側隣接地で、現況は一部アスファルト舗装された変電所敷地である。

調査の概要及び結果

調査は、変電設備の基礎工事の掘削範囲のうち、既調査範囲を除いた部分を調査対象とし、重機により地山または地山漸移層まで掘り下げたあと、人力による精査を行った。排土置場の関係で、調査区を3分割し、北西側から順次調査を実施した。調査の記録は図面と写真により、図面は任意に設定したポイントを基準に測量し、個別の遺構は1/20、調査区全体を1/100の縮尺で作成した。写真撮影には、フルサイズ3,600万画素のデジタルカメラを使用した。

①層 序 []内は層厚

I層	アスファルト	[7cm]
II層	砂利(造成土)	[20cm]
III層	造成土	[10cm]
IV層	黒褐色(10YR3/2)土 旧表土?	[15cm]
V層	灰黄褐色(10YR5/2)土 地山漸移層	[7cm]
VI層	灰オリーブ色(5Y6/2)土 地山粘土	

②検出遺構と出土遺物

調査の結果、調査区内にはアースケーブルの埋設溝や樹木の伐根跡などによる攪乱が見られ、調査区北部では時期不明の柱穴様土坑1基を検出したが、それ以外の遺構の検出、遺物の出土はなかった。柱穴様土坑は確認面での長軸31cm、短軸15cmでインゲン豆様の平面形を呈し、深さは10cmで底面は平坦でなく、やや斜めに掘

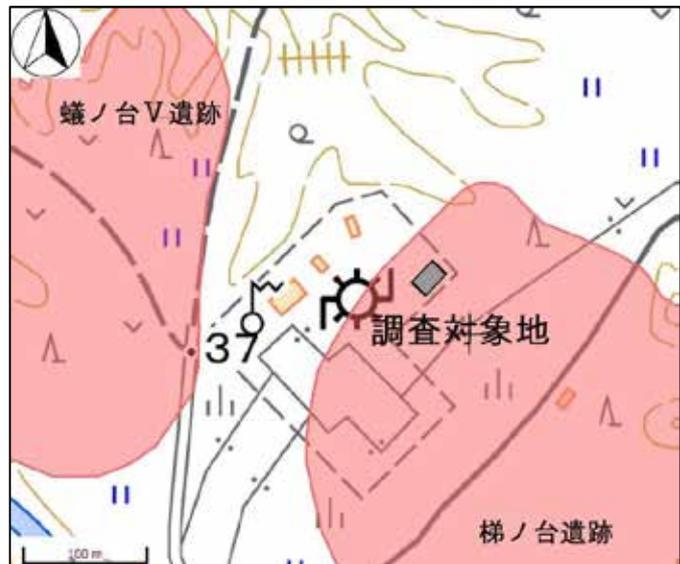
り込まれている。

所 見

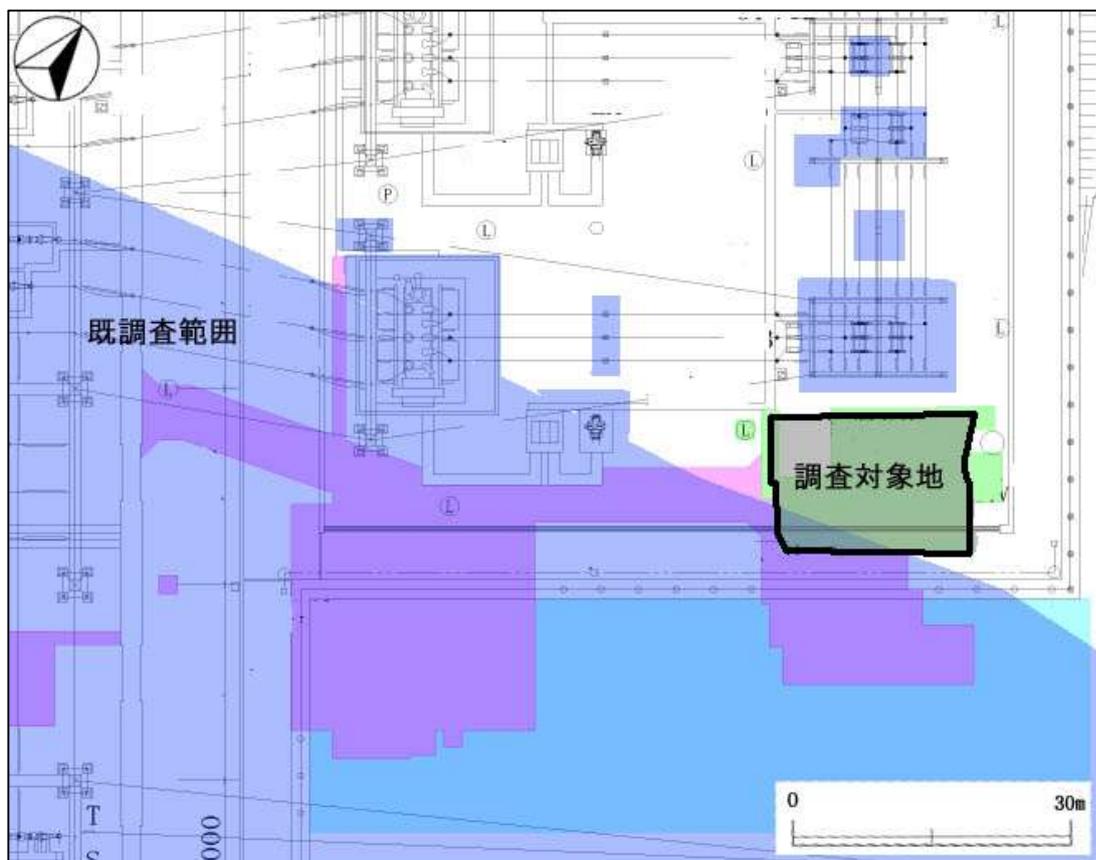
柱穴様土坑は、平成25年の調査では、今回の調査区から西に約60m離れた地点で比較的密に分布していることが確認されている。柱穴様土坑の時期や、時代による台地の利用状況を明らかにするため、今後も時機を捉えて情報の蓄積に努めていく必要がある。



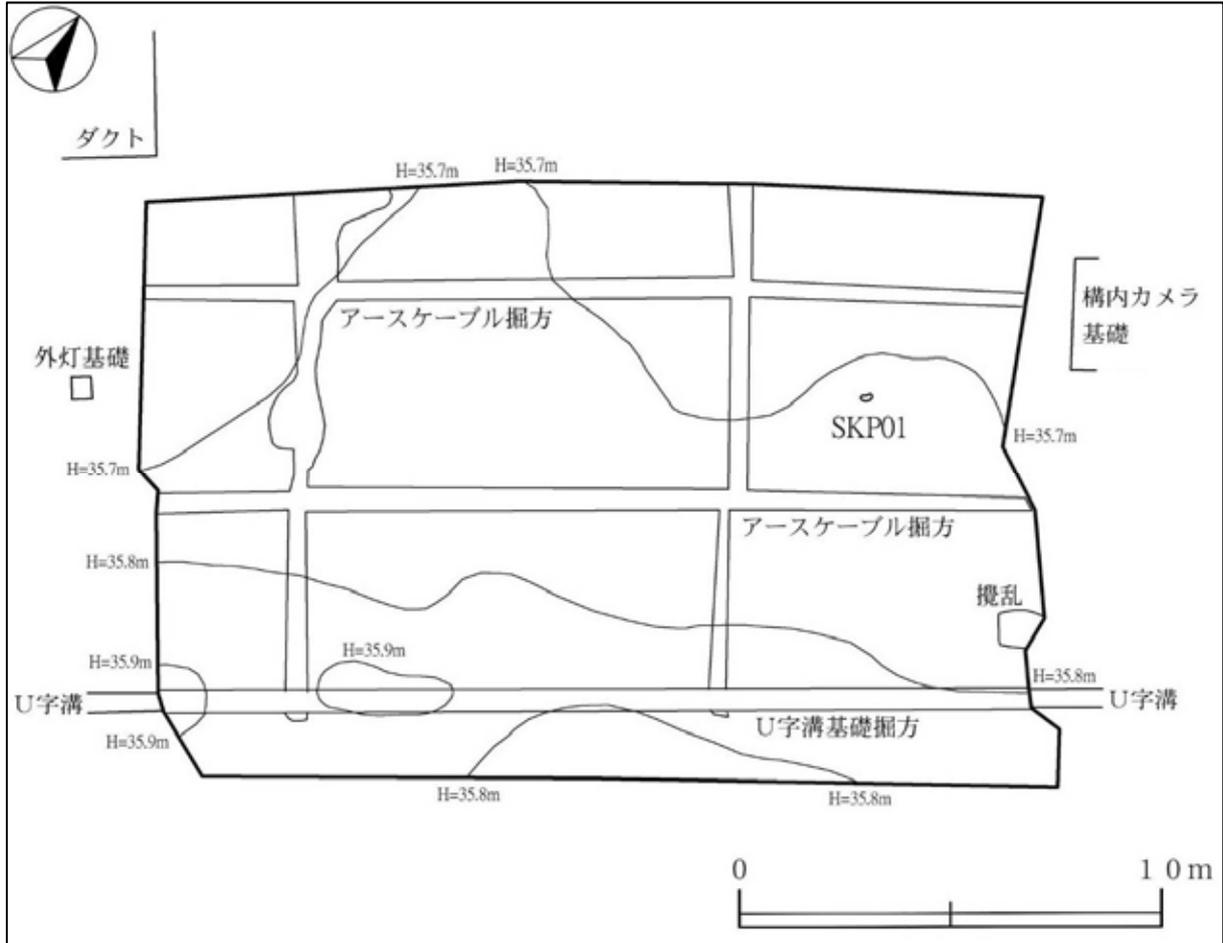
第93図 梯ノ台遺跡発掘調査 位置図①



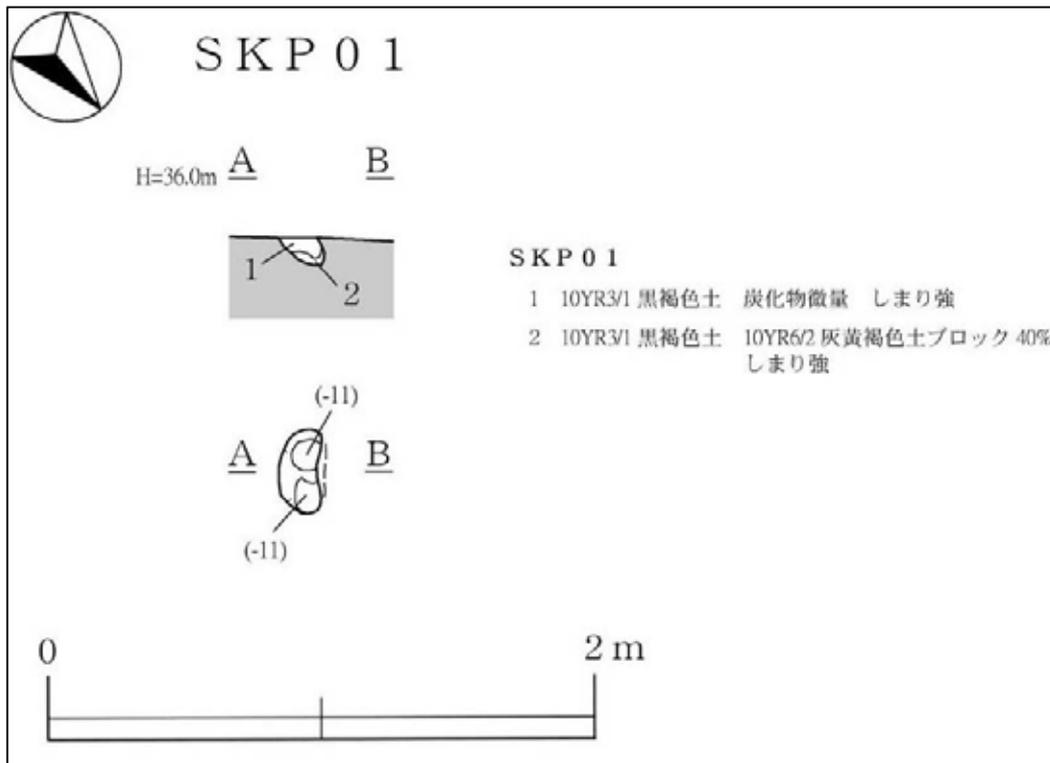
第94図 梯ノ台遺跡発掘調査 位置図②



第95図 梯ノ台遺跡発掘調査 位置図③



第96図 梯ノ台遺跡 遺構配置図



第97図 梯ノ台遺跡 SKP01柱穴様土坑



調査対象地近景（南西→）



調査対象地西部精査状況（南西→）



調査対象地中央部精査状況（南西→）



調査対象地東部精査状況（南西→）



SKP01 柱穴様土坑 確認状況（南東→）



SKP01 柱穴様土坑 土層（北東→）



SKP01 柱穴様土坑 完掘状況（南東→）

写真45 梯ノ台遺跡発掘調査

報告書抄録

ふりがな	しないいせきしくつ・かくにんちょうさほうこくしょ							
書名	市内遺跡試掘・確認調査報告書							
副書名	平成25年度～令和元年度							
巻次								
シリーズ	能代市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第12集							
編著者名	山崎和夫							
編集機関	能代市教育委員会							
所在地	〒018-3192 秋田県能代市二ツ井町字上台1番1号 TEL:0185-73-5285							
発行年月日	西暦2020年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° / ′ / ″	東経 ° / ′ / ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
(開発予定地)	字仁井田白山	05202	—	40 11 14	140 03 29	20130816	3	住宅建設
金ヶ沢IV遺跡	比八田字金ヶ台	05202	2-18	40 15 03	140 03 57	20130819～ 20130830	113	風力発電
(開発予定地)	轟	05202	—	40 12 59	140 06 40	20131015～ 20131018	99	ほ場整備
下田平遺跡 大沢Ⅰ遺跡 大沢Ⅱ遺跡	二ツ井町麻生	05202	19-9 19-80 19-90	40 12 10	140 16 56	20131028～ 20131127	1,295	ほ場整備
比八田中台Ⅱ遺跡	比八田字中台	05202	2-10	40 15 59	140 03 38	20131119	1	倉庫増築
新富根Ⅱ遺跡	二ツ井町飛 根字新富根	05202	19-67	40 13 04	140 09 42	20131210	2	住宅建築
(開発予定地)	二ツ井町種 字学校前	05202	—	40 14 08	140 13 01	20140318	7	携帯基地局
(開発予定地)	中沢字大沢 扇田字樋口	05202	—	40 09 55 40 11 07	140 05 00 140 05 08	20140320～ 20140417	13	送電線建設
(開発予定地)	磐字杉沢野	05202	—	40 14 39	140 03 01	20140416	3	携帯基地局
(開発予定地)	浅内字石丁家上	05202	—	40 01 12	140 01 12	20140603	11	太陽光発電所
平影野遺跡	向能代字平影野	05202	2-39	40 13 12	140 02 18	20141106	34	市道建設
(開発予定地)	二ツ井町小繫	05202	—	40 12 59	140 15 37	20141111	13	道の駅整備
平影野遺跡	向能代字平影野	05202	2-39	40 13 12	140 02 17	20150512	5	住宅新築
(開発予定地)	二ツ井町荷上場	05202	—	40 13 49	140 15 05	20151126～ 20151127	60	ほ場整備

三岳遺跡 三岳館跡	檜山字小木竹沢	05202	2-106 2-105	40 10 49	140 06 36	20151207～ 20151210	109	林道整備
鹹淵遺跡	鹹淵字鹹淵	05202	2-194	40 11 32	140 04 36	201603310	9	住宅改築
平影野遺跡	向能代字平影野	05202	2-39	40 13 13	140 02 18	20160721	100	駐車場整備
(開発予定地)	二ツ井町荷上場	05202	—	40 14 02	140 14 54	20161115～ 20161118	79	ほ場整備
塞ノ神遺跡	河戸川字塞ノ神	05202	2-144	40 09 50	140 02 48	20161220～ 20161221	83	送電線建設
(開発予定地)	中沢字梯ノ台 中沢字新中沢 檜山字新田家ノ前 鹹淵字堤下	05202	—	40 09 49 40 09 56 40 09 57 40 11 11	140 04 26 140 04 51 140 05 10 140 04 55	20170208～ 20180906	76	送電線建設
(開発予定地)	二ツ井町仁鮎	05202	—	40 10 12	140 13 30	20170316～ 20170317	30	ほ場整備
上大野台遺跡	落合字上大野台	05202	2-186	40 13 55	140 02 24	20170321～ 20170323	269	ほ場整備
(開発予定地)	朴瀬字八森坂	05202	—	40 12 59	140 04 34	20170407	82	風力発電事業
(開発予定地)	中沢字大沢 中沢字箒沢	05202	—	40 09 59 40 09 21	140 04 59 140 04 44	20170502～ 20170512	112	土砂採取
(開発予定地)	字仁井田白山	05202	—	40 11 14	140 03 28	20170613	1	住宅建設
(開発予定地)	竹生字笹ノ台	05202	—	40 13 58	140 03 04	20171127～ 20171128	48	ほ場整備
小掛遺跡	二ツ井町小掛	05202	19-7	40 10 31	140 13 27	20171129～ 20171201	280	ほ場整備
塩干田遺跡 戸川向遺跡 西堂前遺跡	榊・河戸川	05202	2-139 2-211 2-212	40 10 40 40 10 45 40 10 48	140 02 19 140 02 10 140 01 52	20180319～ 20180323	495	ほ場整備
八森坂Ⅰ遺跡	朴瀬字八森坂	05202	2-53	40 12 56	140 04 37	20180326	15	鉄塔建替
船沢遺跡	浅内字船沢	05202	2-178	40 09 56	140 02 09	20180328～ 20180405	865	土砂採取
(開発予定地)	字九郎左エ門笹台	05202	—	40 09 13	140 03 07	20180510	5	鉄塔建替
(開発予定地)	向能代字トトメキ	05202	—	40 13 34	140 02 39	20180625	23	バス停設置
竹生Ⅱ遺跡	竹生字竹生	05202	2-185	40 15 20	140 02 05	20181130	72	ポンプ場建設
烏野遺跡	二ツ井町駒形	05202	19-4	40 12 46	140 11 07	20190318	28	排土置場造成
(開発予定地)	竹生字笹ノ台	05202	—	40 14 00	140 03 33	20190319～ 20190320	40	ほ場整備
下相染下遺跡	榊・河戸川	05202	2-174	40 10 24	140 02 10	20180325～ 20180328	129	ほ場整備

鹹淵遺跡	鹹淵字鹹淵	05202	2-194	40 11 39	140 04 32	20190424	2	住宅改築
(開発予定地)	檜山字赤館	05202	—	40 10 13	140 07 02	20190603	2	住宅改築
(開発予定地)	清助町	05202	—	40 12 51	140 01 16	20191025	2	携帯基地局
(開発予定地)	竹生字天神谷地	05202	—	40 15 46	140 01 33	20191101	10	廃棄物処理施設
四ツ屋台遺跡	扇田字四ツ屋	05202	2-113	40 10 32	140 05 33	20170203～ 20170206	25	送電線建設
小友IV遺跡	中沢字小友	05202	2-132	40 09 54	140 04 40	20170306～ 20170309	41	送電線建設
梯ノ台遺跡	中沢字梯ノ台	05202	2-128	40 09 46	140 04 22	20190725～ 20190729	287	変電設備増設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
下田平遺跡	遺物包含地	縄文	柱穴様土坑		縄文土器・石器			
大沢Ⅰ遺跡	集落跡	縄文	土坑 2基		縄文土器・石器			
大沢Ⅱ遺跡	集落跡	縄文	竪穴建物跡 1軒		縄文土器・石器			
比八田中台Ⅱ遺跡	遺物包含地	古代	なし		土師器			
新富根Ⅱ遺跡	遺物包含地	古代	なし		土師器			
平影野遺跡	集落跡	古代	柱穴様土坑・焼土遺構		須恵器・土師器		平成26年度調査分	
平影野遺跡	集落跡	古代	土坑		土師器		平成27年度調査分	
三岳遺跡	遺物包含地	縄文・古代	土坑2基・焼土遺構		土師器			
三岳館跡	館跡	縄文・中世	土坑・溝跡		縄文土器・フレイク			
平影野遺跡	集落跡	古代	竪穴建物跡・土坑		須恵器・土師器		平成28年度調査分	
上大野台遺跡	遺物包含地	縄文・弥生	小土坑		縄文土器・弥生土器			
小掛遺跡	遺物包含地	縄文	なし		石器			
戸川向遺跡	散布地	古代	土坑		須恵器・土師器			
西堂前遺跡	散布地	古代	なし		土師器			
船沢遺跡	集落跡	古代	竪穴建物跡・土坑・溝跡		須恵器・土師器			
烏野遺跡	集落跡	縄文・古代	なし		縄文土器			
下相染下遺跡	遺物包含地	古代	なし		須恵器・土師器・木材			
四ツ屋台遺跡	遺物包含地	古代	土坑1基・柱穴様土坑		土師器			
小友IV遺跡	遺物包含地	縄文	陥し穴状遺構2基		なし			
梯ノ台遺跡	遺物包含地	縄文	柱穴様土坑		なし			
要 約	平成25～令和元年度に実施した開発事業に伴う事前の試掘調査等報告書である。							

能代市文化財調査報告書第12集
市内遺跡試掘・確認調査報告書
—平成25年度～令和元年度—

印刷・発行 令和2年3月
編集・発行 能代市教育委員会
〒018-3192
秋田県能代市二ツ井町字上台1番1号
TEL 0185-73-5285
FAX 0185-73-6459
印刷・製本 株式会社 大瀧印刷

